

VERITAS NetBackup™ 3.4

User's Guide

UNIX (日本語版)

2001年1月
P/N 30-000077-011


VERITAS

免責事項

本書に記載されている情報は、予告なしに変更される場合があります。VERITAS Software Corporation は、本書に関して、商品性や特定目的に対する適合性の黙示保証などの一切の保証を行いません。VERITAS Software Corporation は、本書に含まれるエラーや本書の提供、遂行、または使用に伴う付随的または間接的な損害に対して一切の責任を負わないものとします。

著作権

Copyright © 1993-2000 VERITAS Software Corporation. All rights reserved. VERITAS は、米国およびその他の国における VERITAS Software Corporation の登録商標です。VERITAS のロゴ、VERITASNetBackup、および VERITASNetBackup BusinessServer は、VERITAS Software Corporation の商標です。その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

本ソフトウェアの一部は、RSA Data Security, Inc. の MD5 Message-Digest Algorithm から派生したものです。Copyright 1991-92, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All rights reserved.

Printed in the USA, January 2001.

VERITAS Software Corporation
1600 Plymouth St.
Mountain View, CA 94043
電話 650-335-8000
ファックス 650-335-8050
www.veritas.com

目次

『NetBackup User's Guide - UNIX』について	ix
『NetBackup User's Guide - UNIX』の構成	ix
関連マニュアル	x
表記規則	xi
一般の表記規則	xi
「注」と「注意」の違い	xi
キーの組み合わせ	xi
コマンドの書式	xii
テクニカル サポート	xii
第 1 章 : NetBackup の概要	1
ユーザ指定の操作	2
ユーザ インタフェース	2
プログレス ログとメール通知	4
バックアップおよびアーカイブのウィンドウ	4
自動バックアップ	4
除外リストとインクルード リスト	5
別のクライアントへのリストア	5
NetBackup を使用する前に	6
NetBackup を使用する際の注意事項と留意事項	6
管理者への確認事項	6
NetBackup に必要なファイル アクセス権	7

第2章:Java インタフェースの使い方	9
Java インタフェースの起動	11
UNIX プラットフォームから起動する場合	11
Java インタフェースのウィンドウ マネージャの設定	11
Windows プラットフォームから起動する場合	12
タイムゾーンの調整	13
ファイルの検索方法と指定方法に関するヒント	16
ディレクトリ ツリー内の移動	16
ファイルのアイコン	17
ファイルのフィルタ処理	17
カラムの並べ替え	17
ファイルおよびフォルダの指定	18
ファイルおよびフォルダの指定解除	18
バックアップおよびアーカイブの実行	19
リストアの実行	23
リストアの実行に関する注	23
リストアするファイルとフォルダの検索に関するヒント	23
基本的なリストアの実行	24
バックアップおよびリストアの進行状況の表示	29
高度なリストア手順	30
リストアするファイルの検索	30
バックアップ日付を指定したリストア	31
日付の範囲の設定	32
フォルダの旧バージョンのリストア	34
別のパスへのファイルのリストア	35
別の場所へのすべてのリストア	35
複数の異なる場所へのファイル別およびディレクトリ別のリストア	37
フォルダのトゥルー イメージのリストア	39
トゥルー イメージのリストアと上書き	40
トゥルー イメージのリストア手順	40

リンクの解決	41
ヒントとトラブルシューティング	43
マウスの右ボタンによって表示されないポップアップメニュー	43
同じ日付が指定された複数のバックアップの区別	43
一覧の初期状態で表示されないファイルのリストア	43
ファイルのマーク解除に長い時間がかかる	44
無効なクライアントタイプを選択すると問題が発生する	44
第3章：メニュー インタフェースの使い方	45
メニュー インタフェースの起動	46
バックアップまたはアーカイブの実行	46
リストアの実行	51
ディレクトリのトゥルー イメージのリストア	61
別のクライアントへのリストア	63
リンクの解決	65
操作の進行状況の確認	65
第4章：X-Windows インタフェースの使い方	67
グラフィカル インタフェースの起動	68
バックアップおよびアーカイブの実行	69
リストアの実行	74
基本的なリストア手順	74
簡略化したリストア手順	82
使用可能なバックアップまたはアーカイブの一覧表示	82
最新のバックアップのリストア	83
最新バージョンのディレクトリのリストア	83
高度なリストア操作	84
別のクライアントへのリストア	84
バックアップ日付を指定したリストア	86
ディレクトリの旧バージョンのリストア	87
ディレクトリのトゥルー イメージのリストア	88

リンクの解決	91
操作の進行状況の確認	91
プログレス ログの読み方	93
メール通知	93
プログレス ログ ファイルの削除	93
バックアップとアーカイブの一覧の取得	93
ファイルやディレクトリの検索および選択	94
ディレクトリ ツリー内の移動	94
ディレクトリ ツリー内を下に移動する	94
ディレクトリ ツリー内を上に移す	94
ディレクトリの内容の表示	94
日付によるフィルタ処理	95
ファイル名によるフィルタ処理	95
ディレクトリの表示レベル数の変更	95
バックアップ、アーカイブ、またはリストア対象の選択	95
選択したファイルのプレビュー	96
[ディレクトリ構造] 表示区画と [ファイル] 表示区画のフォーマットの変更 ..	96
ディレクトリ構造を表示する	96
ディレクトリの表示レベル数を表示する	96
最新のバックアップまたはすべてのバックアップを表示する	96
ファイルの詳細を表示する	97
表示内容を更新する	97
第5章 : xbp および bp のリファレンス ガイド	99
グラフィカル ユーザ インタフェース (xbp)	100
メニューおよびダイアログ ボックスで使用される特殊記号	100
xbp の設定	100
[xbp_main] ウィンドウ	102
[ファイル] メニュー	103
[編集] メニュー	105

[表示]メニュー	106
[バックアップ]メニュー	107
[リストア]メニュー	109
[ヘルプ]メニュー	110
[検索するディレクトリ]ボックス	111
[日付の範囲]ボックス	113
[バックアップと関連するキーワードフレーズ]ボックス	115
[バックアップイメージ]表示区画	116
[ディレクトリの深さ]ボックス	118
[ファイル名フィルタ]ボックス	119
[ディレクトリ構造]表示区画と[ファイル]表示区画	120
[xbp_config]ダイアログボックス	122
[xbp_altpath]ダイアログボックス	124
[xbp_confirm]ダイアログボックス	125
[xbp_progress]ダイアログボックス	127
メニュー インタフェース (bp)	128
メインメニュー	128
[Backup Menu]	129
[Backup of Files and Directories]メニュー	130
[Archive of Files and Directories]メニュー	132
データベースのバックアップメニュー	133
[Restore Menu]	133
[Restore Backups]メニュー	135
[Restore Archives]メニュー	138
[Restore Raw Partition Backups]メニュー	139
[Restore Auspex FastBackup Raw Partition Backups]メニュー	139
[Restore True Image Backups]メニュー	140
データベースのリストアメニュー	140
共通画面	141
バックアップまたはアーカイブの検索画面	141

リストアの検索画面	142
検索画面のオプション	143
編集 / 表示画面	144
表示 / 削除画面	145
付録 A : システム管理者	147
別のクライアントへのリストア	148
サーバ指定のリストアの無効化	153
AFS のバックアップのリストア	154
ボリュームおよびバイスパーティションのブラウズとマーキング	154
別のボリュームおよびバイスパーティションへのリストア	154
raw パーティションのリストア	156
raw パーティションに関する留意事項	156
必要なメディアのプレビュー	159
用語集	161
索引	185

『NetBackup User's Guide - UNIX』について

本書では、UNIX プラットフォームで NetBackup を使用して、バックアップ、アーカイブ、およびリストアの各操作を行う方法について説明します。本書では、VERITAS NetBackup を「NetBackup」と呼びます。

本書は、システム管理者と UNIX のエンド ユーザを対象としています。読者が UNIX のコマンドと操作に関する基本的な知識があることを前提とします。

『NetBackup User's Guide - UNIX』の構成

本書は、以下の章で構成されます。

- ◆ 「NetBackup の概要」では、NetBackup の概要、エンド ユーザによる NetBackup の操作方法、および技術的な用語と概念について説明します。この章を読んで NetBackup の理解を深めてください。
- ◆ 「Java インタフェースの使い方」では、NetBackup の Java インタフェースを使用して、バックアップ、アーカイブ、およびリストアの各操作を行う方法について説明します。
- ◆ 「メニュー インタフェースの使い方」では、NetBackup のメニュー インタフェース bp を使用して、バックアップ、アーカイブ、およびリストアの各操作を行う方法について説明します。
- ◆ 「X-Windows インタフェースの使い方」では、グラフィカル インタフェース プログラムである xbp を使用して、バックアップ、アーカイブ、およびリストアの各操作を行う方法について説明します。
- ◆ 「xbp および bp のリファレンス ガイド」では、ユーザ インタフェース プログラムである xbp および bp のウィンドウ、画面、およびメニューについて説明します。
- ◆ 用語集では、本書および NetBackup のインタフェースで使用される用語について説明します。

関連マニュアル

関連マニュアル

関連情報については、以下のマニュアルを参照してください。NetBackup の関連マニュアルの詳細な一覧については、『NetBackup Release Notes』を参照してください。

- ◆ 『NetBackup Installation Guide - PC Clients』

NetBackup PC クライアント ソフトウェアのインストール方法が説明されています。PC クライアントは、Windows NT/2000、Windows 95、Windows 98、Macintosh、OS/2 Warp、および Novell NetWare です。

UNIX サーバを使用している場合は、以下のマニュアルを参照してください。

- ◆ 『NetBackup Release Notes』

NetBackup ソフトウェアに関する重要な情報（サポートされているプラットフォームやオペレーティング システム、マニュアルやオンライン ヘルプにはない操作上の留意事項など）が掲載されています。

- ◆ 『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』

UNIX システムで NetBackup の Datacenter を設定し、管理する方法が説明されています。

- ◆ 『NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - UNIX』

UNIX サーバで NetBackup の BusinessServer を設定し、管理する方法が説明されています。

- ◆ 『NetBackup Troubleshooting Guide - UNIX』

UNIX ベースの NetBackup 製品に関するトラブルシューティング情報が掲載されています。

Windows NT/2000 サーバを使用している場合は、以下のマニュアルを参照してください。

- ◆ 『NetBackup Release Notes』

NetBackup ソフトウェアに関する重要な情報が掲載されています。たとえば、サポートされているプラットフォームやオペレーティング システム、マニュアルやオンライン ヘルプにはない操作上の留意事項などを参照できます。

- ◆ 『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT Server』

Windows NT/2000 のサーバシステムで NetBackup を設定し、管理する方法が説明されています。

- ◆ 『NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - Windows NT Server』

Windows NT/2000 のサーバで NetBackup の BusinessServer を設定し、管理する方法が説明されています。

- ◆ 『NetBackup Troubleshooting Guide - Windows NT/2000』

Windows NT/2000 ベースの NetBackup 製品に関するトラブルシューティング情報が掲載されています。

表記規則

本書で採用している一般的な表記規則について説明します。

一般の表記規則

表 1. 一般の表記規則

表記	用途
英字等幅フォント太字	入力する文字。例: cd と入力して、ディレクトリを変更してください。
英字等幅フォント	パス、コマンド、ファイル名、および出力。例: デフォルトのインストール ディレクトリは /opt/VRTSxxx です。
『 』	ドキュメントなどのタイトル。
「 」	章や項目のタイトル、強調する用語。
英字ゴシック体 (斜体)	プレースホルダーテキストまたは変数。例: <i>filename</i> には、実際のファイル名を指定してください。
英字ゴシック体 (斜体以外)	フィールド名、メニュー項目など、グラフィカルユーザインタフェース (GUI) のオブジェクト。例: [Password] フィールドに、パスワードを入力してください。

「注」と「注意」の違い

注 「注」では、製品をより使いやすくするための情報や、問題の発生を防ぐための情報について説明します。

注意 「注意」では、データ損失のおそれがある状態について説明します。

キーの組み合わせ

キーボードからコマンドを入力する場合、複数のキーを同時に使用することがあります。たとえば、**Ctrl** キーを押しながら別のキーを押す場合などが考えられます。このようなコマンドを示す場合は、次のように、各キーをプラス記号 (+) でつないで表記します。

Ctrl+T を押します。

テクニカル サポート

コマンドの書式

コマンドの書式では、以下の表記規則が一般的に使用されます。

角かっこ []

コマンドライン内にある角かっこで囲まれたコンポーネントは、オプションのコンポーネントです。

垂直バーまたはパイプ (|)

オプションの引数を区切ります。ユーザは、これらのオプションの引数から必要な引数を選択できます。たとえば、コマンドの書式が次のとおりであるとします。

```
command arg1|arg2
```

ユーザは、*arg1* または *arg2* のいずれかの変数を使用できます。

テクニカル サポート

この製品に関するシステム要件、サポートされているプラットフォーム、サポートされている周辺機器、テクニカル サポートから入手できる最新のパッチなどの最新情報については、弊社の Web サイトをご利用ください。

<http://www.veritas.com/jp> (日本語)

<http://www.veritas.com/> (英語)

製品に関するサポートは、VERITAS テクニカル サポートまでお問い合わせください。

電話 : (03)3509-9210

FAX : (03)5532-8209

VERITAS カスタマ サポートへのお問い合わせの際は、次の電子メール アドレスもご利用いただけます。

support.jp-es@veritas.com

NetBackup の概要

1

NetBackup を使用すると、クライアント システムにあるファイル、ディレクトリ、または raw パーティションに対して、バックアップ、アーカイブ、およびリストアの操作を行うことができます。NetBackup では、バックアップやリストアの対象とするシステムをクライアント（またはエージェント）と呼びます。また、バックアップ データの保管と取り出しを管理するシステムを NetBackup サーバと呼びます。

ユーザ指定の操作

ユーザ指定の操作

ユーザ指定の操作とは、ユーザがクライアント側から行うことができる **NetBackup** の操作です。ユーザ指定の操作を行うために、管理者が介入したり、**NetBackup** サーバへログインする必要はありません。

ユーザ指定の操作には、以下の操作が含まれます。

- ◆ ローカル ディスクにあるファイル、ディレクトリ、または **raw** パーティションのバックアップ。バックアップ操作により、データは **NetBackup** サーバのストレージ デバイスに保存されます。
- ◆ ローカル ディスクにあるファイルおよびディレクトリのアーカイブ。アーカイブ操作により、選択されたファイルおよびディレクトリは、**NetBackup** サーバのストレージ デバイスに保存され、ローカル ディスクから削除されます。
- ◆ 以前にバックアップまたはアーカイブしたファイル、ディレクトリ、または **raw** パーティションのリストア。リストア先として、元の場所または別の場所を指定できます。リストアの対象を選択すると、その内容は **NetBackup** によって自動的にディスクにリストアされます。

ユーザ指定の操作を実行すると、サーバによってデータのストレージと取り出しが管理されます。すべてのファイル転送処理はバックグラウンドで行われるため、操作の完了を待たずに、以下の操作を端末で行うことができます。

ユーザ インタフェース

NetBackup には、以下の4種類のユーザ インタフェースがあります。

- ◆ Java インタフェース
- ◆ メニュー インタフェース
- ◆ X-Windows グラフィカル インタフェース
- ◆ コマンドライン インタフェース

ユーザ指定の操作は、上記のどのインタフェースでも実行できます。ただし、最も多く使用されると思われるのは、**Java** インタフェースとメニュー インタフェースです。

- ◆ **Java** グラフィカル インタフェースは、サポートされている **Solaris** または **HP-UX** システム、および **NetBackup Java Windows Display Console** がインストールされているシステムで使用できます。**Java** インタフェースの使い方については、「**Java** インタフェースの使い方」(9 ページ)を参照してください。
- ◆ 文字ベースのメニュー インタフェースは、クライアント システムに接続可能な大半の端末で使用できます。メニュー インタフェース プログラムを起動するには、**bp** コマンドを使用します。**bp** によるメニュー インタフェース プログラムの使い方については、「メニュー インタフェースの使い方」(45 ページ)を参照してください。

- ◆ **X-Windows** ベースのグラフィカル インタフェースは、**X11.R4** 以降と互換性のある **X** サーバプログラムを搭載する **X** 端末またはワークステーションで使用できます。このグラフィカル インタフェースプログラムを起動するには、**xbp** コマンドを使用します。**xbp** によるグラフィカル インタフェースプログラムの使い方については、「**X-Windows** インタフェースの使い方」(67 ページ)を参照してください。
- ◆ コマンド ライン インタフェースでは、シェルプロンプトにコマンドを入力することにより、バックアップ、アーカイブ、リストア、および一覧表示の各操作を行うことができます。

コマンド ライン インタフェースでは、以下のコマンドを使用できます。

bp

bparchive

bpbackup

bplist

bprestore

xbp

各コマンドの説明については、マニュアル ページを参照してください。マニュアル ページを参照するには、次のように入力します。

man bp

注 システムにマニュアル ページがインストールされていない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

各コマンドに関する情報は、『**NetBackup System Administrator's Guide - UNIX**』でも参照できます。

Java インタフェース、**X-Windows** インタフェース、およびメニュー インタフェースには、ユーザ指定の操作を実行および監視するために必要なすべてのオプションが用意されています。各インタフェースには、ファイルやディレクトリをブラウズし、選択するための重要な機能が組み込まれています。

- ◆ バックアップ時またはアーカイブ時には、クライアントのファイルシステムをブラウズして、ファイルとディレクトリを選択できます。
- ◆ リストア時には、クライアントのバックアップ履歴をブラウズして、保存済みのファイルやディレクトリを選択できます。他のクライアントのバックアップ履歴をブラウズする権限を **NetBackup** 管理者から与えられている場合は、これらのバックアップ履歴をブラウズすることもできます。

プログレス ログとメール通知

プログレス ログとメール通知

NetBackup のプログレス ログには、NetBackup の操作の進行状況が記録されます。各操作の結果（成功または失敗）も記録されます。プログレス ログ ファイルは、ユーザ指定の操作別に作成されるように設定することができます。ログ ファイルは、不要になった時点で削除できます。ログ ファイル作成の詳細については、xbp の場合は「操作の進行状況の確認」(91 ページ) を、bp の場合は「操作の進行状況の確認」(65 ページ) を参照してください。jbp のログ ファイルの詳細については、「バックアップおよびリストアの進行状況の表示」(29 ページ) を参照してください。

また、クライアントのユーザに対して、NetBackup の操作のステータスが電子メールで通知されるように NetBackup サーバを設定することもできます。電子メールによる通知処理をサーバに設定する方法については、『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』または『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

バックアップおよびアーカイブのウィンドウ

NetBackup では、ユーザ指定のバックアップまたはアーカイブが特定の時間帯に行われるように設定できます。通常、この時間帯をウィンドウと呼びます。たとえば、ウィンドウが 8 a.m. ～ 6 p.m. の場合、これ以外の時間にバックアップまたはアーカイブを行うことはできません。ウィンドウは、サーバの設定時に NetBackup の管理者によって定義されます。

注 バックアップとアーカイブのウィンドウは、ユーザ指定のリストアには影響しません。リストアはいつでも行うことができます。

自動バックアップ

NetBackup の管理者は、クライアント システムのフル バックアップとインクリメンタルバックアップが自動的に行われるように NetBackup を設定できます。これらのバックアップ処理は、NetBackup サーバの制御下で無人で行われます。スケジュールを綿密に行えば、自動バックアップだけでクライアントのバックアップリクエストのほとんどを処理することができます。自動バックアップの結果（成功または失敗）を通知するメールがクライアント システムの管理者に送信されるように NetBackup を設定することもできます。

自動バックアップとその他の管理者指定の操作の詳細については、『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』または『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

除外リストとインクルード リスト

NetBackup のシステム管理者により、クライアントの除外リストとインクルード リストが設定されます。

NetBackup の除外リストとは、スケジュールされたバックアップ処理から除外するファイルとディレクトリの一覧のことです。除外リストに指定されたファイルやディレクトリは、ユーザ インタフェースを使用して手動でバックアップすることができます。

システム管理者は、特定のクラス、またはクラスとスケジュールの組み合わせを指定した除外リストを作成することもできます。スケジュールされたバックアップの実行時にマスタサーバが参照する除外リストは 1 つです。この除外リストには、特定のクラス、またはクラスとスケジュールの組み合わせに該当するすべてのクライアントが含まれます。ただし、スケジュールされたバックアップ処理に対して、クライアント別にファイルやディレクトリを追加する場合は、クライアント別にインクルード リストを作成できます。

NetBackup のインクルード リストとは、スケジュールされたバックアップ処理に含めるファイルとディレクトリの一覧のことです。インクルード リストを使用すると、たとえば、1 つのファイルを除いたディレクトリ全体をバックアップの対象から除外することができます。

除外リストとインクルード リストの作成方法については、『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』または『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

別のクライアントへのリストア

必要なアクセス権と設定を使用することにより、別のクライアントによってバックアップされたファイルを NetBackup データベースからブラウズし、各自のコンピュータにリストアすることができます。

システム管理者は、リストア先として、ファイルをバックアップした元のクライアントまたは別のクライアントを指定できます。元のクライアントとは異なるクライアントにファイルをリストアするには、マスタサーバを使用します。したがって、サーバ指定のリストアと呼ばれます。NetBackup の管理者は、ファイルまたは raw パーティションのリストア先として任意のクライアントを指定できます。

NetBackup を使用する前に

NetBackup を使用する前に

NetBackup を使用してユーザ指定の操作を行う前に、以下の内容をお読みください。

NetBackup を使用する際の注意事項と留意事項

- ◆ 別のファイルへのシンボリックリンクだけを含むファイルをバックアップまたはアーカイブすると、リンクだけがバックアップまたはアーカイブされ、ファイル自体は処理されません。つまり、特定のファイルへのシンボリックリンクが複数のディレクトリにある場合に、同じファイルの複数のバックアップが作成されないようになっています。したがって、ファイルをバックアップまたはアーカイブする場合は、それがソースファイルであることを確認してください。
- ◆ Hewlett Packard システムでは、CDF が存在しない状態でファイルを CDF ディレクトリにリストアしないでください。これを行うと、CDF として認識されるために必要なディレクトリモードビットが設定されないまま、CDF ディレクトリが作成されます。正しい手順としては、CDF 自体をリストアしてから、そのディレクトリに含めるファイルをリストアします。CDF に足りないファイルだけをリストアする場合は、既存のファイルを上書きしないように指定します。
- ◆ ファイルに指定できるパスの最大長は 1023 文字です。
- ◆ raw パーティションのリストアでは、上書きオプションが無視されます。raw パーティションのリストアにはデバイスファイルが必要であり、上書きオプションが設定されているかどうかに関係なく、ディスクパーティションは上書きされます。

管理者への確認事項

管理者は、各サイトのバックアップおよびアーカイブの要件に従って NetBackup を設定します。NetBackup を使用する前に、以下の設定に関する事項を管理者に確認してください。これらの事項を事前に確認することにより、問題を未然に防ぐことができます。

- ◆ クライアントの自動バックアップの対象とするファイルとディレクトリのリスト。管理者が設定した一覧には、ローカルディスクにあるすべてのファイルやディレクトリが含まれているとは限りません。バックアップするファイルを追加する場合は、自動バックアップの一覧への追加を管理者に依頼するか、またはユーザ自身で追加ファイルのバックアップを行います。
- ◆ 自動バックアップのスケジュール。このスケジュールを事前に知っておくと、ユーザは、重要なデータのバックアップをいつ行えばよいかを判断できます。
- ◆ クライアントでユーザ指定のバックアップとアーカイブが許可される時間帯。管理者は、NetBackup の設定時に、ユーザによるバックアップおよびアーカイブを許可する時間帯を決定します。たとえば、時間帯が 8 a.m. ~ 4 p.m. に設定された場合、ユーザはバックアップまたはアーカイブを 6 p.m. に行うことはできません。
- ◆ データのリテンションピリオド。有効期限を過ぎたバックアップのリストアは困難です。必要に応じて、十分なリテンションピリオドを設定してください。

- ◆ (NetBackup DataCenterのユーザ) NFS にマウントされたファイルのバックアップ、アーカイブ、およびリストアを実行できるかどうか。NetBackup ではサポートされていますが、特定の設定によっては実行できない場合があります。NFS ファイルをアーカイブすると、そのファイルが置かれていたシステムから NFS ファイルが削除されます。
- ◆ ファイルパスの中に異種のファイルシステムが混在している場合にも、ファイルパス全体をバックアップおよびアーカイブできるように設定されているかどうか。たとえば、ワークステーションのバックアップとアーカイブがファイルシステム間にまたがって設定されている場合は、/ (ルート) を指定するとディスク全体がバックアップされます。それ以外の場合は、/ を指定すると、/ ファイルシステムにあるファイルとディレクトリだけがバックアップされ、その他のファイルシステムにあるファイルは除外されます。
- ◆ 別のクライアントでバックアップまたはアーカイブされたファイルのリストア方法。通常、NetBackup ではファイルのリストア先として元のクライアントだけを指定できます。管理者は、必要に応じて、この設定をオーバーライドすることができます。
- ◆ ユーザ指定の操作の結果をメールでユーザに通知するようにNetBackup が設定されているかどうか。メールによる通知を使用すると、プログレスログを監視する必要はありません。また、クライアントシステムの管理者に自動バックアップの成否をメールで通知するように設定することもできます。

NetBackup に必要なファイルアクセス権

ファイルをバックアップするには、UNIX の読み込みアクセス権が必要です。ファイルをアーカイブするには、UNIX の書き込みアクセス権が必要です (アーカイブ操作では、ディスクからファイルを削除するためです)。

注 NetBackup のバックアップまたはアーカイブでは、ファイルに割り当てられたユーザ ID とグループ ID だけが保存されます。バックアップの実行者のユーザ ID とグループ ID は保存されません。たとえば、ユーザ *uuu* とグループ *ggg* が所有するファイルをルート ユーザがバックアップするとします。リストアの実行者には関係なく、リストアされたファイルにはユーザ ID = *uuu* とグループ ID = *ggg* が表示されます。

ファイルやディレクトリの一覧を表示し、リストアするには、以下の UNIX のアクセス権が必要です。

- ◆ 別のユーザが所有するディレクトリにあるファイルの一覧を表示したり、リストアするには、そのディレクトリと上位ディレクトリに対する読み込みアクセス権と実行アクセス権が必要です。
- ◆ ファイルを元の場所にリストアするには、そのファイル (ファイルが存在する場合)、またはディレクトリ (ファイルが存在しない場合) に対する書き込みアクセス権が必要です。

NetBackup を使用する前に

以下の表は、NetBackup での各種のリストア方法の一覧です。たとえば、リストアするファイルやディレクトリのコピーがすでに存在する場合のリストア方法などを示しています。

表 2. ファイル アクセス権

リストア方法	結果
リストアするファイルがすでに存在し、その既存のファイルを上書きする場合	<p>ルート ユーザの場合、ファイルはリストアされ、バックアップイメージと同じ所有者がファイルの所有者として設定されます。</p> <p>ルート以外のユーザの場合、ファイルに対する書き込みアクセス権がある場合にのみ、ファイルはリストアされます。ファイルは読み取り専用で設定されているが親ディレクトリへの書き込みアクセス権がある場合、ファイルは削除され、バックアップイメージがリストアされます。リストアされたファイルの所有者には、このユーザが設定されます。</p>
リストアするファイルがすでに存在し、その既存のファイルを上書きしない場合	<p>ルート ユーザの場合もルート以外のユーザの場合も、ファイルはリストアされず、プログレスログにメッセージが記録されます。</p>
存在しないファイルをリストアする場合	<p>ルート ユーザの場合、ファイルはリストアされ、バックアップと同じ所有者が所有者として設定されます。</p> <p>ルート以外のユーザの場合、親ディレクトリに対するアクセス権がある場合にのみ、そのユーザを所有者とするファイルが作成され、ファイルはリストアされます。</p>
リストアするファイルと同じ名前のディレクトリがある場合	<p>ルート ユーザの場合もルート以外のユーザの場合も、プログレスログにエラーメッセージが記録されます。ファイルはリストアされず、ディレクトリも削除されません。既存のファイルを上書きすることを選択したかどうかは無関係です。</p>
リストアするディレクトリと同じ名前のファイルがある場合	<p>ディレクトリはリストアされ、ファイルは削除されます。ただし、必要なアクセス権が設定されており、既存のファイルを上書きすることを選択した場合に限ります。所有権は、以下のように設定されます。</p> <p>ルート ユーザの場合、元の所有者がディレクトリの所有者として設定されます。</p> <p>ルート以外のユーザの場合、リストアを行うユーザ名が所有者として割り当てられます。</p>
存在しないディレクトリ内のファイルをリストアする場合	<p>リストアを行うユーザの名前とグループが設定されたディレクトリが作成されます。マスクビット 022 を使用してディレクトリのモードが設定されます。ファイルは、存在しないファイルをリストアする場合（上を参照）と同じ方法でリストアされます。</p>

Java インタフェースの使い方

2

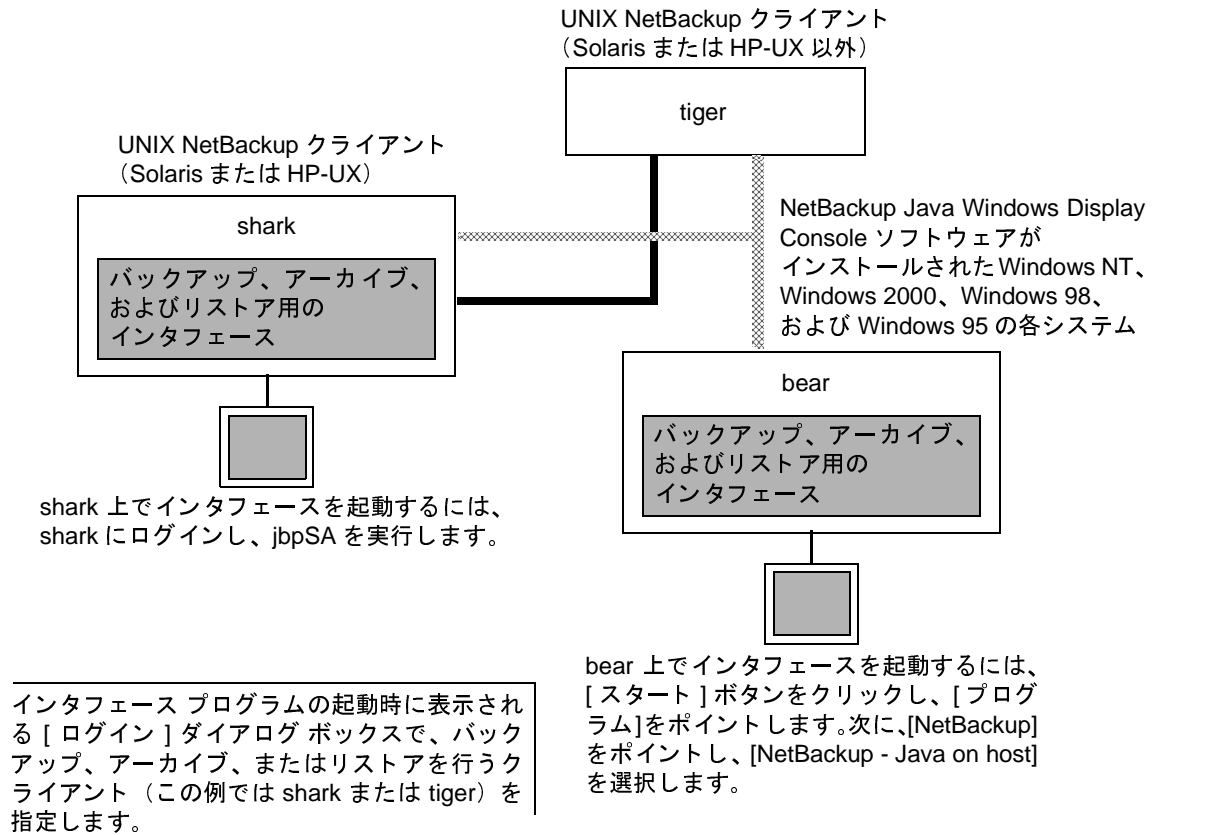
NetBackup の Java ユーザ インタフェース (jbpSA) は、バックアップ、アーカイブ、およびリストアを行うためのグラフィカル ユーザ インタフェースです。Java インタフェースは、以下のシステムで実行できます (図 1 を参照)。

- ◆ サポートされている Solaris または HP-UX システム。
- ◆ NetBackup Java Windows Display Console がインストールされた Windows NT、Windows 2000、Windows 98、または Windows 95 の各システム。ディスプレイ コンソールがあると、Solaris または HP-UX システムが使用できないときに Java インタフェースを使用できます。

この章では、以下の内容について説明します。

- ◆ Java インタフェースの起動
- ◆ タイムゾーンの調整
- ◆ ファイルの検索方法と指定方法に関するヒント
- ◆ バックアップおよびアーカイブの実行
- ◆ リストアの実行
- ◆ バックアップおよびリストアの進行状況の表示
- ◆ 高度なリストア手順
- ◆ ヒントとトラブルシューティング

図 1. NetBackup の Java ユーザ インタフェース



Java インタフェースの起動

UNIX プラットフォームから起動する場合

1. バックアップ、アーカイブ、およびリストア用のインタフェースを起動する UNIX NetBackup クライアントにログインします。
2. 以下のコマンドを実行してバックアップ、アーカイブ、およびリストア用のインタフェースを起動します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/jbpSA &
```

コマンドの使い方を参照する場合は、次のように入力します。 **jbpSA -h**

[ログイン] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. バックアップ、アーカイブ、またはリストアを行うクライアントの名前を入力します。
この場合、そのクライアント上に有効なユーザ アカウントがあり、そのクライアントへのアクセス権を持っていることが必要です。

4. ユーザ名を指定します。

- ◆ UNIX クライアントの場合は、クライアント名を入力します。
- ◆ Windows クライアントの場合は、次のようにドメインとクライアント名を **domain#username** という形式で入力します。

```
ourcompany\gla
```

5. パスワードを指定します。

6. [ログイン] をクリックします。

[バックアップ、アーカイブ、およびリストア - NetBackup] ウィンドウが表示されます。

Java インタフェースのウィンドウ マネージャの設定

ウィンドウ マネージャは、常にウィンドウ内でクリックしたときだけにウィンドウがアクティブになるように設定します。オート フォーカスは有効にしません。オート フォーカスを有効にすると、マウス ポインタをウィンドウ上に移動しただけでウィンドウがアクティブになります。オート フォーカスを有効にした場合は、NetBackup-Java インタフェースは正しく実行されません。以下に示すのは、フォーカスを正しく設定するための一般的な手順です。

Java インタフェースの起動

CDE (Common Desktop Environment)

以下の手順では、CDE (Common Desktop Environment) ウィンドウ マネージャの設定方法について説明します。CDE ウィンドウ マネージャは、NetBackup-Java アプリケーションに推奨されるウィンドウ マネージャです。

1. CDE ウィンドウのフロント パネルで、[スタイル・マネージャ] コントロール アイコンをクリックします。
[スタイル・マネージャ] ツールバーが表示されます。
2. [スタイル・マネージャ] ツールバーで、[ウィンドウ] コントロール アイコンをクリックします。
[スタイル・マネージャ - ウィンドウ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [スタイル・マネージャ - ウィンドウ] ダイアログ ボックスで、[クリックでウィンドウをアクティブに] ボタンをクリックします。
4. [OK] をクリックします。
5. ワークスペース・マネージャを再起動することを指示された場合は、[OK] をクリックします。

Motif

Motif ウィンドウ マネージャを使用する場合は、X リソースの `Mwm*keyboardFocusPolicy` を以下のように設定します。

```
Mwm*keyboardFocusPolicy:explicit
```

Windows プラットフォームから起動する場合

Java インタフェースは、Windows Display Console がインストールされた Windows プラットフォームからも使用できます。

1. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。
2. [プログラム] メニューで、[NetBackup] をポイントし、サブメニューの [NetBackup - Java on host] をクリックします。

[ログイン] ダイアログ ボックスが表示されます。*host* は、ユーザの操作を行う NetBackup のデフォルト クライアントです。

別のクライアントでユーザの操作を行うには、[NetBackup host] フィールドにそのクライアント名を入力します。

3. ユーザ名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
4. ログインが完了すると、[NetBackup 管理 - Java] ウィンドウが表示されます。

5. [バックアップ、アーカイブ、およびリストア] ボタンをクリックして操作を開始します。[バックアップ、アーカイブ、およびリストア - NetBackup] ウィンドウが表示されます。このウィンドウが表示された時点では、[Restore Files] タブが選択されています。

タイムゾーンの調整

NetBackup では、現在のセッションに対してタイムゾーンの設定を調整できます。管理者の権限を持っている場合は、今後のすべてのセッションに対してもタイムゾーンの設定を調整できます。

次の2つの場合に、タイムゾーンの設定を調整する必要があります。

- ◆ タイムゾーンがNetBackupで使用されているJavaコードによって正しく変換されない場合。たとえば、中央ヨーロッパのタイムゾーンは、中東標準時として解釈されます。バックアップに対して正しい日付と時刻のスタンプが使用されるようにタイムゾーンの設定を調整する必要があります。
- ◆ 複数の異なるタイムゾーンに分散しているサイトを管理する場合。タイムゾーンの設定は、ファイルをリストアする前に調整します。

例

たとえば、以下の例について考えます。

- ◆ 東部標準時(EST)で2000年3月3日の午前12:00時に作成されたバックアップをリストアする要求を受けたとします。ESTは、グリニッジ標準時(GMT)から5時間の時差があります。
- ◆ 現在設定されているのが太平洋標準時(PST)である場合、PSTはGMTから8時間の時差があります。

この例では、タイムゾーンの設定をESTに変更してから2000年3月3日に作成されたバックアップを検索しないと、目的のバックアップは見つかりません。現在設定されているタイムゾーン(PST)では、目的のバックアップは2000年3月2日の午後9:00時に作成されたこととなります。

▼ タイムゾーンの設定を調整するには

1. [表示] メニューの [アプリケーションのタイムゾーンの調整] をクリックします。

注 jnbSA を実行して jbp を起動した場合は、[NetBackup 管理 - Java] ウィンドウの [設定] メニューの [アプリケーションのタイムゾーンの調整] を使用できます。

2. グリニッジ標準時とサーバのタイムゾーンの時差 (時間および分) に合わせて時間を調整します。
3. 夏時間を使用するには、[夏時間を使用] を選択します。

タイムゾーンの調整

4. 夏時間の開始時期を指定します。
 - a. 夏時間の開始時期を指定するための方法を選択します。
 - ◆ 夏時間を特定の日付から開始するには、[絶対日時]を選択して月と日を指定します。
 - ◆ 夏時間を最初の指定した曜日から開始するには、[開始月の第一曜日と時間で設定]を選択して曜日と月を指定します。
 - ◆ 夏時間の開始日を特定の日付の後で最初の指定した曜日から開始するには、[開始月の指定日以降の第一曜日と時間を指定]を選択して曜日、月、および日付を指定します。
 - ◆ 夏時間を最後の指定した曜日から開始するには、[終了月の最終曜日と時間で設定]を選択して曜日と月を指定します。
 - ◆ 夏時間の開始日を特定の日付の前で最後の指定した曜日から開始するには、[終了月の指定日以前の第一曜日と時間で設定]を選択して曜日、月、および日付を指定します。
 - b. 必要な曜日、月、日、および時間を選択します。

DST（夏時間）の開始または
終了時期 入力方法

4月5日

絶対日時

曜日: 月: 日: 時間:

日曜日 4月 5 2 時

4月の第1月曜日

開始月の第一曜日と時間で設定

曜日: 月: 日: 時間:

月曜日 4月 1 2 時

4月5日以降の最初の月曜日

開始月の指定日以降の第一曜日と時間を指定

曜日: 月: 日: 時間:

月曜日 4月 5 2 時

4月の最後の火曜日

終了月の最終曜日と時間で設定

曜日: 月: 日: 時間:

火曜日 4月 27 2 時

4月30日以前の最後の火曜日

終了月の指定日以前の第一曜日と時間で設定

曜日: 月: 日: 時間:

火曜日 4月 30 2 時

5. 手順4と同じ方法で、夏時間の終了時期を指定します。
6. 管理者としてタイムゾーンの設定を今後のすべてのセッションに適用する場合は、
[デフォルトのタイムゾーンとして保存]を選択します。
7. [了解]をクリックします。

ファイルの検索方法と指定方法に関するヒント

ファイルの検索方法と指定方法に関するヒント

ここでは、[ファイルのバックアップ] タブおよび [ファイルのリストア] タブで、ディレクトリ ツリー内の移動、ファイルのフィルタ処理、およびバックアップとリストアの対象とするファイルやフォルダを指定する方法について説明します。











ディレクトリ ツリー内の移動

フォルダの内容を表示するには

- ◆ 左側の表示区画にあるフォルダ名をクリックします。フォルダの内容は、右側の表示区画に表示されます。
- ◆ フォルダの左にプラス (+) 記号が付いている場合は、そのフォルダにサブフォルダがあることを示します。サブフォルダを表示するには、プラス記号をクリックするか、またはフォルダをダブルクリックします。フォルダ内のサブフォルダが左側の表示区画に表示されます。
- ◆ [ファイルのリストア] タブでは、フォルダの内容を表示する方法として、[参照ディレクトリ] ボックスにディレクトリパスを入力し、**Return** キーを押すこともできます。
- ◆ フォルダを折りたたむには、フォルダの左のマイナス記号 (-) をクリックするか、またはフォルダをダブルクリックします。

ファイルのアイコン

[選択したディレクトリの内容] 表示区画では、以下のアイコンによってファイルの種類が示されます。

説明	アイコン
ディレクトリを表します。	
Java ファイルを表します。	
Java クラス ファイルを表します。	
プログラム ファイルを表します。	
HTML ファイルを表します。	
UNIX リンクを表します。	
読み取り専用ファイルを表します。	
テキスト ファイルを表します。	
ビットマップ、gif、またはアイコンの各ファイルを表します。	
対応するアイコンがないファイルを表します。	

ファイルのフィルタ処理

[選択したディレクトリの内容] 表示区画に表示されるファイルとフォルダに対して、フィルタ処理を行うことができます。たとえば、「sys」で始まるファイル名だけを表示するには、[ファイル名フィルタ] フィールドに「**sys***」と入力し、[更新] をクリックします。「txt」を拡張子とするファイルだけを表示するには、「***.txt**」と入力します。フィルタの大文字と小文字は区別されません。

jbpSA の起動時には、[ファイル名フィルタ] ボックスに「*」と表示されます。このワイルドカードにより、すべてのファイルが表示されます。

カラムの並べ替え

[選択したディレクトリの内容] 表示区画のカラムは、カラムのヘッダをクリックして並べ替えることができます。たとえば、更新日順に並べ替えるには、[変更日時] カラムのヘッダをクリックします。もう一度ヘッダをクリックすると、降順に並べ替えられます。

ファイルの検索方法と指定方法に関するヒント

ファイルおよびフォルダの指定

- ◆ バックアップまたはリストアの対象とするファイルを指定するには、ファイルの左側にあるチェックボックスを選択するか、またはファイルをマウスの右ボタンでクリックし、[選択] を選択します。
- ◆ 連続した複数のファイルを選択するには、最初のファイルの左側にあるチェックボックスをクリックし、**Shift** キーを押したまま、最後のファイルの左側にあるチェックボックスをクリックします。連続しない複数のファイルを選択するには、**Ctrl** キーを押しながら、選択するファイルの左側にあるチェックボックスをクリックします。

選択したファイルを指定するには、ファイルをマウスの右ボタンでクリックし、[選択] を選択します。

- ◆ バックアップまたはリストアの対象とするフォルダを指定するには、フォルダの左側にあるチェックボックスを選択します。チェックボックスにチェックマークが表示されます。チェックボックスにスラッシュ (/) が表示されている場合は、そのフォルダ内の一部のファイルまたはサブフォルダだけが指定されていることを示します。

フォルダを指定すると、フォルダ内のすべてのファイルとサブフォルダが自動的に指定されます。

- ◆ 右側の表示区画に表示されているすべてのファイルとフォルダを指定するには、[すべて選択] ボタンをクリックします。

指定された期間内に複数回バックアップされたためにファイルやフォルダの複数のバージョンが表示されている場合は、最新のバージョンだけが指定されます。

ファイルおよびフォルダの指定解除

- ◆ ファイルの指定を解除するには、ファイルの左側にあるチェックボックスをクリアするか、またはファイルをマウスの右ボタンでクリックし、[選択の解除] を選択します。
- ◆ フォルダとフォルダ内のすべてのファイルとサブフォルダの指定を解除するには、フォルダの左側にあるチェックボックスをクリアします。
- ◆ [選択したディレクトリの内容] 表示区画に表示されているすべてのファイルとフォルダの指定を解除するには、[すべての選択の解除] ボタンをクリックします。

バックアップおよびアーカイブの実行

ここでは、単純なバックアップ手順を紹介します。バックアップ手順は、アーカイブ手順に似ています。ただし、アーカイブ手順では、選択したファイルはバックアップ後に削除されます。

この手順では、すでに **NetBackup** の Java コンソールを起動し、「Java インタフェースの起動」(11 ページ) で説明した [バックアップ、アーカイブ、およびリストア - **NetBackup**] ウィンドウが表示されているものとします。

1. [ファイルのバックアップ] タブをクリックします。
2. 必要に応じて、**NetBackup** のマスタ サーバを切り替えてバックアップを行います。

バックアップ先またはアーカイブ先として指定できるマスタ サーバが複数ある場合は、正しいサーバに接続されていることを確認します。使用するマスタ サーバが不明な場合は、**NetBackup** の管理者に確認してください。

通常、マスタ サーバを切り替える必要はありません。ただし、元のマスタ サーバで問題が発生した場合など、管理者によって一時的に **NetBackup** のバックアップが移動された場合は切り替えが必要です。バックアップ情報が一時的ではなく永続的に別の場所に移動された場合、管理者はデフォルトのバックアップ先サーバを設定し直す必要があります。

- a. [NetBackup サーバ] ボックスの横にある参照ボタンをクリックします。
- b. 一覧から目的のサーバを選択します。
- c. [了解] をクリックします。

無効な名前を入力した場合、またはクライアントがそのサーバの **NetBackup** クラスに属していない場合は、エラーが発生します。エラーが発生した場合は、システム管理者に問い合わせてください。

バックアップおよびアーカイブの実行

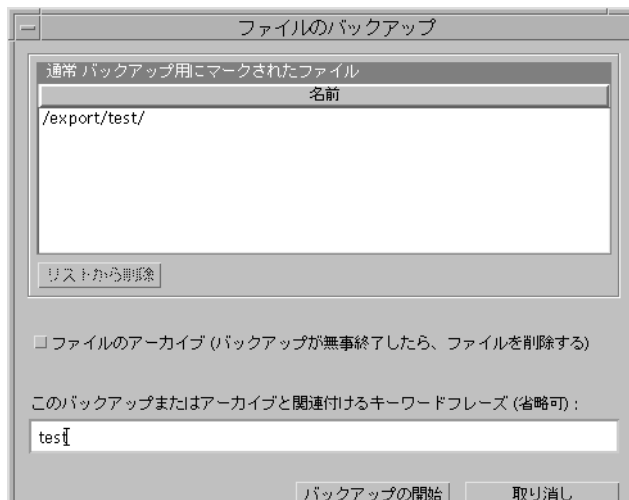
3. バックアップするファイルを指定します。この例では、sample.txt を指定します。



[選択したディレクトリの内容] 表示区画に表示されるファイルとフォルダに対しては、フィルタ処理を行うことができます。フィルタ条件を入力した後で、[更新] をクリックします。詳細については、「ファイルのフィルタ処理」(17 ページ) を参照してください。

4. [バックアップ] をクリックしてバックアップ操作を開始します。
5. [ファイルのバックアップ] ダイアログ ボックスが表示されます。
6. バックアップまたはアーカイブとキーワード フレーズを対応付けるには、[このバックアップまたはアーカイブと関連付けるキーワードフレーズ] ボックスにキーワードまたは句を入力します。キーワードまたは句を検索することにより、対応するバックアップまたはアーカイブをリストアできます。

この例では、キーワード フレーズとして **test** を使用します。



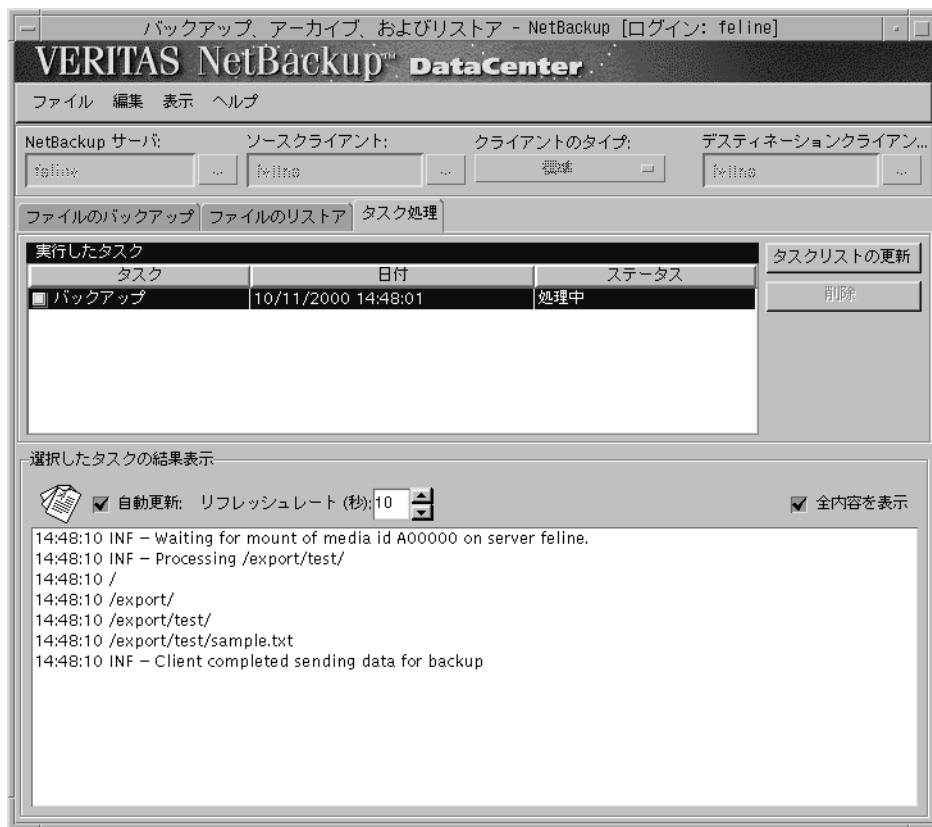
- ◆ ファイルをバックアップした後で削除するには、[ファイルのアーカイブ] を選択します。
- ◆ バックアップするファイルの一覧から特定のファイルを削除するには、そのファイルを選択し、[リストから削除] をクリックします。

7. [バックアップの開始] をクリックすると、バックアップの操作が開始されます。

注 NetBackup の処理が完了するまで数分かかることがあります。

バックアップおよびアーカイブの実行

- バックアップの操作のステータスを確認するかどうかのプロンプトが表示されます。
[はい]をクリックして[タスク処理]タブを開きます。



[タスク処理] ウィンドウを使用すると、NetBackup の操作の進行状況を示すレポートを表示できます。詳細については、「バックアップおよびリストアの進行状況の表示」(29 ページ) を参照してください。

リストアの実行

ここでは、単純なリストア手順を紹介します。前のバックアップ手順の例と同じファイルを使用します。NetBackup ブラウザは、「Java インタフェースの起動」(11 ページ)の説明に従ってすでに起動しているものとします。

リストアの実行に関する注

- ◆ リストアを実行する前に、正しいタイムゾーンまたは目的のタイムゾーンが設定されていることを確認します。詳細については、「タイムゾーンの調整」(13 ページ)を参照してください。
- ◆ 検索するパスにリンクが含まれている場合は、デフォルトで NetBackup によってリンクが解決されるので、パスは実際のファイルまたはディレクトリを指します。リンクを解決しない場合は、検索を開始する前に、[表示]メニューの[参照するディレクトリがリンクされている場合には実際のパスを使用]を選択解除します。詳細については、「リンクの解決」(41 ページ)を参照してください。
- ◆ NetBackup では、元のファイルパス名に従ってファイルがリストアされます。リストアするファイルがすでに存在する場合、その既存のファイルをバックアップされたファイルで上書きするには、対応するファイルアクセス権が必要です。各種の状況に応じたファイルのリストア方法については、「NetBackup に必要なファイルアクセス権」(7 ページ)を参照してください。

リストアするファイルとフォルダの検索に関するヒント

検索対象を絞り込むための検索条件を入力したら、[更新]をクリックして右側の表示区画の内容を更新します。

- ◆ ブラウズするディレクトリが正確にわかる場合は、そのディレクトリへのパスを[参照ディレクトリ]ボックスに入力します。このボックスを使用すると、すばやく検索できます。
- ◆ [選択したディレクトリの内容]表示区画に表示されるファイルとフォルダに対しては、フィルタ処理を行うことができます。フィルタ条件を入力した後で、[更新]をクリックします。詳細については、「ファイルのフィルタ処理」(17 ページ)を参照してください。
- ◆ バックアップを行ったときにキーワードフレーズを指定した場合は、そのキーワードフレーズを使用してバックアップを検索できます。キーワードフレーズを[検索するキーワードフレーズ]フィールドに入力してください。

リストアの実行

基本的なリストアの実行

1. [ファイルのリストア] タブをクリックします。



2. 必要に応じて、NetBackup のマスタ サーバを変更します。

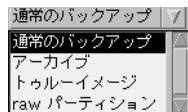
このクライアントをバックアップできるマスタ サーバが複数ある場合は、リストアするバックアップを行ったマスタ サーバにクライアントが接続されていることを確認します。別のマスタ サーバからリストアしようとする、バックアップのファイルが見つからないため、エラーになります。使用するマスタ サーバが不明な場合は、NetBackup の管理者に確認してください。

- a. [NetBackup サーバ] ボックスの横にある参照ボタンをクリックします。
- b. 一覧から目的のサーバを選択します。

- c. [了解] をクリックします。

無効な名前を入力した場合、またはクライアントがそのサーバの NetBackup クラスに属していない場合は、エラーが発生します。エラーが発生した場合は、システム管理者に問い合わせてください。

3. [バックアップのタイプ] ドロップダウン リストから、実行するリストアの種類を選択します。



- ◆ バックアップをリストアするには、[通常バックアップ] を選択します。
- ◆ アーカイブをリストアするには、[アーカイブ] を選択します。
- ◆ トゥルー イメージをリストアするには、[トゥルーイメージ] を選択します。トゥルー イメージのバックアップのリストア方法については、「フォルダのトゥルー イメージのリストア」(39 ページ) を参照してください。

4. リストアするフォルダまたはファイルを選択します。

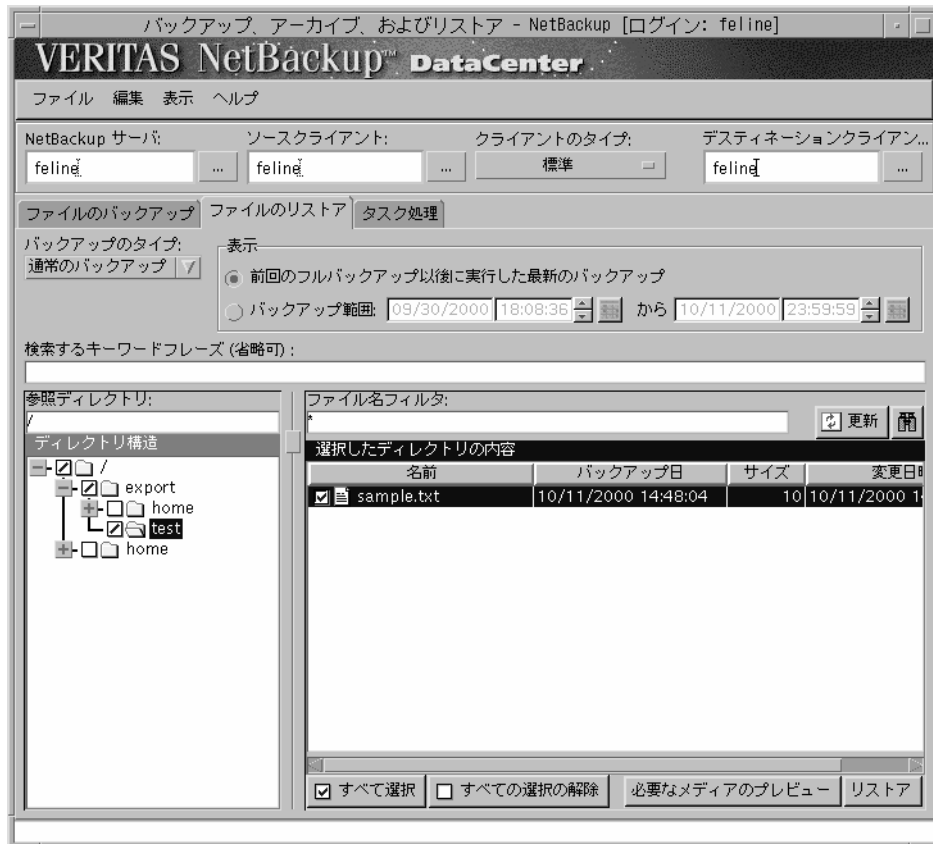
[選択したディレクトリの内容] 表示区画に表示されるファイルとフォルダに対しては、フィルタ処理を行うことができます。フィルタ条件を入力した後で、[更新] をクリックします。詳細については、「ファイルのフィルタ処理」(17 ページ) を参照してください。

この例では、キーワード フレーズの機能を使用して、「バックアップおよびアーカイブの実行」(19 ページ) でバックアップした `sample.txt` をリストアします。

- a. [検索するキーワードフレーズ] ボックスに、「`test`」と入力します。
- b. [参照ディレクトリ] ボックスに、バックアップされたファイルへのパスを入力します。この例では、パスとして「`/home/gla1`」と入力します。
- c. [更新] をクリックします。

リストアの実行

- d. 右の表示区画で、`sample.txt` ファイルの左のチェックボックスをマークします。



5. [リストア]をクリックします。

6. [ファイルのリストア]ダイアログボックスが表示されます。



7. デフォルトでは、ファイルは元の場所にリストアされます。
すべてのファイルを別の場所にリストアする方法、またはファイル別に異なる場所にリストアする方法については、「別のパスへのファイルのリストア」(35 ページ)を参照してください。
8. [上書き保存]を選択します。デフォルトでは、ファイルは上書きされません。
9. 選択したディレクトリにマウントされているファイルシステムをスキップするには、[マウント先をクロスせずにディレクトリをリストア]を選択します。選択したディレクトリにマウントされているファイルシステムをリストアするには、このチェックボックスをクリアします。

注 [マウント先をクロスせずにディレクトリをリストア]チェックボックスが選択されているかどうかに関係なく、内部のマウントポイントはリストアされます。

10. [リストアの開始]をクリックしてリストア操作を開始します。

リストアの実行

11. リストアの操作のステータスを確認するかどうかのプロンプトが表示されます。
[はい]をクリックして[タスク処理]タブを開きます。



[タスク処理] タブを使用すると、NetBackup の操作の進行状況を表示できます。詳細については、「バックアップおよびリストアの進行状況の表示」(29 ページ) を参照してください。

バックアップおよびリストアの進行状況の表示

1. [タスク処理] タブをクリックします。
2. [タスクリストの更新] をクリックし、実行するタスクの一覧を更新します。
3. 進行状況を表示するタスクをクリックします。
上の表示区画で選択した項目の進行状況が下の表示区画に表示されます。
4. タスクの結果を自動的にリフレッシュするには
 - a. [自動更新] をクリックします。
 - b. リフレッシュ間隔を選択します。デフォルトの設定は 10 秒です。この間隔を短くすると、サーバのパフォーマンスが低下する場合があります。



高度なリストア手順

5. デフォルトでは、プログレス ファイルは省略されて表示されます。プログレス ファイルの内容をすべて表示するには、[全内容を表示] をクリックします。


ステータスが [成功] に変わると、NetBackup の操作は終了します。タスクが失敗した場合は、タスク ログの結果を確認し、NetBackup のシステム管理者に相談してください。

高度なリストア手順

高度なリストアを行うための手順を以下に示します。各手順について詳しく説明します。

リストアするファイルの検索

ファイルまたはディレクトリをリストアする際に、そのファイルまたはディレクトリの現在の場所または元の場所を確認しなければならない場合があります。検索機能を使用すると、ファイルまたはディレクトリの名前を指定して検索することができます。

1. [ファイルのリストア] タブをクリックします。
2.  をクリックします。[検索] ウィンドウが表示されます。
3. [ファイルまたはディレクトリ名] ボックスに、検索するディレクトリまたはファイルの名前を入力します。

ディレクトリ名またはファイル名が不明な場合や類似する名前のディレクトリまたはファイルを表示する場合は、ワイルドカード文字 (*) を使用して検索できます。
4. 大文字と小文字を区別せずに検索する場合は、[大文字 / 小文字を区別しない検索の実行] オプションの左のボックスをチェックします。デフォルトでは、大文字と小文字が区別されます。つまり、入力した通りのファイル名で検索されます。

たとえば、「sample.txt」と入力して大文字と小文字を区別した検索を指定すると、小文字だけを使用するファイルが検索されます。Sample.txt や SAMPLE.TXT というファイルは検索結果に表示されません。
5. [検索] をクリックします。入力したディレクトリまたはファイルのすべてのバックアップが表示されます。

注 ファイルの一覧が更新されるのに数分かかることがあります。



6. ファイルまたはフォルダを選択するには、ファイルまたはフォルダの左のチェックボックスをクリックします。
7. [了解]をクリックして[リストア]ダイアログボックスに戻ります。選択したファイルまたはフォルダは、リストア対象としてマークされます。
8. [リストア]をクリックしてリストア操作を開始します。

バックアップ日付を指定したリストア

デフォルトでは、NetBackupの[リストア]ウィンドウに最後のフルバックアップ以降にバックアップされたファイルとフォルダが表示されます。通常のファイルのリストアでは、デフォルトの日付の範囲で十分です。ただし、デフォルトの範囲でバックアップされていないファイルをリストアする場合があります。たとえば、最後のフルバックアップ前に削除されたファイルは、デフォルトの表示には含まれません。このファイルを検索してバックアップするには、日付の範囲を変更する必要があります。

高度なリストア手順

クライアントが複数のクラスに属している場合、開始日には、最後に行われたフルバックアップのうち、最も古い日付がデフォルトで設定されます。たとえば、以下の例について考えます。1) クライアントは **ClassW1** と **ClassW2** に属しています。2) 両方のクラスに対してフルバックアップが行われます。3) **ClassW1** の最新のフルバックアップは6月16日に実行され、**ClassW2** の最新のフルバックアップは6月24日に実行されました。この場合、**NetBackup** では、6月16日に実行された **ClassW1** のフルバックアップ以降にバックアップされたファイルとフォルダが表示されます。

注 日付の範囲を指定してディレクトリを選択した場合は、最後のフルバックアップ時にバックアップされたすべてのファイルとサブディレクトリがリストアに含まれないことがあります。[選択したディレクトリの内容] 表示区画には、指定した日付の範囲でバックアップされたファイルとサブディレクトリだけが表示されます。指定した日付の範囲で複数回バックアップされているファイルまたはフォルダは、その複数のコピーが右の表示区画に表示されます。

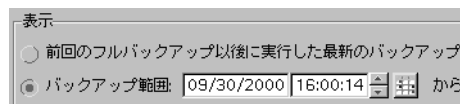
日付の範囲の設定

日付の範囲は、3つの方法で設定できます。[バックアップ範囲] フィールドで手動で日付を選択するか、カレンダーを通じて日付を選択するか、またはバックアップ履歴を通じて日付を選択します。

[バックアップ範囲] フィールドでの手動による日付の設定


1. [ファイルのリストア] タブで、[バックアップ範囲] を選択します。
2. 開始日と終了日を変更するには、変更する日付または時間に相当する部分を選択します。スピンコントロールを使用して日付または時間を変更します。

たとえば、日を変更するには、日の部分を選択します。上の矢印をクリックすると、翌日を指定できます。下の矢印をクリックすると、前日を指定できます。

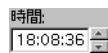


3. 同じ方法で終了日を変更します。
4. [更新] をクリックして表示されているファイルの一覧を更新します。

カレンダーを通じての日付の設定


1. [表示] メニューの [日付の設定にカレンダーを使用] をクリックします。
2. [ファイルのリストア] タブで、[バックアップ範囲] を選択します。
3. カレンダーボタン  をクリックします。

4. カレンダーで目的の開始日を選択します。
 - ◆ 月を変更するには、ダイアログ ボックスの左上隅のドロップダウン リストから目的の月を選択します。
 - ◆ 年を変更するには、ダイアログ ボックスの左上隅のドロップダウン リストから目的の年を選択します。
 - ◆ 時刻を変更するには、変更する時刻の部分を選択します。スピン コントロールを使用して時刻を変更します。



5. [了解] をクリックします。
6. 同じ方法で終了日を変更します。
7. [更新] をクリックして表示されているファイルの一覧を更新します。

バックアップ履歴を通じての日付の設定

1. [表示]メニューの[日付範囲の設定にバックアップの履歴を使用]をクリックします。
2. [ファイルのリストア]タブで、[バックアップ範囲]を選択します。
3. [Backup 履歴] ボタン  をクリックします。

高度なリストア手順

4. 一覧から目的のバックアップ イメージを選択します。

Backup 履歴							
バックアップ日	有効期限	ファイル	サイズ (...)	圧縮	スケジュールタイプ	クラス	キーワード
09/30/2000 16:20:04	10/14/2000	4	32	いいえ	ユーザバックアップ	snap	some
09/30/2000 16:09:30	10/14/2000	4	32	いいえ	ユーザバックアップ	snap	testtest
09/30/2000 16:01:06	10/14/2000	4	32	いいえ	ユーザバックアップ	snap	testtest
09/30/2000 15:55:58	10/14/2000	4	32	いいえ	ユーザバックアップ	snap	testtest
09/30/2000 15:47:36	10/14/2000	4	32	いいえ	ユーザバックアップ	snap	tree
09/30/2000 15:39:30	10/14/2000	4	32	いいえ	ユーザバックアップ	snap	two
09/30/2000 15:29:50	10/14/2000	4	32	いいえ	ユーザバックアップ	snap	one
09/30/2000 15:15:53	10/14/2000	4	32	いいえ	ユーザバックアップ	snap	
09/30/2000 15:10:46	10/07/2000	4	32	いいえ	ユーザバックアップ	template_example...	tetete
09/30/2000 15:08:17	10/07/2000	4	32	いいえ	ユーザバックアップ	template_example...	test
09/30/2000 15:02:12	10/07/2000	4	32	いいえ	ユーザバックアップ	template_example...	test
09/30/2000 14:52:20	10/07/2000	108	1920	いいえ	ユーザバックアップ	template_example...	test
09/30/2000 14:44:53	10/07/2000	4	32	いいえ	ユーザバックアップ	template_example...	test

開始日: 09/30/2000 15:02:12 終了日: 09/30/2000 15:39:30

ヒント 複数の連続したバックアップ イメージを選択するには、最初のバックアップ イメージをクリックし、Shiftキーを押したまま、最後のイメージをクリックします。

5. [了解] をクリックします。
6. [更新] をクリックして表示されているファイルの一覧を更新します。

フォルダの旧バージョンのリストア

注 以下の手順では、リストア対象のファイルを検索するために指定した日付の範囲内にバックアップされたすべてのファイルがリストアされます。バックアップ後にオンラインのディレクトリから削除されたファイルもリストアされます。削除されたファイルをリストアしない場合は、「フォルダのツール イメージのリストア」(39 ページ) で説明している手順に従ってください。

1. [ファイルのリストア] タブをクリックします。
2. ディレクトリの目的のバージョンを含むように開始日と終了日を設定します。
3. [更新] をクリックします。

4. [ディレクトリ構造]表示区画でリストアするフォルダを選択し、右の表示区画に必要なファイルが表示されたかどうかを確認します。

注 デフォルトでは、ディレクトリは元の場所にリストアされます。別の場所にリストアする場合は、「別のパスへのファイルのリストア」を参照してください。

5. [リストア]をクリックしてリストア操作を開始します。

別のパスへのファイルのリストア

バックアップした元のパスとは異なるパスにファイルをリストアする場合があります。このリストアを別のパスへのリストアと呼びます。

別の場所へのすべてのリストア

1. [ファイルのリストア]タブをクリックします。
2. リストアするファイルまたはフォルダを選択します。

注 ファイルとフォルダのリストア方法は、そのマーク方法に応じて異なります。フォルダ全体とそのすべての内容を一括して別の場所にバックアップする場合は、左側の表示区画でフォルダをマークします。フォルダ内のファイル別に複数の異なる場所にバックアップする場合は、右側の表示区画でファイルをマークします。

3. [リストア]をクリックします。
4. [すべてを別の場所にリストア]を選択します。

高度なリストア手順

5. [デスティネーション]ボックスに、ファイルまたはフォルダをリストアする先の別のディレクトリを入力します。



6. [上書き保存]を選択します。
7. 選択したディレクトリにマウントされているファイルシステムをスキップするには、[マウント先をクロスせずにディレクトリをリストア]を選択します。選択したディレクトリにマウントされているファイルシステムをリストアするには、[マウント先をクロスせずにディレクトリをリストア]チェックボックスをクリアします。
8. リンクであるファイルをリストアする場合は、そのリンクのパス名を更新するかどうかを指定します。
- ◆ ハードリンクのパス名を変更するには、[ハードリンク名の変更]を選択します。ハードリンクのパス名を変更しない場合は、[ハードリンク名の変更]チェックボックスをクリアします。
 - ◆ ソフトリンク(シンボリックリンク)のパス名を変更するには、[ソフトリンク名の変更]を選択します。ソフトリンクのパス名を変更しない場合は、[ソフトリンク名の変更]チェックボックスをクリアします。

注 現在のシステム ディスクとは別のディスクにシステム ファイルをリストアし、リストアの完了時に、そのリストア先のディスクを元のファイルパスのシステムディスクとして使用する場合は、[ハードリンク名の変更]チェックボックスを選択し、[ソフトリンク名の変更]チェックボックスをクリアしてください。リストア先の別のディスクと正しいファイルパスを使用できます。

9. [リストアの開始]をクリックします。

複数の異なる場所へのファイル別およびディレクトリ別のリストア

1. [ファイルのリストア]タブをクリックします。
2. リストアするファイルまたはフォルダを選択します。

注 ファイルとフォルダのリストア方法は、そのマーク方法に応じて異なります。フォルダ全体とそのすべての内容を一括して別の場所にバックアップする場合は、左側の表示区画でフォルダをマークします。フォルダ内のファイル別に複数の異なる場所にバックアップする場合は、右側の表示区画でファイルをマークします。

3. [リストア]をクリックします。
4. [個々のディレクトリとファイルを別の場所にリストアします]を選択します。



高度なリストア手順

5. ファイルまたはフォルダのリストア先を変更するには、ファイルをマウスの右ボタンでクリックします。複数のファイルおよびフォルダを選択するには、**Ctrl** キーを押しながら各項目をクリックするか、または **Shift** キーを押しながら選択範囲の最初と最後の項目をクリックします。詳細については、「ファイルおよびフォルダの指定」(18 ページ)を参照してください。
 - a. ショートカットメニューから、以下のいずれかを選択します。
 - ◆ 選択したファイル別に異なるリストア先を指定するには、[選択したデスティネーションの変更] を選択します。
 - ◆ 選択したすべてのファイルに同じリストア先を指定するには、[すべてのデスティネーションの変更] を選択します。
 - ◆ 全体のファイルに指定した別のディレクトリとは異なるディレクトリに一部のファイル (サブディレクトリなど) をリストアするには、[デスティネーションの追加] を選択します。
 - ◆ 選択したファイルを元の場所にリストアするには、[デスティネーションの削除] を選択します。
 - b. [すべてのデスティネーションの変更]または[デスティネーションの追加]を選択した場合は、別のリストア先とするディレクトリを指定できます。たとえば、全体のファイルのリストア先として /home/gla1/temp を選択したとします。しかし、サブディレクトリ /home/gla1/sample/ は /home/gla1/temp とは異なる場所にインストールするとします。この場合は、たとえば [バックアップのタイプ] ボックスに「/home/gla1/sample/」と入力します。サブディレクトリは、全体に指定したのとは異なるディレクトリにリストアされます。
 - c. [デスティネーション] ボックスに、ファイルのリストア先を入力します。
 - d. [了解] をクリックします。
6. [上書き保存] を選択します。
7. 選択したディレクトリにマウントされているファイルシステムをスキップするには、[マウント先をクロスせずにディレクトリをリストア] を選択します。選択したディレクトリにマウントされているファイルシステムをリストアするには、[マウント先をクロスせずにディレクトリをリストア] チェックボックスをクリアします。
8. リンクであるファイルをリストアする場合は、そのリンクのパス名を更新するかどうかを指定します。
 - ◆ ハードリンクのパス名を変更するには、[ハードリンク名の変更] チェックボックスを選択します。ハードリンクのパス名を変更しない場合は、[ハードリンク名の変更] チェックボックスをクリアします。
 - ◆ ソフトリンク(シンボリックリンク)のパス名を変更するには、[ソフトリンク名の変更] チェックボックスを選択します。ソフトリンクのパス名を変更しない場合は、[ソフトリンク名の変更] チェックボックスをクリアします。

注 現在のシステム ディスクとは別のディスクにシステム ファイルをリストアし、リストアの完了時に、そのリストア先のディスクを元のファイルパスのシステムディスクとして使用する場合は、[ハードリンク名の変更]チェックボックスを選択し、[ソフトリンク名の変更]チェックボックスをクリアしてください。リストア先の別のディスクと正しいファイルパスを使用できます。

9. [リストアの開始]をクリックします。

フォルダのツール イメージのリストア

ディレクトリのツール イメージのリストアを実行すると、デフォルトでは、最新の自動フルバックアップまたは自動インクリメンタルバックアップの状態にディレクトリの内容がリストアされます。指定したバックアップより前に削除されたファイルはリストアされません。

ツール イメージのリストアは、不要なファイルを削除してフォルダをクリーンアップした後、クリーンアップを繰り返さずに最新のバージョンをリストアする場合などに最適です。ディレクトリの旧バージョンのツール イメージをリストアすることもできます。

ツール イメージのリストアの例

ツール イメージのリストアの概念を示すために、以下の表を使用します。この表には、以下のディレクトリの内容が表示されています。

/home/abc/doc/

このディレクトリに含まれるバックアップの日付の範囲は、12/01/95 から 12/04/95 までです。

日付 バックアップの 種類	12/01/95 (フル)	12/02/95 (インクリ メンタル)	12/03/95 (インクリ メンタル)	12/04/95 (ユーザ)	12/04/95 (インクリ メンタル)
	file1	file1	file1	file1	file1
	file2	file2	file2	file2	file2
	dirA/fileA	dirA/fileA	dirA/fileA	dirA/fileA	-
	dirB/fileB	-	-	-	-
	file3	-	-	-	-
				dirC/fileC	-
				file4	file4

ディレクトリの最新バージョンをリストアするとします。

- ◆ 標準のリストアを行うと、12/01/95 (最後のフルバックアップ) から 12/04/95 までの期間中にバックアップされたすべてのファイルとサブディレクトリがリストアされます。

高度なリストア手順

```
file1
file2
dirA/fileA
dirB/fileB
file3
dirC/fileC
file4
```

- ◆ ツールー イメージのバックアップをリストアすると、12/04/95 のインクリメンタルバックアップ時に存在していたファイルとディレクトリだけがリストアされます。

```
file1
file2
file4
```

12/04/95のインクリメンタルバックアップより前に削除された内容はリストアされません。

dirA と dirC のサブディレクトリは、ユーザ指定のバックアップによって 12/04/95 にバックアップされています。しかし、リストアされるディレクトリには、dirA と dirC のサブディレクトリは含まれません。この2つのサブディレクトリがリストアされない理由は、ツールー イメージのリストアの基準となるインクリメンタルバックアップの時点に存在していなかったためです。

ツールー イメージのリストアと上書き

リストアするディレクトリを上書きする場合、そのディレクトリには現在含まれていても、ツールー イメージをリストアするバックアップに含まれていないファイルは削除されません。

前の例を使用すると、12/04/95 のインクリメンタルバックアップからリストアまでの間に file5 を作成したとします。この場合、リストア後のディレクトリの内容は、以下のようになります。

```
file1
file2
file4
file5 (いずれのバックアップにも含まれていない新しいファイル)
```

ツールー イメージのリストア手順

注 フォルダのツールー イメージをリストアできるのは、ファイルをバックアップする NetBackup のクラスがツールー イメージのリストア情報を収集するように、バックアップ前に設定されていた場合だけです。設定については、NetBackup の管理者に確認してください。

注 NetBackup では、ユーザ指定の操作時刻に基づいたトゥルー イメージのリストアはできません。ただし、最新の自動フル バックアップまたは自動インクリメンタル バックアップ以降にユーザによるバックアップが行われた場合は、ユーザ指定の操作のデータを使用してトゥルー イメージのリストアが行われます。

1. [ファイルのリストア] タブをクリックします。
2. ルート ディレクトリが選択されていることを確認します。
3. [バックアップのタイプ] ドロップダウン リストで、[トゥルーイメージ] を選択します。
4. [更新] をクリックし、リストア可能なバックアップの一覧を更新します。
5. リストアするフォルダを選択します。

ディレクトリ全体を特定の日付に存在していた状態でリストアするので、選択できるのはディレクトリの 1 つのバージョンだけです。同じ理由で、[すべての選択の解除] ボタンも無効になります。

注 該当するディレクトリが見つからない場合は、日付の範囲とパスを確認してください。これらの設定が正しいにもかかわらず、該当するディレクトリが見つからない場合は、ファイルとディレクトリのバックアップを行う NetBackup クラスがトゥルー イメージのリストア情報を収集するように設定されているかどうかをマスター サーバの管理者に確認してください。

6. [リストア] をクリックします。デフォルトでは、フォルダは元の場所にリストアされます。

リンクの解決

リストアするファイルを検索する際に、検索パス内のリンクを NetBackup で解決するかどうかを指定できます。リンクの解決を指定すると、実際のファイルまたはディレクトリを指すようにパスが自動的に変更されます。リンクの解決を指定しない場合は、ユーザが入力したパスが使用されます。

注 jbpSA では、デフォルトでリンクが解決されます。リンクを解決しない場合は、検索を開始する前に、[表示] メニューの [参照するディレクトリがリンクされている場合には実際のパスを使用] をクリックします。

注 ディレクトリの検索パスでワイルドカード文字を使用すると、NetBackup によるリンクの解決は行われません。

高度なリストア手順

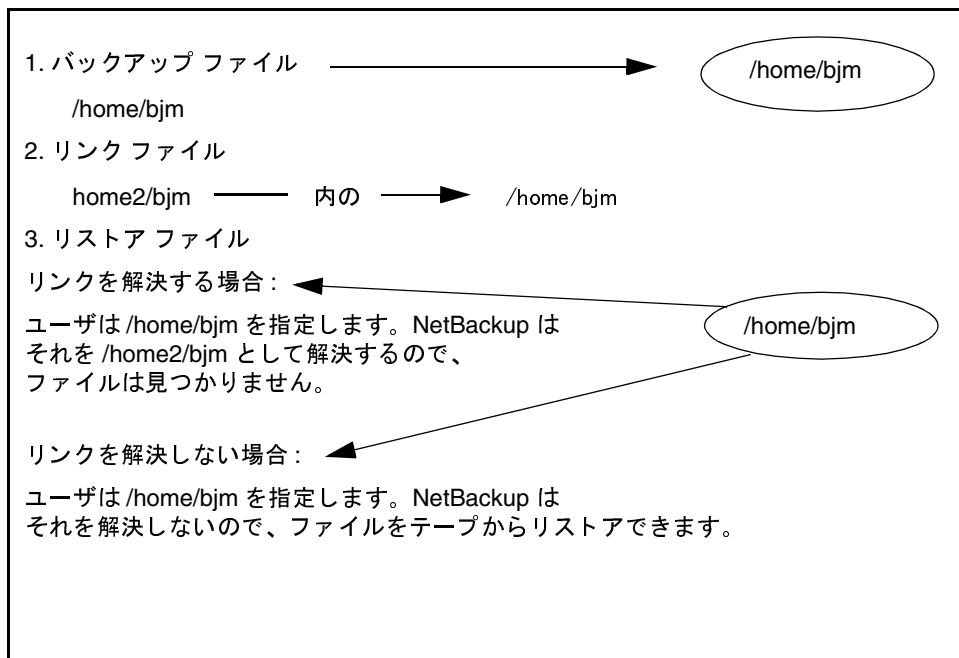
通常は、リンクを解決することを指定します。ただし、以下の場合は例外です。

- ◆ リンクではないファイルをバックアップした後で、そのファイルのパスが別のディレクトリへのリンクに変更された場合。

たとえば、`/home/bjm` をバックアップした後で、このディレクトリが `/home2/bjm` にリンクされているとします。リストア時にリンクの解決を指定すると、NetBackup は `/home2/bjm` を検索します。しかし、バックアップしたパスは `/home/bjm` なので、ファイルは見つかりません。

- ◆ 別のクライアントによってバックアップされたファイルをユーザのマシンにリストアする場合。別のクライアントのパスがユーザのマシンのリンクになっていると、問題が発生します。

たとえば、パス `/usr/opensv/` が別のクライアントのマシンではなく、ローカル マシンの `/opt/opensv` にリンクされているとします。[参照するディレクトリがリンクされている場合には実際のパスを使用] を選択すると、実際には `/opt/opensv` が存在しない別のクライアントで、そのパスが検索されます。



ヒントとトラブルシューティング

マウスの右ボタンによって表示されないポップアップメニュー

Solaris x86 で 2 ボタン マウスを使用した場合、右のボタンをクリックしてもポップアップメニューは表示されません。

この問題は、別のパスへのリストアを行う場合に影響します。リストア先は、ポップアップメニューからコマンドを選択することによってのみ変更できます。したがって、ファイル別に異なるリストア先を指定する場合に、特に問題になります。

▼ ポップアップメニューを表示するには

1. マウスの右ボタンを押したままにします。
2. Ctrl キーを押します。
3. マウスの右ボタンを離します。
4. Ctrl キーを離します。

同じ日付が指定された複数のバックアップの区別

デフォルトでは、[ファイルのリストア] タブに最後のフルバックアップ以降に作成された最近のファイル エントリだけが表示されます。表示されるファイル数を制限するためです。

すべてのバックアップを表示するほうが便利な場合もあります。たとえば、3 日前のバージョンをリストアすることがあります。この場合は、[ファイルのリストア] タブの [バックアップ範囲] オプションをクリックし、必要な日付を設定します。詳細については、「バックアップ日付を指定したリストア」(31 ページ) を参照してください。

選択した日付の範囲で複数回バックアップされたファイルまたはフォルダに対しては、その複数のエントリが表示されます。指定する日付の範囲を狭くするか、時間を変更することによって、表示される一覧を短縮できます。

一覧の初期状態で表示されないファイルのリストア

リストアできるファイルの一覧に初期状態で表示されないファイルは、ユーザによってバックアップされ、最後のフルバックアップに含まれていない可能性があります。[バックアップ範囲] を選択し、新しい開始日を入力します。[更新] をクリックし、ファイルが表示されたかどうかを確認します。

ヒントとトラブルシューティング

ファイルのマーク解除に長い時間がかかる

ファイルをマーク解除する場合、アプリケーションの制御が返される前に、長い時間がかかることがあります。[ディレクトリ構造]表示区画でディレクトリ全体をマークした後で、そのディレクトリ内の単一のファイルをマーク解除するときに、この問題が起こる場合があります。

無効なクライアント タイプを選択すると問題が発生する

クライアント タイプの設定を変更することはできますが、通常はデフォルトのクライアント タイプで問題がなく、変更する必要はありません。

無効なクライアント タイプの症状：

- ◆ ファイルをバックアップするすべての試行が失敗します。[タスク処理]タブに、失敗したバックアップごとに以下のエラーメッセージが表示されます。
設定データベース内のアクティブクラスは正確なクライアントタイプではありません。
- ◆ [ディレクトリ構造]表示区画と[選択したディレクトリの内容]表示区画に既存のバックアップが表示されません。

問題の原因が無効なクライアント タイプの設定にあると考えられる場合は、[クライアントのタイプ]の設定をオペレーティング環境に応じた値に変更します。UNIXの場合は[標準]タイプに変更します。それでも問題が解決されない場合は、NetBackupの管理者に相談し、NetBackupの設定に対応するようにクライアントタイプを設定する方法を確認してください。

メニュー インタフェースの使い方

3

この章では、NetBackup のメニュー インタフェース プログラム `bp` を使用して、NetBackup の操作を行う方法について説明します。メニュー インタフェースはキャラクタベースのインタフェースであり、`curses` ライブラリを使用します。したがって、`termcap` または `terminfo` が定義されているすべての端末または端末エミュレーション ウィンドウで使用できます。必要な前提条件を満たせば、すべての端末でメニュー インタフェース (`xbp`) または Java インタフェース (`jbp`) も使用できます。NetBackup のメニュー インタフェースには `xbp` と `jbp` の機能もあります。ただし、メニュー ドリブンの表示形式になります。

この章では、メニュー インタフェースの使い方を具体的な手順を追って説明します。メニュー インタフェースの特定の画面またはメニュー オプションの詳細については、第 5 章の「`xbp` および `bp` のリファレンス ガイド」を参照してください。

この章では、以下の内容について説明します。

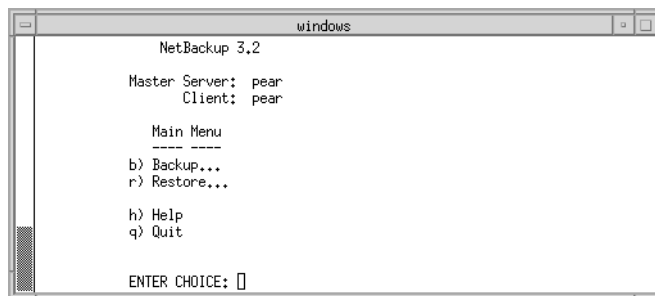
- ◆ メニュー インタフェースの起動
- ◆ バックアップまたはアーカイブの実行
- ◆ リストアの実行
- ◆ リンクの解決
- ◆ 操作の進行状況の確認

メニュー インタフェースの起動

メニュー インタフェースの起動

メニュー インタフェース プログラムを起動するには、
`/usr/opensv/netbackup/bin/bp` コマンドを入力します。

`bp` が起動すると、次のような [Main menu] が画面に表示されます。



```
NetBackup 3.2
Master Server: pear
Client: pear

Main Menu
-----
b) Backup...
r) Restore...

h) Help
q) Quit

ENTER CHOICE: 
```

メニューの上部には、クライアント名と NetBackup のマスタ サーバ名が表示されます。クライアントで複数のマスタ サーバを使用できる場合は、[Backup Menu] の [m (Change Master Server)] を使用して別のサーバを選択できます。

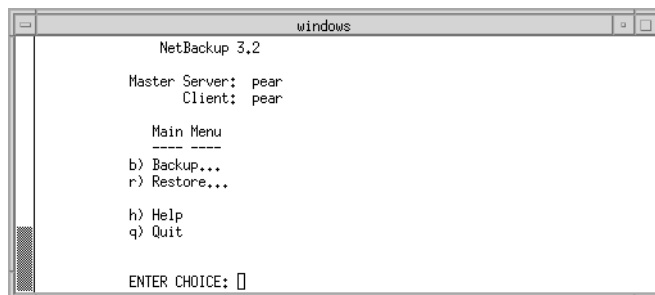
バックアップまたはアーカイブの実行

以下の手順では、ファイル、ディレクトリ、raw パーティションのバックアップ方法、およびファイルやディレクトリのアーカイブ方法を説明します。バックアップとアーカイブの主な違いは、アーカイブでは指定したディレクトリとファイルがバックアップ後にディスクから削除される点です。

1. 次のコマンド ラインを入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp
```

Main menu が表示されます。



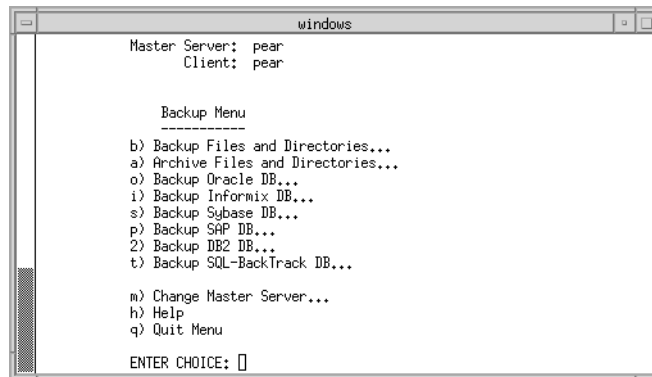
```
NetBackup 3.2
Master Server: pear
Client: pear

Main Menu
-----
b) Backup...
r) Restore...

h) Help
q) Quit

ENTER CHOICE: 
```

2. [b (Backup)] オプションを選択します。[Backup Menu] が表示されます。



このメニューの詳細については、「[Backup Menu]」(129 ページ)を参照してください。

注 BusinessServer では、[Backup SAP DB]、[Backup DB2 DB]、および [Backup SQL-BackTrack DB] の各メニュー項目はサポートされていません。

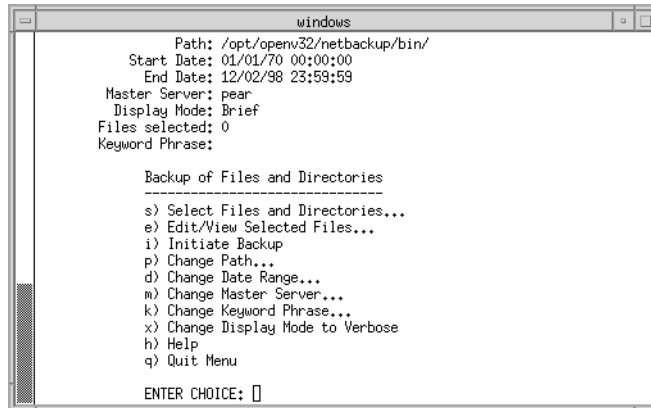
[Master Server] フィールドの名前を確認します。このフィールドには、バックアップ先のサーバ名が表示されます。このフィールドは、bp インタフェースプログラムの起動時にクライアントのデフォルトに設定されます。

管理者がバックアップ情報を移動した場合を除き、マスタサーバを切り替える必要はありません。バックアップ情報が一時的ではなく永続的に別の場所に移動された場合、管理者はデフォルトのバックアップ先マスタサーバを設定し直す必要があります。

マスタサーバを変更するには、[m (Change Master Server)] を選択し、新しいサーバ名を入力します。無効な名前を入力した場合、またはクライアントがそのサーバのクラスに属していない場合は、エラーが発生します。

バックアップまたはアーカイブの実行

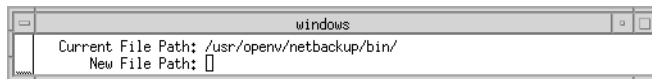
3. [b (Backup Files and Directories)] オプションを選択します。[Backup of Files and Directories] メニューが表示されます。



4. メニューの上部の [Path] フィールドのパスが、ファイルの検索対象とするディレクトリに設定されているかどうかを確認します。NetBackup の起動時に、[Path] は現在の作業ディレクトリに設定されます。

この例では、/usr/opensv/netbackup/ ディレクトリの release_notes.txt ファイルをバックアップします。

- a. パスを変更するには、[Backup of Files and Directories] メニューの [p (Change Path)] を選択します。次のプロンプトが表示されます。



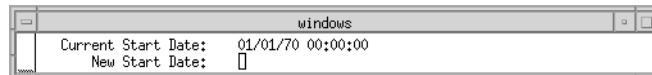
- b. [New File Path] フィールドに、次のパスを入力します。

/usr/opensv/netbackup/

- c. Return キーを押して [Backup of Files and Directories] メニューに戻ります。

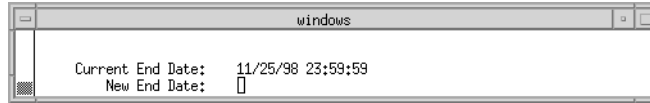
5. [Start Date] フィールドと [End Date] フィールドの日付の範囲に、バックアップするファイルの最終更新日が含まれることを確認します。

- a. 日付の範囲を変更するには、[Backup of Files and Directories] メニューの [d (Change Date Range)] を選択します。次のプロンプトが表示されます。



- b. 新しい開始日を入力します。

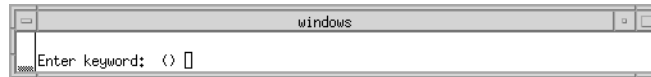
- c. Return キーを押します。次のプロンプトが表示されます。



- d. 新しい終了日を入力します。
e. Return キーを押して [Backup of Files and Directories] メニューに戻ります。

6. バックアップを識別するためのキーワード フレーズを入力します。この例では、キーワードとして *bptest* を使用します。

- a. [Backup of Files and Directories] メニューの [k (Change Keyword Phrase)] を選択します。次のプロンプトが表示されます。



- b. キーワードとして「*bptest*」と入力します。
c. Return キーを押して [Backup of Files and Directories] メニューに戻ります。

7. バックアップするファイルとディレクトリを選択します。

- a. [Backup of Files and Directories] メニューの [s (Select Files and Directories)] を選択します。次の画面が表示されます。



- b. 画面の下部のメニュー オプションを使用してファイルシステムをブラウズし、目的のファイルとディレクトリを選択します。

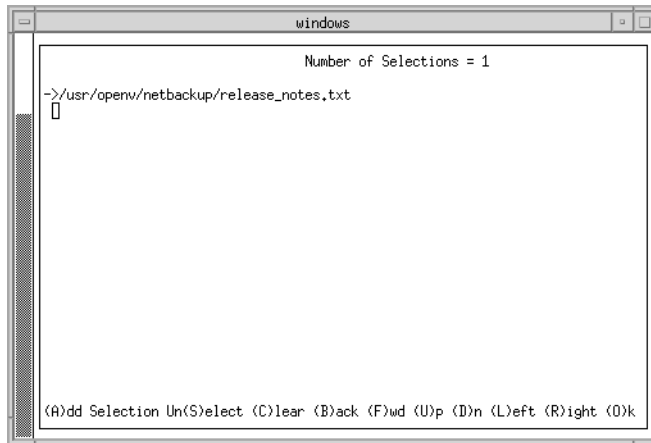
バックアップまたはアーカイブの実行

- c. [(S)elect] を選択し、`release_notes.txt` ファイルを選択します。選択したファイルの左側にアスタリスク (*) が表示されます。



ディレクトリを選択すると、選択したディレクトリ内のすべてのファイルとディレクトリが選択されます。選択したディレクトリの左側には、アスタリスク (*) が表示されます。

- d. [(O)k] を選択して [Backup of Files and Directories] メニューに戻ります。
8. 選択したバックアップ対象のファイルとディレクトリをプレビューします。
- a. [Backup of Files and Directories] メニューの [e (Edit/View Selected Files)] を選択します。次の画面が表示されます。

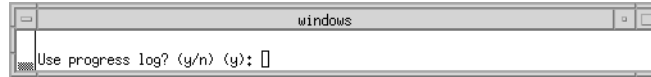


この画面には、選択した項目の一覧が表示されます。必要に応じて、この一覧を変更できます。

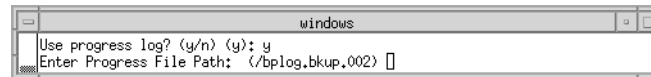
- b. 一覧に、`release_notes.txt` ファイルが表示されていることを確認します。
- c. [(O)k] を選択して [Backup of Files and Directories] メニューに戻ります。
9. バックアップ操作を開始します。

注 バックアップ操作を開始するまでは、Esc キーを押していつでも [Backup of Files and Directories] メニューに戻ることができます。

- a. [Backup of Files and Directories] メニューの [i (Initiate Backup)] を選択します。次のプロンプトが表示されます。

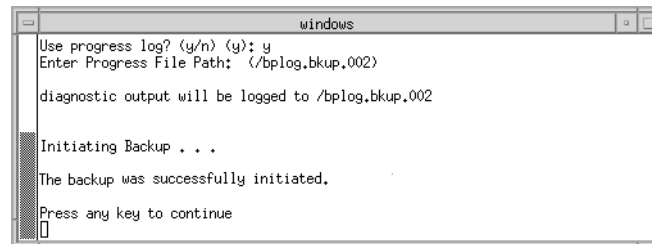


- b. 「y」と入力してログ ファイルを作成します。このファイルには、操作の進行に伴ってログが記録されます。次のプロンプトが表示されます。



ログを記録しない場合は、「n」と入力して操作を開始し、手順 d に進みます。

- c. Return キーを押してかっこで囲まれたデフォルトのパスを受け入れるか、または新しいパスを入力して Return キーを押します。Return キーを押すと、操作が開始されます。次のプロンプトが表示されます。



- d. 任意のキーを押して [Backup of Files and Directories] メニューに戻ります。

10. [q (Quit Menu)] を選択して [Main menu] に戻ります。

リストアの実行

NetBackup では、元のファイルパス名に従ってファイルがリストアされます。現在のファイルとバックアップされたファイルの名前が同一の場合は、現在のファイルを上書きするかどうかを指定できます。ただし、上書きするにはファイルに対するアクセス権が必要です。各種の状況に応じたファイルのリストア方法については、「NetBackup に必要なファイルアクセス権」(7 ページ) を参照してください。

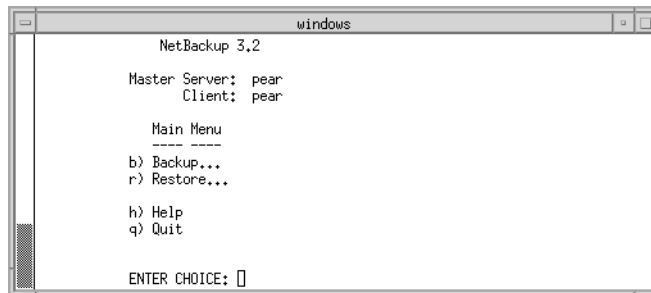
注 raw パーティションをリストアする場合は、そのパーティションがマウントされていないこと、および使用中でないことを確認します。また、リストアする前に、raw パーティションのデバイス ファイルが存在することも確認します。

リストアの実行

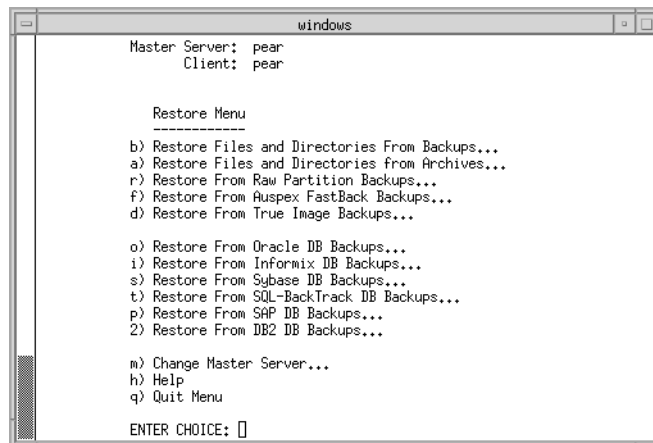
1. 次のコマンド ラインを入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp
```

[Main menu] が表示されます。



2. [Main menu] の [r (Restore)] を選択します。[Restore Menu] が表示されます。



このメニューの詳細については、「[Restore Menu]」(133 ページ)を参照してください。

注 BusinessServer では、[Restore From Auspex FasBack Backups]、[Restore From SQL-BackTrack DB Backups]、[Restore From SAP DB Backups]、および [Restore From DB2 DB Backups] の各メニュー項目はサポートされていません。

複数のマスタ サーバがサポートされているサイトで、別のサーバのファイルをブラウズまたはリストアする場合は、画面の上部の [Master Server] フィールドを確認します。bp インタフェースプログラムの起動時には、[Master Server] フィールドにクライアントのデフォルト値が表示されます。

別のマスタ サーバのバックアップをブラウズするには、[m (Change Master Server)] を選択し、別のサーバの名前を入力します。無効な名前を入力した場合、またはクライアントがそのサーバのクラスに属していない場合は、エラーが発生します。

3. [b (Restore Files and Directories from Backups)] オプションを選択します。[Restore Backups] メニューが表示されます。

```

windows
Path: /opt/opensv32/netbackup/bin/

Start Date: 12/02/98 07:09:39      Master Server: pear
End Date: 12/02/98 23:59:59      Source Client: pear
Files Selected: 0                  Destination Client: pear
Directory Depth: 1 level          Class Type: Standard
Display Mode: Brief              Keyword Phrase:

Restore Backups
-----
s) Select Files and Directories... p) Change Path...
e) Edit/View Selected Files...     d) Change Date Range...
i) Initiate Restore                c) Change Directory Depth...
x) Change Display Mode to Verbose  n) Change Master Server...
l) List Backup Images...           b) Change Source Client...
a) Specify Alternate Path...       t) Change Destination Client
q) Quit Menu                       y) Change Class Type
h) Help                             k) Change Keyword Phrase

ENTER CHOICE: [ ]

```

4. クライアントのバックアップを表示します。
- a. [Restore Backups] メニューの [l (List Backup Images)] を選択します。

```

windows
-----
Backed Up   Expires   Files   KB   C   Sched Type   Class   Keywor
-----
11/27/98 12:10 01/28/99   5   256 N   User Backup   production_w_bptest
11/27/98 12:07 01/28/99   5   256 N   User Backup   production_w_xbptes
11/26/98 20:40 12/23/98  26   258 N   Incr Backup   production_w_NONE
11/25/98 20:30 12/28/98 103  2064 N   Incr Backup   production_w_NONE
11/25/98 13:50 01/26/99   5   256 N   User Backup   production_w_test
11/25/98 13:39 01/26/99   5   256 N   User Backup   production_w_test
11/24/98 11:13 01/25/99   5   256 N   User Backup   production_w_test
11/24/98 11:11 01/25/99   5   256 N   User Backup   production_w_test
11/23/98 20:45 12/26/98  90   774 N   Incr Backup   production_w_NONE
11/20/98 19:09 12/23/98 133  2580 N   Incr Backup   production_w_NONE
11/19/98 04:02 12/22/98  41  2064 N   Incr Backup   production_w_NONE
11/17/98 22:43 12/20/98  76  2322 N   Incr Backup   production_w_NONE
11/16/98 22:15 12/19/98  74  2322 N   Incr Backup   production_w_NONE
11/14/98 23:16 12/17/98  24  1806 N   Incr Backup   production_w_NONE
11/13/98 21:50 12/16/98  59  2322 N   Incr Backup   production_w_NONE
11/13/98 00:18 12/16/98  46  2322 N   Incr Backup   production_w_NONE
11/12/98 00:44 12/15/98  71  2322 N   Incr Backup   production_w_NONE
11/10/98 23:14 12/13/98  33  1806 N   Incr Backup   production_w_NONE
11/09/98 22:25 12/12/98  72  2322 N   Incr Backup   production_w_NONE
11/08/98 18:29 12/11/98  34  1806 N   Incr Backup   production_w_NONE

[B]ack [F]orward [U]p [D]own [Q]uit

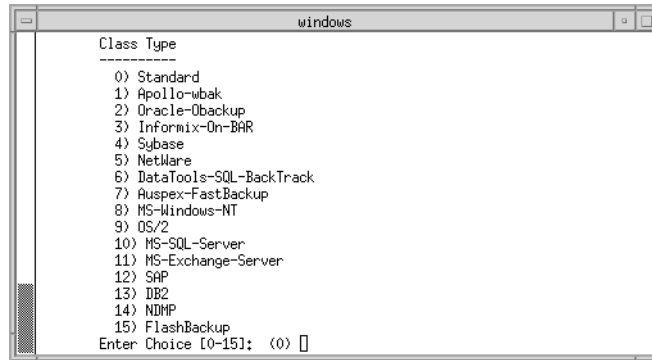
```

この画面には、作成されたバックアップが表示されます。「バックアップまたはアーカイブの実行」(46 ページ) のバックアップ手順で入力したキーワード `bptest` が、キーワードのカラムに表示されていることを確認します。ここでは、キーワード `bptest` に対応するバックアップからリストアを行います。

- b. [(Q)uit] を選択して [Restore Backups] メニューに戻ります。
5. [Class Type] フィールドで、クラス タイプが正しく設定されているかどうかを確認します。

リストアの実行

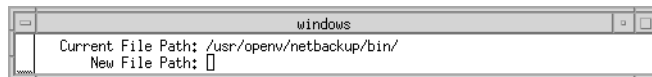
- a. クラス タイプを変更するには、[Restore Backups] メニューの [y (Change Client Type)] を選択します。



現在のクラス タイプは、かっこ内に表示されます。

注 BusinessServer では、Apollo-wbak、DataTools-SQL-BackTrack、Auspex-FastBackup、SAP、DB2、および FlashBackup の各クラス タイプはサポートされていません。

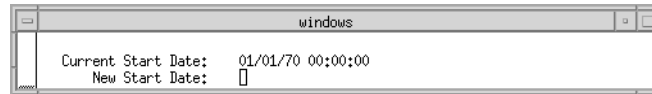
- b. 新しいクラス タイプの番号を入力します。
- c. Return キーを押して [Restore Backups] メニューに戻ります。
6. [Restore Backups] メニューの上部の [Path] フィールドで、パスが検索対象のディレクトリに設定されているかどうかを確認します。起動時には、インタフェースプログラムを起動するディレクトリが現在のパスとして設定されます。
- a. パスを変更するには、[p (Change Path)] を選択します。次のプロンプトが表示されます。



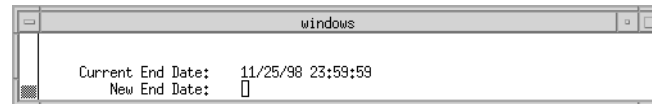
この例では、パスを /usr/opens/netbackup に変更します。

- b. 新しいファイルパスを入力します。
- ```
/usr/opens/netbackup
```
- まず、このディレクトリが検索され、続いて下位のディレクトリが検索されます。
- c. Return キーを押して [Restore Backups] メニューに戻ります。

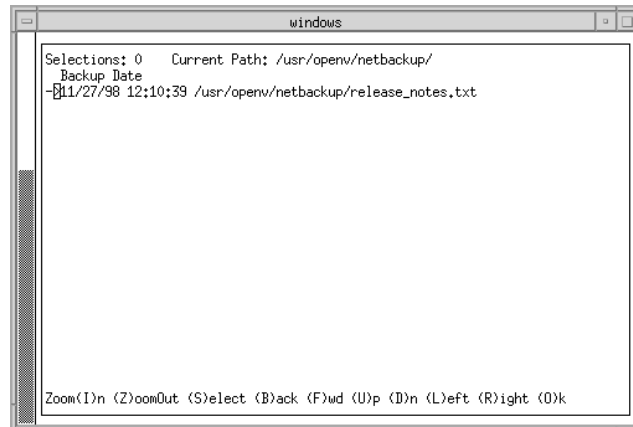
7. [Start Date]フィールドと[End Date]フィールドの日付の範囲内に、リストアするファイルのバックアップ日が含まれているかどうかを確認します。
- a. 日付の範囲を変更するには、[Restore Backups]メニューの[d (Change Date Range)]を選択します。次のプロンプトが表示されます。



- b. 新しい開始日を入力します。
- c. Return キーを押します。次のプロンプトが表示されます。
- d. 新しい終了日を入力します。
- e. Return キーを押して [Restore Backups]メニューに戻ります。
8. リストアするファイルとディレクトリを選択します。



- a. [Restore Backups]メニューの[s (Select Files and Directories)]を選択し、クライアントに属するファイルとディレクトリのうち、パスと日付の条件に合致するものを検索します。次の画面が表示されます。



ディレクトリ全体をリストアする場合に、ディレクトリ内のファイルが日付の範囲内で複数回バックアップされていると、最新のバックアップだけがリストアされます。古いバージョンをリストアするには、以下のいずれかの操作を行います。

- ◆ ディレクトリ単位ではなくファイル単位でリストアを行い、目的のバックアップ日のファイルを選択します。

または

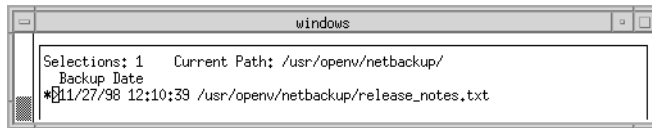
## リストアの実行

- ◆ 手順7に戻り、必要な日付のバックアップだけを指定します。

ここでは、ディレクトリ全体をリストアできます。ただし、リストアを開始する前に、そのディレクトリに含まれるすべてのファイルを古いバージョンで上書きするかどうかを決定します。既存のファイルを上書きしない場合は、ディレクトリを別のパスにリストアできます。手順10を参照してください。

「簡略化したリストア手順」(82ページ)と「ディレクトリのトゥルー イメージのリストア」(61ページ)も参照してください。

- この画面の下部にあるメニュー オプションを使用して、ディスプレイの矢印を `release_notes.txt` ファイルがある行に移動します。
- `[(S)elect]` を選択し、`release_notes.txt` ファイルを選択します。選択したファイルの左側には、アスタリスク (\*) が表示されます。



ディレクトリを選択すると、選択したディレクトリ内のすべてのファイルとディレクトリが暗黙で選択されます。選択したディレクトリの左側には、アスタリスク (\*) が表示されます。

- `[(O)k]` を選択して `[Restore Backups]` メニューに戻ります。
- 選択したリストア対象のファイルとディレクトリをプレビューします。
    - `[Restore Backups]` メニューの `[e (Edit/View Selected Files)]` を選択します。次の画面が表示されます。



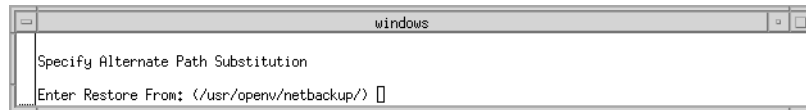
この画面には、選択した項目の一覧が表示されます。必要に応じて、この一覧を変更できます。

- b. 一覧に、`release_notes.txt` ファイルが表示されていることを確認します。
  - c. **[O]k** を選択して **[Restore Backups]** メニューに戻ります。
10. 別のリストアパスを設定します。

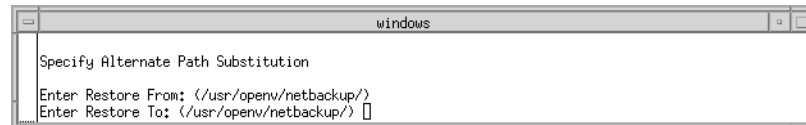
この手順はオプションです。この手順では、同じクライアントの別のパスにファイルをリストアします。次の例では、別のパスにリストアするために、`/usr/opensv/netbackup` から `/usr/opensv/netbackup/bin` にリストア先を変更します。

**注** マスタ サーバの **NetBackup** を使用して、**Novell NetWare** クライアントの **NetBackup** の別のパスにファイルをリストアすることはできません。この種のクライアントに対しては、**NetWare** クライアントのユーザ インタフェースを使用して別のパスへのリストアを行う必要があります。

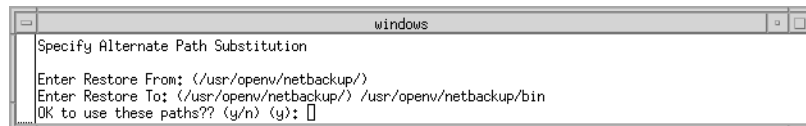
- a. **[Restore Backups]** メニューの **[a (Specify Alternate Path)]** を選択します。次のプロンプトが表示されます。



- b. **Return** キーを押します。次のプロンプトが表示されます。



- c. **[Enter Restore To]** フィールドに、次のパスを入力します。  
`/usr/opensv/netbackup/bin`
- d. **Return** キーを押します。次のプロンプトが表示されます。



## リストアの実行

- e. 「y」と入力し、次のリストアに対して [Restore From] と [Restore To] に指定したパスを使用します。次のプロンプトが表示されます。

```

Specify Alternate Path Substitution
Enter Restore From: (/usr/openw/netbackup/)
Enter Restore To: (/usr/openw/netbackup/)
OK to use these paths?? (y/n) (y):

Note: the temporary file /var/tmp/AAA01pUrh will be used
to manage the restore.

Press any key to continue

```

「n」と入力すると、変更が取消されて、以前のパスが使用されます。

- f. 任意のキーを押して [Restore Backups] メニューに戻ります。

## 11. リストア操作を開始します。

- a. [Restore Backups] メニューの [i (Initiate Backup)] を選択します。次のプロンプトが表示されます。

```

Restoring the following files
/usr/openw/netbackup/release_notes.txt
Overwrite if file(s) exist? (y/n) (n):

```

**注意** raw パーティションのリストアでは、上書きオプションが無視されます。raw パーティションのリストアにはデバイスファイルが必要であり、上書きオプションが設定されているかどうかに関係なく、ディスクパーティションは上書きされます。

- b. 「y」と入力して既存のファイルを上書きします。次のプロンプトが表示されます。

```

Restoring the following files
/usr/openw/netbackup/release_notes.txt
Overwrite if file(s) exist? (y/n) (n):y
Use progress log? (y/n) (y):

```

既存のファイルを上書きしない場合は、「n」と入力します。

- c. 「y」と入力してログ ファイルを作成します。このファイルには、操作の進行に伴ってログが記録されます。次のプロンプトが表示されます。

```

windows
Restoring the following files
/usr/openv/netbackup/release_notes.txt
Overwrite if file(s) exist? (y/n) (n): y
Use progress log? (y/n) (y):
Enter Progress File Path: (/bplog.rest.002)

```

ログを記録しない場合は、「n」と入力して操作を開始し、手順 d に進みます。

- d. Return キーを押してかっこで囲まれたデフォルトのパスを受け入れるか、または新しいパスを入力して Return キーを押します。Return キーを押すと、操作が開始されます。

以前に別のリストアパス（手順 10 を参照）を選択している場合は、[Use alternate path substitution?] というプロンプトが表示されます。

```

windows
Restoring the following files
/usr/openv/netbackup/release_notes.txt
Overwrite if file(s) exist? (y/n) (n): y
Use progress log? (y/n) (y):
Enter Progress File Path: (/bplog.rest.002)
diagnostic output will be logged to /bplog.rest.002
Use alternate path substitution? (y/n) (y):

```

別のパスへのリストアを取消するには、「n」と入力します。リストア操作が開始され、別のパスは無視されます。

- e. 「y」と入力して別のパスを使用します。  
f. Return キーを押します。次のプロンプトが表示されます。

```

windows
Restoring the following files
/usr/openv/netbackup/release_notes.txt
Overwrite if file(s) exist? (y/n) (n): y
Use progress log? (y/n) (y): y
Enter Progress File Path: (/bplog.rest.002)
diagnostic output will be logged to /bplog.rest.002
Use alternate path substitution? (y/n) (y): y
Rename hard links relative to the alternate path? (y/n) (y):

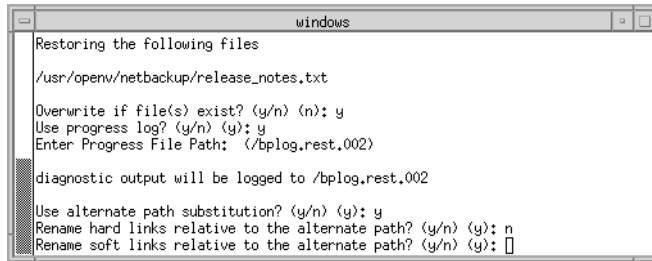
```

**注** システム ファイルを現在のシステム ディスク以外のディスクにリストアし、リストアの完了後にリストア先のディスクを元のファイルパスのシステムディスクとして使用する場合は、[Rename Hard Links] に「y (はい)」と指定し、[Rename Soft Links] に「n (いいえ)」と指定してください。リストア先のディスクと正しいファイルパスを使用できます。

## リストアの実行

検索するパスにリンクが含まれている場合は、パスが実際のファイルまたはディレクトリを指すようにリンクを解決するかどうかを指定できます。リンクを解決しない場合は、プロンプトに対して「n (いいえ)」と入力します。詳細については、「リンクの解決」(65 ページ)を参照してください。

- g. 「n」と入力します。次のプロンプトが表示されます。



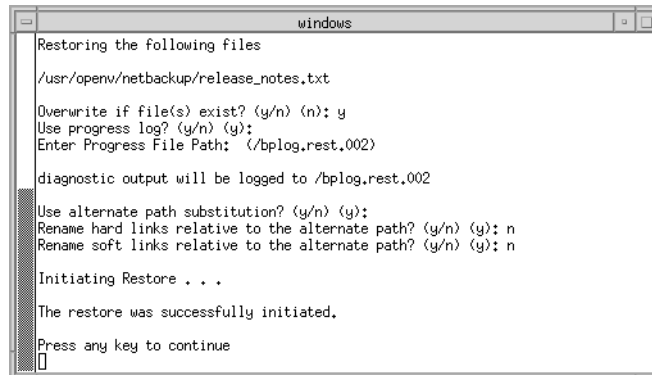
```
Restoring the following files
/usr/opensw/netbackup/release_notes.txt

Overwrite if file(s) exist? (y/n) (n): y
Use progress log? (y/n) (y): y
Enter Progress File Path: (/bplg.rest.002)

diagnostic output will be logged to /bplg.rest.002

Use alternate path substitution? (y/n) (y): y
Rename hard links relative to the alternate path? (y/n) (y): n
Rename soft links relative to the alternate path? (y/n) (y):
```

- h. 「n」と入力します。「n」と入力すると、リストア操作が開始されます。次のプロンプトが表示されます。



```
Restoring the following files
/usr/opensw/netbackup/release_notes.txt

Overwrite if file(s) exist? (y/n) (n): y
Use progress log? (y/n) (y): y
Enter Progress File Path: (/bplg.rest.002)

diagnostic output will be logged to /bplg.rest.002

Use alternate path substitution? (y/n) (y):
Rename hard links relative to the alternate path? (y/n) (y): n
Rename soft links relative to the alternate path? (y/n) (y): n

Initiating Restore . . .

The restore was successfully initiated.

Press any key to continue

```

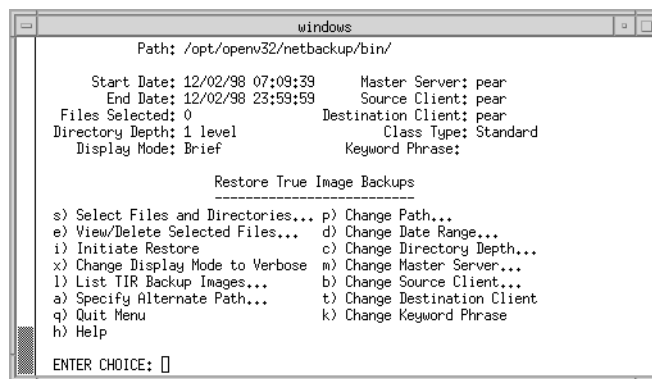
- i. 任意のキーを押して [Restore Backups] メニューに戻ります。



## ディレクトリのトゥルー イメージのリストア

トゥルー イメージのリストアを実行すると、自動フルバックアップまたは自動インクリメンタルバックアップが選択されたときの状態に、ディレクトリの内容がリストアされます。トゥルー イメージのリストアの概要については、「別の場所へのすべてのリストア」(35 ページ)を参照してください。そこで説明されている Java インタフェースについての概念は、メニューインタフェースにも当てはまります。

1. [Restore Menu] メニューの [d (Restore From True Image Backups)] を選択します。[Restore True Image Backups] メニューが表示されます。



2. [Restore True Image Backups] メニューの [d (Change Date Range)] を選択します。
  - ◆ デフォルトの開始日は、スケジュールされたクラスのフルバックアップが最後に行われた日付です。最後のフルバックアップより前のバージョンをリストアする場合を除いては、デフォルトを使用します。
  - ◆ デフォルトの終了日は、現在の日付です。必要に応じて、この値を変更し、リストアする日付を反映することができます。

この例では、ディレクトリの最新バージョンをリストアします。したがって、デフォルトの日付範囲を使用します。

3. トゥルー イメージをリストアするバックアップの一覧を表示するには、[Restore True Image Backups] メニューの [l (List TIR Backup Images)] を選択します。
4. パスを変更するには、[Restore True Image Backups] メニューの [p (Change Path)] を選択します。

目的のバックアップを検索するディレクトリを入力します。このディレクトリが最初に検索され、続いて下位のディレクトリが検索されます。

特定のディレクトリを検索するには、そのディレクトリの完全なパスをプロンプトに入力します。

## リストアの実行

5. [Restore True Image Backups]メニューの[s (Select Files and Directories)]を選択し、クライアントに属するディレクトリのうち、パスと日付の条件に合致するものを検索します。

ツールイメージのリストアでは、ディレクトリ全体をリストアするため、個別のファイルを表示したり、選択することはできません。ツールイメージをリストアするバックアップから個別のファイルを表示または選択するには、[Restore Backups]メニューを使用します。

ツールイメージのリストアでは、インクリメンタルバックアップの時点にディレクトリ内に存在していたファイルがリストアされます。インクリメンタルバックアップの時点に存在していなかったファイルはリストアされません。

---

**注** 該当するディレクトリが見つからない場合は、日付の範囲、パス、およびディレクトリのレベル数を確認してください。これらの設定が正しいにもかかわらず、該当するディレクトリが見つからない場合は、ファイルとディレクトリのバックアップを行うNetBackupクラスがツールイメージのリストア情報を収集するように設定されているかどうかをマスターサーバの管理者に確認してください。

---

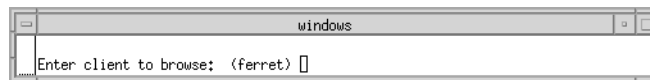
6. リストアするファイルまたはディレクトリを選択します。
  - a. 画面の下部のメニューオプションを使用して目的のディレクトリを検索して選択します。
  - b. 選択が完了したら、[(O)k]を選択して[Restore True Image Backups]メニューに戻ります。
7. リストアするために選択したファイルとディレクトリをプレビューします。
  - a. [Restore True Image Backups]メニューの[e (Edit/View Selected Files)]を選択します。
  - b. 選択したディレクトリが一覧に表示されていることを確認します。
  - c. [(O)k]を選択して[Restore True Image Backups]メニューに戻ります。
8. ファイルをバックアップした元のディレクトリとは別のディレクトリにリストアする場合は、[Restore True Image Backups]メニューの[a (Specify Alternate Path)]を選択します。
9. [i (Initiate Backup)]を選択して[Initiate Restore]画面を表示します。
10. プロンプトに答えて、リストアを開始します。

リストアするディレクトリを上書きする場合、そのディレクトリには現在含まれていても、ツールイメージをリストアするバックアップに含まれていないファイルは削除されません。詳細については、「ツールイメージのリストアと上書き」(40ページ)を参照してください。

## 別のクライアントへのリストア

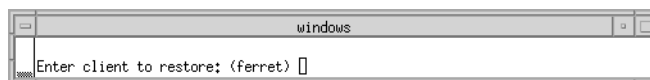
**注** マスタ サーバの NetBackup を使用して、Novell NetWare クライアントの NetBackup の別のパスにファイルをリストアすることはできません。この種のクライアントに対しては、NetWare クライアントのユーザ インタフェースを使用して別のパスへのリストアを行う必要があります。

1. [Main menu] の [r (Restore)] を選択します。[Restore Menu] が表示されます。
2. [b (Restore Files and Directories from Backups)] オプションを選択します。[Restore Backups] メニューが表示されます。
3. ソース クライアントを変更します。
  - a. [Restore Backups] メニューの [b (Change Source Client)] を選択します。次のプロンプトが表示されます。



現在のクライアントは、かっこ内に表示されます。

- b. ブラウズしてファイルをリストアするソース クライアントの名前を入力します。
  - c. Return キーを押して [Restore Backups] メニューに戻ります。
4. リストア先のクライアントを変更します。
    - a. [Restore Backups] メニューの [t (Change Destination Client)] を選択します。次のプロンプトが表示されます。



現在のクライアントは、かっこ内に表示されます。

- b. ファイルのリストア先とするクライアントの名前を入力します。

**注** リストア先のクライアントは、ソース クライアントと同じクラス タイプでなければなりません。

- c. Return キーを押して [Restore Backups] メニューに戻ります。

## リストアの実行

---

5. ソースクライアントとリストア先のクライアントのクラスタイプを確認します。
  - a. クラスタイプを変更するには、[Restore Backups] メニューの [y (Change Client Type)] を選択します。現在のクラスタイプは、かっこ内に表示されます。
  - b. ソースクライアントとリストア先のクライアントのクラスタイプを入力します。
  - c. Return キーを押して [Restore Backups] メニューに戻ります。
6. [Restore Backups] メニューの上部の [Path] フィールドで、パスが目的のバックアップを検索するディレクトリに設定されているかどうかを確認します。
  - a. パスを変更するには、[p (Change Path)] を選択します。
  - b. 新しいファイルパスを入力します。
  - c. Return キーを押して [Restore Backups] メニューに戻ります。
7. リストアするファイルとディレクトリを選択します。
  - a. [Restore Backups] メニューの [s (Select Files and Directories)] を選択し、クライアントに属するファイルとディレクトリのうち、パスと日付の条件に合致するものを検索します。
  - b. この画面の下部にあるメニューオプションを使用して、リストア先のクライアントにリストアするファイルまたはディレクトリに、ディスプレイの矢印を移動します。
  - c. [(S)elect] を選択し、ファイルまたはディレクトリを選択します。選択したファイルまたはディレクトリの左側には、アスタリスク (\*) が表示されます。  
ディレクトリを選択すると、選択したディレクトリ内のすべてのディレクトリとファイルが暗黙で選択されます。
  - d. [(O)k] を選択して [Restore Backups] メニューに戻ります。
8. 選択したリストア対象のファイルとディレクトリをプレビューします。
  - a. [Restore Backups] メニューの [e (Edit/View Selected Files)] を選択します。画面に選択した項目の一覧が表示されます。この一覧は必要に応じて変更できます。
  - b. 選択した内容を確認します。
  - c. [(O)k] を選択して [Restore Backups] メニューに戻ります。
9. [i (Initiate Backup)] を選択してリストア操作を開始します。
10. プロンプトに従って操作します。Return キーを押すと、リストア操作が開始されます。

## リンクの解決

リストアするファイルを検索する際に、検索パス内のリンクを NetBackup で解決するかどうかを指定できます。リンクの解決を指定すると、実際のファイルまたはディレクトリを指すようにパスが自動的に変更されます。リンクの解決を指定しない場合は、入力したパスが使用されます。詳細については、「リンクの解決」(41 ページ)を参照してください。

---

**注** bp では、選択したパスにリンクがある場合、バックアップのブラウザを選択するとプロンプトが表示されます。

---

**注** ディレクトリの検索パスでワイルドカード文字を使用すると、NetBackup によるリンクの解決は行われません。

---

## 操作の進行状況の確認

NetBackup の操作を開始するときに、選択したディレクトリにログ ファイルを作成し、操作の進行に伴ってログを記録できます。デフォルトでは、ログ ファイルは以下の形式でホーム ディレクトリに作成されます。

bplog.bkup.*n* (バックアップの場合)

bplog.arch.*n* (アーカイブの場合)

bplog.rest.*n* (リストアの場合)

*n* は、各ファイルの一意的な番号です。

ログ ファイルを表示するには、more コマンドまたは UNIX のファイル エディタを使用します。ログ ファイルは、不要になった時点で削除できます。ただし、ログ ファイルには警告メッセージが含まれている場合があるため、削除する前に内容を読んでください。

ログの読み方については、「プログレス ログの読み方」(93 ページ)を参照してください。

## 操作の進行状況の確認

---



## X-Windows インタフェースの使い方

## 4

この章では、グラフィカルユーザインタフェースプログラム xbp を使用して NetBackup の操作を行う方法について説明します。この X-Windows ベースのインタフェースには、X11.R4 以降に対応する X サーバプログラムを搭載した X 端末またはワークステーションが必要です。このインタフェースは、OSF および Motif の規約を使用しています。

この章では、グラフィカルインタフェースの使い方を具体的な手順を追って説明します。インタフェース内のウィンドウ別またはメニューオプション別の詳細については、第 5 章の「xbp および bp のリファレンスガイド」を参照してください。オンラインヘルプでも参照できます。

この章では、以下の内容について説明します。

- ◆ グラフィカルインタフェースの起動
- ◆ バックアップおよびアーカイブの実行
- ◆ リストアの実行
- ◆ リンクの解決
- ◆ 操作の進行状況の確認
- ◆ バックアップとアーカイブの一覧の取得
- ◆ ファイルやディレクトリの検索および選択

## グラフィカル インタフェースの起動

### グラフィカル インタフェースの起動

1. X 端末またはワークステーションの X サーバが、X の規約に従って命名されていることを確認します。
2. DISPLAY 環境変数を適切な値に設定します。

最も簡単な方法は、ログイン手順を使用して DISPLAY 変数を定義することです。

以下の例では、ログイン後に `setenv` コマンドを使用して `orca` という名前の X 端末またはサーバのディスプレイを設定しています。

```
setenv DISPLAY orca.user.abc.com:0
```

`-d` オプションを使用して `xbp` コマンドを実行することもできます（手順 3 を参照）。

3. 以下の例に示すように、`xbp` コマンドを使用してグラフィカル インタフェースを起動します。入力方法は、DISPLAY 環境変数が設定済みであるかどうかに応じて異なります。

- ◆ DISPLAY 変数が設定済みの場合は、以下のように入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/xbp &
```

- ◆ DISPLAY 変数がまだ設定されていない場合は、`-d` オプションを使用します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/xbp -d orca.user.abc.com:0 &
```

& 文字を入力すると、プログラムがバックグラウンド モードで実行され、元のウィンドウをアクティブにしたまま、他の操作を行うことができます。



xbp が起動すると、[xbp\_main] ウィンドウが画面に表示されます。



xbp の起動時には、[ファイル]メニューの[ファイルシステムを参照 (バックアップまたはアーカイブ)] コマンドがデフォルトで選択されます。[ディレクトリ構造]表示区画と[ファイル]表示区画には、[検索するディレクトリ]ボックスで指定したディレクトリ内のすべてのディレクトリとファイル、および下位の2つのレベルが表示されます。[検索するディレクトリ]ボックスは、xbp の起動元のディレクトリに設定されます。下位のレベル数は、[ディレクトリの深さ]ボックスに指定します。

このウィンドウの詳細については、「[xbp\_main] ウィンドウ」(102 ページ)を参照してください。

## バックアップおよびアーカイブの実行

以下の手順では、ファイル、ディレクトリ、raw パーティションのバックアップ方法、およびファイルやディレクトリのアーカイブ方法を説明します。バックアップとアーカイブの主な違いは、アーカイブでは指定したディレクトリとファイルがバックアップ後にディスクから削除される点です。

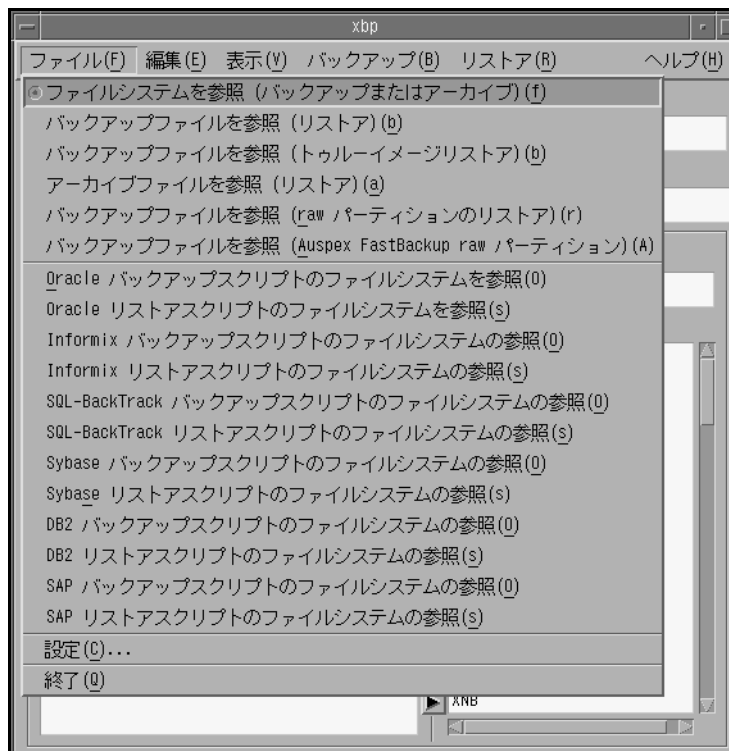
## バックアップおよびアーカイブの実行

1. 必要に応じて、NetBackup のマスタ サーバを切り替えます。

バックアップ先およびアーカイブ先として指定できるマスタ サーバが複数ある場合は、正しいマスタ サーバに接続されていることを確認します。使用するマスタ サーバが不明な場合は、NetBackup の管理者に確認してください。

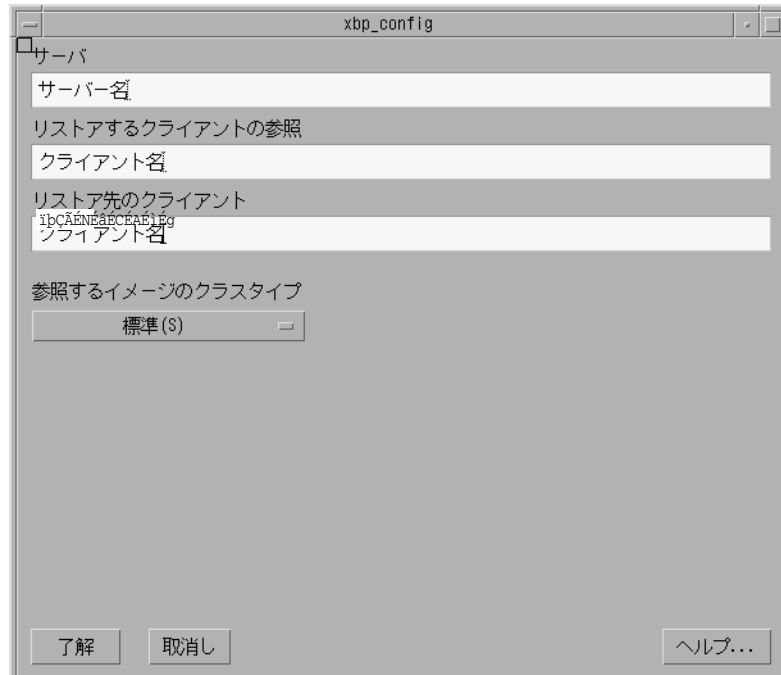
通常、マスタ サーバを切り替える必要はありません。ただし、元のマスタ サーバで問題が発生した場合など、管理者によって一時的に NetBackup のバックアップが移動された場合は切り替えが必要です。バックアップ情報が一時的ではなく永続的に別の場所に移動された場合、管理者はデフォルトのバックアップ先サーバを設定し直す必要があります。

- a. [ファイル]メニューの[設定]をクリックします。



このメニューの詳細については、「[ファイル]メニュー」(103 ページ)を参照してください。

[xbp\_config] ダイアログ ボックスが表示されます。



[サーバ] ボックスには、現在のマスタ サーバの名前が表示されます。xbp を起動すると、このサーバがクライアントのデフォルトのサーバに設定されます。

マスタ サーバを変更しない場合は、[取消し] をクリックします。マスタ サーバを変更する場合は、以下の手順に進みます。

- b. [サーバ] ボックスに、変更先のマスタ サーバ名を入力します。
- c. [了解] をクリックします。

無効な名前を入力した場合、またはクライアントがそのサーバの NetBackup クラスに属していない場合は、エラーが発生します。エラーが発生した場合は、システム管理者に問い合わせてください。

2. 目的のファイルとディレクトリを検索して選択します。

目的のファイルまたはディレクトリが現在表示されていない場合は、「ファイルやディレクトリの検索および選択」(94 ページ) の説明に従って検索します。

この例では、release\_notes.txt ファイルを選択します。

## バックアップおよびアーカイブの実行

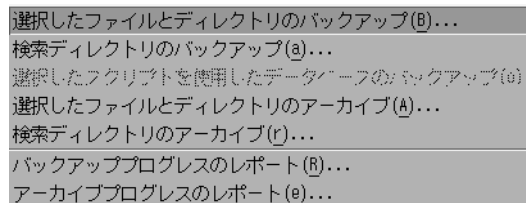
- a. [ディレクトリ構造] 表示区画で、`/usr/opensv/netbackup` ディレクトリを選択します。

[ディレクトリ構造] 表示区画でディレクトリを選択すると、[ファイル] 表示区画に表示されているすべてのサブディレクトリとファイルが暗黙で選択されます。暗黙で選択されたサブディレクトリとファイルは、[ファイル] 表示区画では強調表示されません。

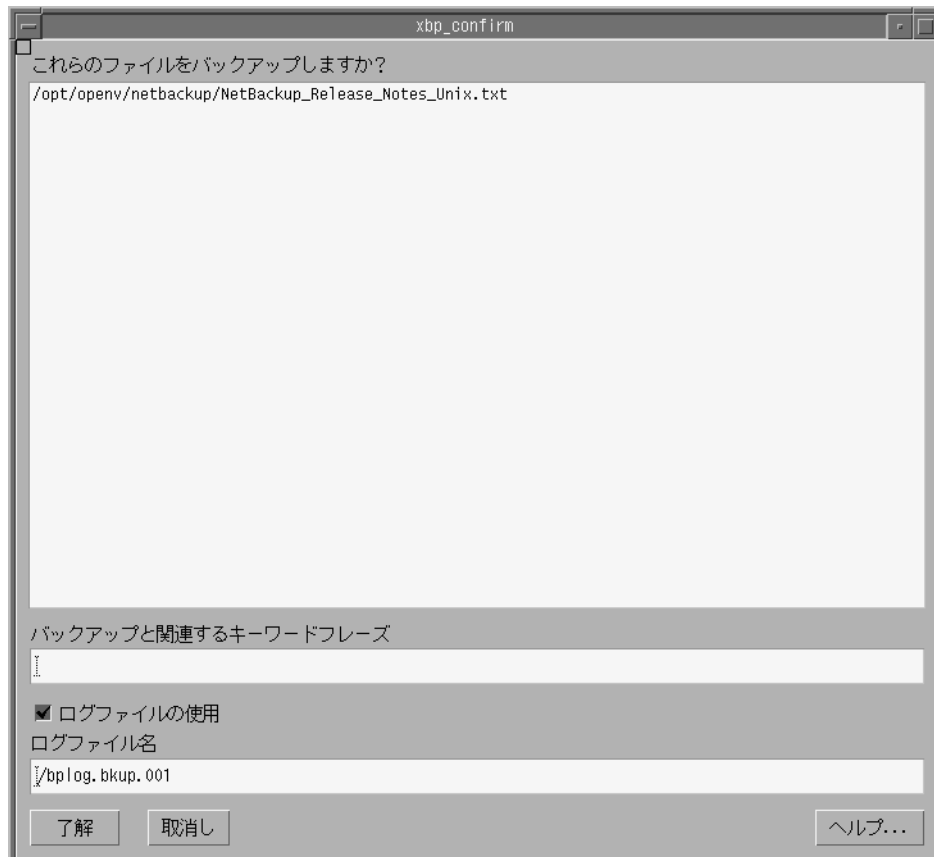
- b. [ファイル] 表示区画で、`release_notes.txt` を選択します。



3. [バックアップ] メニューの [選択したファイルとディレクトリのバックアップ] をクリックします。



[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスが表示されます。



**注** [選択したファイルとディレクトリのアーカイブ] をクリックすると、選択したディレクトリとそのディレクトリ内のすべてのサブディレクトリがバックアップされ、その後、バックアップされたディレクトリがシステムから削除されます。

- a. [xbp\_confirm] ダイアログ ボックスで、選択した内容を確認します。
- b. プログレス ログ ファイルを使用するかどうかを指定します。

ホーム ディレクトリにログ ファイルを作成するには、[ ログファイルの使用 ] チェックボックスを選択します。ログ ファイルには、操作の進行に伴ってログが記録されます。チェックボックスは、選択されると強調表示されます。

ログ ファイルの名前は、[ ログファイル名 ] ボックスに表示されます。ログの読み方については、「操作の進行状況の確認」(91 ページ) を参照してください。

- c. [バックアップと関連するキーワードフレーズ] ボックスには、キーワードを入力します。

## リストアの実行

[バックアップと関連するキーワードフレーズ]ボックスに入力した語句は、このバックアップを検索するためのキーワードとしてリストア操作時に使用されます。この例では、キーワードとして **test** を使用します。このキーワードは、次の節のリストア操作で使用します。

- d. [了解]をクリックします。バックアップ要求がサーバに送られます。メインウィンドウが表示されます。

バックアップまたはアーカイブを開始せずにメインウィンドウに戻るには、[取消し]をクリックします。

## リストアの実行

ここでは、ファイル、ディレクトリ、および raw パーティションのリストア方法について説明します。

- ◆ 基本的なリストア手順 - ファイルのリストア方法を詳しく説明します。
- ◆ 簡略化したリストア手順 - 一般的な操作の簡略化した手順を紹介します。
- ◆ 高度なリストア操作 - ツールイメージのリストアと別のクライアントへのリストアについて説明します。

### 基本的なリストア手順

以下の手順では、ファイル、ディレクトリ、および raw パーティションをクライアントシステムにリストアする方法を詳しく説明します。

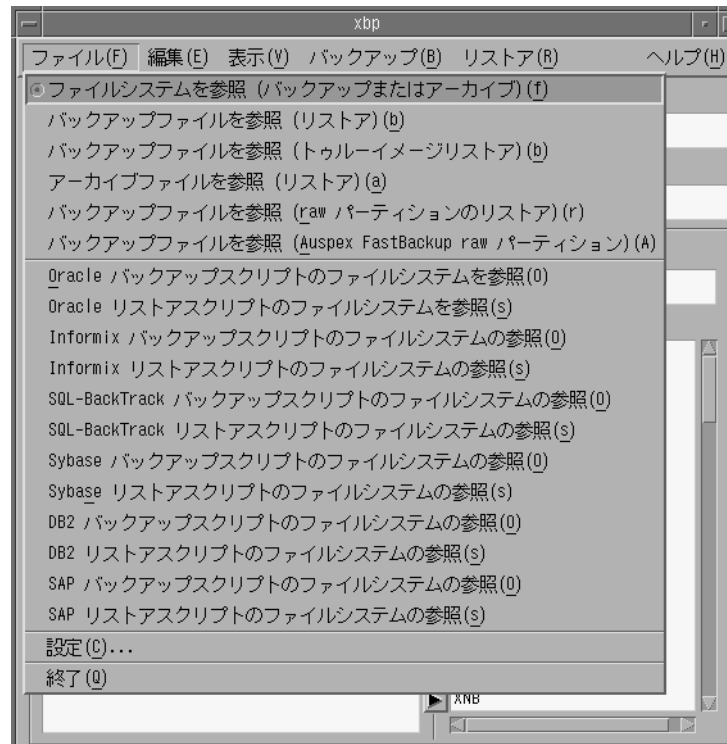
**注** raw パーティションをリストアする場合は、そのパーティションがマウントされていないこと、および使用中でないことを確認します。また、リストアする前に、raw パーティションのデバイスファイルが存在することも確認します。

**注** ディレクトリをリストアする場合は、「簡略化したリストア手順」(82 ページ)と「ディレクトリのツールイメージのリストア」(88 ページ)も参照してください。

1. 必要に応じて、NetBackup のマスタサーバを切り替えます。

このクライアントをバックアップできるマスタサーバが複数ある場合は、リストアするバックアップを行ったマスタサーバにクライアントが接続されていることを確認します。別のマスタサーバからリストアしようとする、バックアップのファイルが見つからないため、エラーになります。使用するマスタサーバが不明な場合は、NetBackup の管理者に確認してください。

- a. [ファイル]メニューの[設定]をクリックします。



このメニューの詳細については、「[ファイル]メニュー」(103 ページ)を参照してください。

## リストアの実行

[xbp\_config] ダイアログ ボックスが表示されます。



[サーバ] ボックスには、現在のマスタ サーバの名前が表示されます。xbp を起動すると、このサーバがクライアントのデフォルトのサーバに設定されます。

マスタ サーバを変更しない場合は、[取消し] をクリックします。マスタ サーバを変更する場合は、以下の手順に進みます。

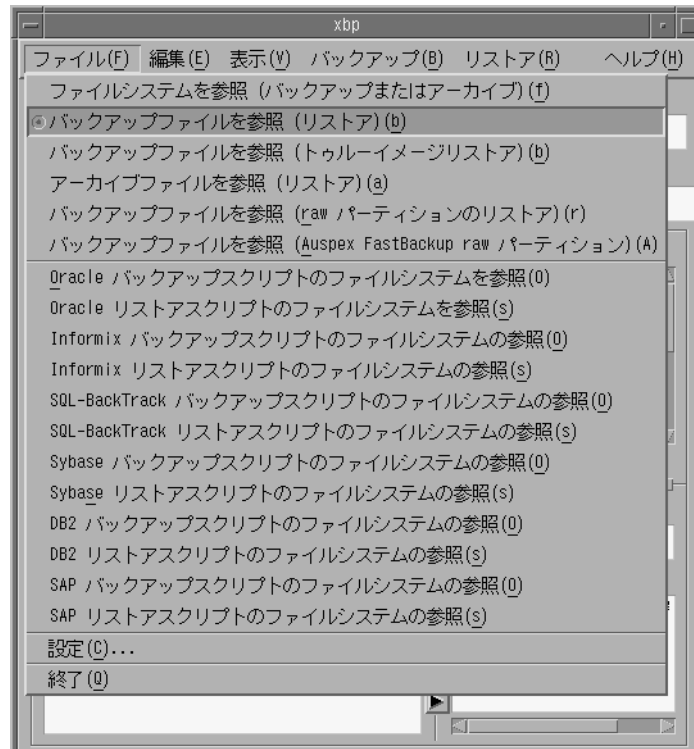
- b. [サーバ] ボックスに、変更先のマスタ サーバ名を入力します。
- c. [了解] をクリックします。

無効な名前を入力した場合、またはクライアントがそのサーバの NetBackup クラスに属していない場合は、エラーが発生します。エラーが発生した場合は、システム管理者に問い合わせてください。

2. リストアするファイルまたはディレクトリを検索します。

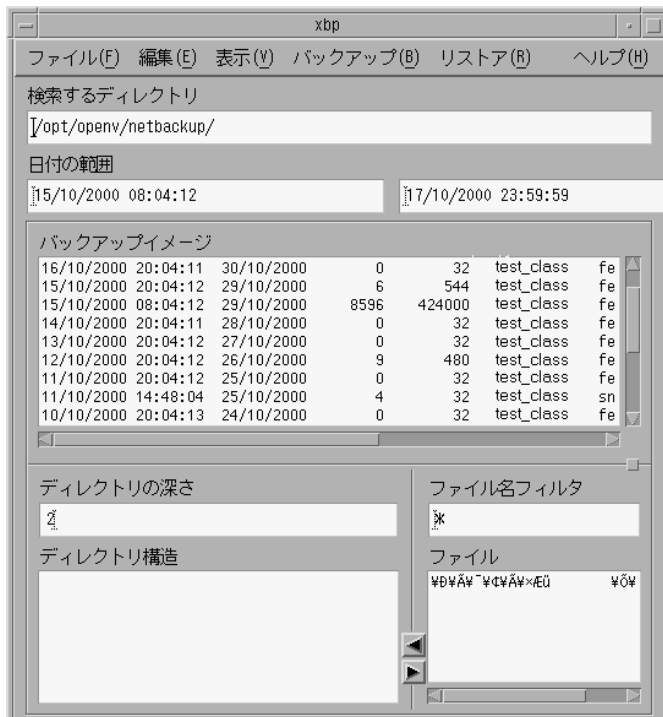


- a. [ファイル]メニューの[バックアップファイルを参照(リストア)]をクリックします。



## リストアの実行

次のようなメイン ウィンドウが表示されます。



**注** 選択した日付の範囲内に多数のバックアップがある場合、特定のパスを検索するためには表示内容を更新する必要があることを通知するメッセージボックスが表示されます。このメッセージが表示された場合は、[編集]メニューの[画面の更新]を選択します。

**b.** 検索するディレクトリを指定します。

この例では、「バックアップおよびアーカイブの実行」(69 ページ) の手順でバックアップした `release_notes.txt` ファイルをリストアします。[検索するディレクトリ]ボックスに、以下のように入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/
```

**注** 検索するパスにリンクが含まれている場合は、デフォルトで **NetBackup** によってリンクが解決されるので、パスは実際のファイルまたはディレクトリを指します。リンクを解決しない場合は、[ファイル]メニューのブラウズ コマンドを選択する前に、[表示]メニューの[検索ディレクトリ内でのリンクの解釈処理を実行しない]をクリックします。詳細については、「リンクの解決」(91 ページ) を参照してください。

## c. 日付の範囲を指定します。

バックアップモードからリストアモードに移ると、通常、開始日が変更されます。デフォルトでは、最後にフルバックアップを行った日付に設定されます。モードを変更する前に、開始日として特定の日付を指定すると、その日付が使用されます。詳細については、「バックアップ日付を指定したリストア」(86 ページ)を参照してください。

## d. 検索するキーワードフレーズを指定します。

「バックアップおよびアーカイブの実行」の **step c on page 73** で、キーワードとして「**test**」と入力しました。したがって、[バックアップと関連するキーワードフレーズ]ボックスには、「**test**」と入力します。

## e. [ファイル名フィルタ]ボックスに、「\*.txt」と入力します。

## f. [ファイル]メニューの[バックアップファイルを参照(リストア)]をクリックします。

次のようなメインウィンドウが表示されます。



## g. リストアするファイルとディレクトリを選択します。

## リストアの実行

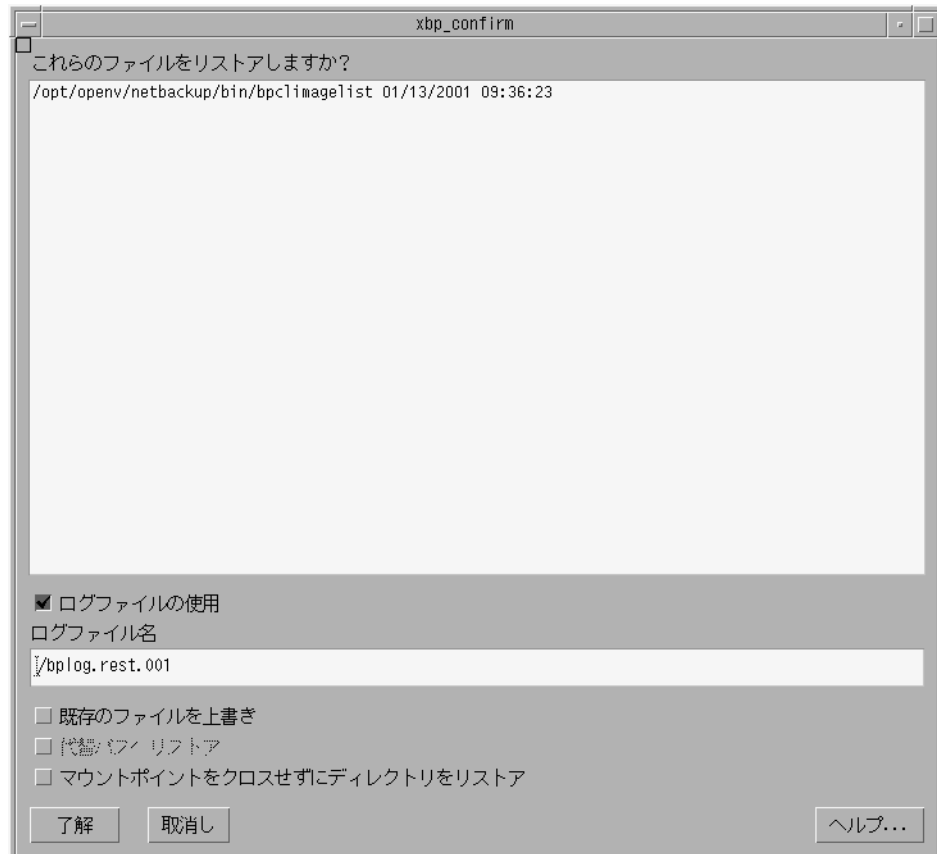
目的のファイルまたはディレクトリが現在表示されていない場合は、「ファイルやディレクトリの検索および選択」(94 ページ)の説明に従って検索します。検索するバックアップの範囲を変更することもできます。詳細については、「バックアップ日付を指定したリストア」(86 ページ)を参照してください。

次の図では、[ディレクトリ構造]表示区画で /usr/opensv/netbackup ディレクトリが選択されています。これにより、ディレクトリツリーで /usr/opensv/netbackup の下にあるすべてのディレクトリとファイルが暗黙で選択されます。



**注** [ファイル]表示区画でディレクトリを選択した後、ディレクトリの選択を解除しようとしても、[編集]メニューの[現在のディレクトリの選択を消去]または[前のディレクトリの選択を無視]を選択するまでディレクトリの選択は解除されません。[編集]メニューの[すべての選択の調査]を使用すると、リストア対象として選択されているディレクトリを確認できます。

3. リストアを開始します。
  - a. [リストア]メニューの[検索ディレクトリのリストア]をクリックします。  
[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスが表示されます。



- b. プログレス ログ ファイルを使用するかどうかを指定します。

ホーム ディレクトリにログ ファイルを作成するには、[ ログファイルの使用 ] チェックボックスを選択します。ログ ファイルには、操作の進行に伴ってログが記録されます。チェックボックスは、選択されると強調表示されます。

ログ ファイルの名前は、[ ログファイル名 ] ボックスに表示されます。ログの読み方については、「操作の進行状況の確認」(91 ページ)を参照してください。
- c. [ 既存のファイルを上書き ] チェックボックスを選択します。

**注** ディスク パーティションは、上書きオプションが設定されているかどうかに関係なく上書きされます。ディスク パーティションのリストアには、デバイス ファイルが必要です。

## リストアの実行

[ 代替パスへリストア ] チェックボックスと [ マウントポイントをクロスせずにディレクトリをリストア ] チェックボックスが有効になります。

**注** [ マウントポイントをクロスせずにディレクトリをリストア ] チェックボックスが選択されているかどうかに関係なく、内部のマウントポイントはリストアされません。

NetBackup では、元のファイルのパス名に従ってファイルがリストアされます。

- ◆ 既存のファイルをリストア後のファイルで上書きするには、[ 既存のファイルを上書き ] チェックボックスを選択します。ただし、ファイルを上書きするためのアクセス権が必要です。詳細については、「NetBackup に必要なファイルアクセス権」(7 ページ) を参照してください。チェックボックスは、選択されると強調表示されます。
- ◆ 上書きしない場合は、[ 既存のファイルを上書き ] チェックボックスをクリアします。同じパス名のファイルがすでに存在する場合、リストアは行われません。

d. 選択した内容を確認します。

4. [ 了解 ] をクリックします。リストア要求がサーバに送られます。メインウィンドウが表示されます。

リストアを開始せずにメインウィンドウに戻るには、[ 取消し ] をクリックします。

## 簡略化したリストア手順

ここでは、一般的なリストア操作の簡略化された手順を説明します。

### 使用可能なバックアップまたはアーカイブの一覧表示

ファイルまたはディレクトリがバックアップされた日付が不明な場合は、バックアップをブラウズして確認できます。

1. [ 検索するディレクトリ ] ボックスに、リストアするディレクトリを入力します。
2. 日付の範囲として、デフォルト値 (01/01/70 から現在の日付) をそのまま使用します。

または

該当する範囲がわかる場合は、その範囲を入力して検索範囲を狭めます。その方が、すばやく検索できます。

3. [ ファイル ] メニューで、リストアのためのブラウズ オプションをクリックします。

[ ディレクトリ構造 ] 表示区画と [ ファイル ] 表示区画が更新され、指定したディレクトリパスと日付の範囲に該当するすべてのバックアップまたはアーカイブが表示されます。

NetBackup は、マスタ サーバのバックアップからファイル情報を取得するため、リストア ウィンドウに表示区画が表示されるまでには時間がかかります。

**注** 選択した日付の範囲内に多数のバックアップがある場合、特定のパスを検索する前に [編集] メニューの [画面の更新] を使用するよう要求される場合があります。

### 最新のバックアップのリストア

以下の手順では、クライアントの最後のフルバックアップ以降に行われた最新のバックアップをリストアする方法を説明します。

1. [検索するディレクトリ] ボックスに、リストアするディレクトリを入力します。
2. [ファイル] メニューの [バックアップファイルを参照] をクリックします。

[ディレクトリ構造] 表示区画と [ファイル] 表示区画が更新され、最後のフルバックアップから最新のインクリメンタルバックアップまたはユーザ指定のバックアップまでにバックアップされたファイルとディレクトリだけが表示されます。

NetBackup は、マスタ サーバのバックアップからファイル情報を取得するため、リストア ウィンドウに表示区画が表示されるまでには時間がかかります。

**注** デフォルトでは、ファイルは元の場所にリストアされます。別の場所にリストアするには、リストアを開始する前に、[リストア] メニューの [代替パスの指定] を使用します。

3. リストアするファイルの最新のバックアップを選択します。

**注** [ファイル] 表示区画でディレクトリを選択した後、ディレクトリの選択を解除しようとしても、[編集] メニューの [現在のディレクトリの選択を消去] または [前のディレクトリの選択を無視] を選択するまでディレクトリの選択は解除されません。[編集] メニューの [すべての選択の調査] を使用すると、リストア対象として選択されているディレクトリを確認できます。

4. [リストア] メニューの [選択したファイルとディレクトリのリストア] をクリックします。

リストアが開始されます。

### 最新バージョンのディレクトリのリストア

**注** 以下の手順に従うと、最後のフルバックアップから最新のバックアップまでの期間に、ディレクトリ内に存在したすべてのファイルがリストアされます。この期間中にオンラインのディレクトリから削除されたファイルもリストアされます。オンラインのディレクトリから削除されたファイルが必要ない場合は、「ディレクトリのトゥルー イメージのリストア」(88 ページ) に進みます。

## リストアの実行

最新バージョンのディレクトリは、1つのリストア操作だけでリストアできます。リストア手順は、「最新のバックアップのリストア」(83 ページ)の説明と同じですが、ここでは [ディレクトリ構造] 表示区画でディレクトリを選択し、[リストア] メニューの [検索ディレクトリのリストア] を使用する必要があります。リストアされたディレクトリには、そのディレクトリの最後のフルバックアップ以降に行われたすべてのインクリメンタルバックアップおよびユーザ指定のバックアップが反映されます。

ディレクトリをリストアする際は、次の2つの点に注意してください。

1. リストアされたディレクトリに含まれるのは、指定した開始日から指定した終了日までのバックアップファイルだけです。したがって、開始日と終了日は、最後のフルバックアップから最新のバックアップまでのすべてのバックアップが含まれるように指定する必要があります。最新のバックアップを取得する最も良い方法は、最後のフルバックアップの日付を開始日に指定し、現在の日付を終了日に指定することです (これは、ブラウザの開始時のデフォルト設定です)。
2. 通常は、[ディレクトリ構造] 表示区画から選択します。[ファイル] 表示区画から選択すると、バックアップの日時に作成されたバックアップだけからリストアされます。そのバックアップがインクリメンタルバックアップである場合は、そのインクリメンタルバックアップのファイルだけがリストアされます。

## 高度なリストア操作

ここでは、より高度なリストア操作について説明します。

『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』と『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000』のサーバ指定のリストアに関する節も参照してください。

### 別のクライアントへのリストア

以下の手順では、バックアップを別のクライアントにリストアします。詳細なリストア手順については、「基本的なリストア手順」(74 ページ)を参照してください。

**注** マスタサーバの NetBackup を使用して Novell NetWare クライアントの NetBackup の別のパスにファイルをリストアすることはできません。この種のクライアントに対しては、NetWare クライアントのユーザ インタフェースを使用して別のパスへのリストアを行う必要があります。

1. 必要に応じて、NetBackup のマスタサーバを変更します。
  - a. [ファイル] メニューの [設定] をクリックします。  
[xbp\_config] ダイアログ ボックスが表示されます。
  - b. [サーバ] ボックスにサーバ名を入力します。
  - c. [了解] をクリックします。



無効な名前を入力した場合、またはクライアントがそのサーバの NetBackup クラスに属していない場合は、エラーが発生します。エラーが発生した場合は、システム管理者に問い合わせてください。

2. [リストア]メニューの[代替パスの指定]をクリックします。

[xbp\_altpath]ダイアログボックスが表示されます。

- a. [リストア元]ボックスと[リストア先]ボックスにパスを入力します。

[現在のディレクトリ]ボタンを使用してパスを現在のディレクトリ(デフォルト値)に変更することもできます。

別のパスを複数指定することはできません。存在しないパスを指定すると、そのパスはファイルのリストア時に作成されます。

- b. リンクになっているファイルは、リストアする前に、そのパス名を更新するかどうかを指定できます。

- ◆ ハードリンクのパス名を変更するには、[ハードリンク名の変更]チェックボックスを選択します。ハードリンクのパス名を変更しない場合は、[ハードリンク名の変更]チェックボックスをクリアします。

- ◆ ソフトリンクのパス名を変更するには、[ソフトリンク名の変更]チェックボックスを選択します。ソフトリンクのパス名を変更しない場合は、[ソフトリンク名の変更]チェックボックスをクリアします。

チェックボックスは、選択されると強調表示されます。

**注** 現在のシステムディスクとは別のディスクにシステムファイルをリストアし、リストアの完了時に、そのリストア先のディスクを元のファイルパスのシステムディスクとして使用する場合は、[ハードリンク名の変更]チェックボックスを選択し、[ソフトリンク名の変更]チェックボックスをクリアしてください。リストア先の別のディスクと正しいファイルパスを使用できます。

- c. 以下の方法で、変更を確定または取消します。

- ◆ 次回のリストアで[リストア元]ボックスと[リストア先]ボックスに指定したパスを使用するには、[了解]をクリックします。

または

- ◆ 変更を取消して前のパスを使用するには、[取消し]をクリックします。

3. [ファイル]メニューの[バックアップファイルを参照(リストア)]をクリックします。
4. リストアするファイルに関して、検索するディレクトリ、日付の範囲、検索するキーワードフレーズ、ディレクトリのレベル数、およびファイル名のフィルタを指定します。
5. リストアするファイルとディレクトリを検索して選択します。

## リストアの実行

6. [リストア]メニューで、必要なリストアコマンドをクリックします。  
[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスが表示されます。
  - a. ホーム ディレクトリにログ ファイルを作成し、操作の進行に伴ってログを記録するには、[ログファイルの使用] チェックボックスを選択します。
  - b. 既存のファイルをリストア後のファイルで上書きするには、[既存のファイルを上書き] チェックボックスを選択します。ただし、ファイルを上書きするためのアクセス権が必要です。詳細については、「NetBackup に必要なファイル アクセス権」(7 ページ) を参照してください。チェックボックスは、選択されると強調表示されます。  
上書きしない場合は、[既存のファイルを上書き] チェックボックスをクリアします。同じパス名のファイルがすでに存在する場合、リストアは行われません。
  - c. 別のパスへのリストアを確定するには、[代替パスへリストア] チェックボックスを選択します。チェックボックスは、選択されると強調表示されます。  
取消するには、[代替パスへリストア] チェックボックスをクリアします。
  - d. 選択したディレクトリにマウントされているファイルシステムをスキップするには、[マウントポイントをクロスせずにディレクトリをリストア] チェックボックスを選択します。チェックボックスは、選択されると強調表示されます。  
選択したディレクトリにマウントされているファイルシステムをリストアするには、[マウントポイントをクロスせずにディレクトリをリストア] チェックボックスをクリアします。
  - e. 選択した内容を確認します。
  - f. [了解] をクリックしてリストアを開始します。メイン ウィンドウが表示されます。  
リストアを開始せずにメイン ウィンドウに戻るには、[取消し] をクリックします。

### バックアップ日付を指定したリストア

デフォルトでは、NetBackup の [リストア] ウィンドウに最後のフルバックアップ以降にバックアップされたファイルとフォルダが表示されます。通常のファイルのリストアでは、デフォルトの日付の範囲で十分です。ただし、デフォルトの範囲でバックアップされていないファイルをリストアする場合があります。たとえば、最後のフルバックアップ前に削除されたファイルは、デフォルトの表示には含まれません。このファイルを検索してバックアップするには、日付の範囲を変更する必要があります。

クライアントが複数のクラスに属している場合、開始日には、最後に行われたフルバックアップのうち、最も古い日付がデフォルトで設定されます。たとえば、次の例について考えます。1) クライアントは ClassW1 と ClassW2 に属しています。2) 両方のクラスに対してフルバックアップが行われます。3) ClassW1 の最新のフルバックアップは 6 月 16 日に実行され、ClassW2 の最新のフルバックアップは 6 月 24 日に実行されました。この場合、NetBackup では、6 月 16 日に実行された ClassW1 のフルバックアップ以降にバック

アップされたファイルとフォルダが表示されます。

デフォルトの表示内容に目的のファイルまたはディレクトリが含まれていない場合

1. 目的のファイルまたはディレクトリが含まれていると思われるバックアップの日付の範囲を指定します。

- ◆ [日付の範囲] ボックスに、目的の日付の範囲を入力します。

または

- ◆ [バックアップイメージ] 表示区画から、バックアップを選択します。

[日付の範囲] ボックスに、選択したバックアップの範囲で最も古い日付と最も新しい日付が表示されます。

---

**注** 検索の速度を上げるため、範囲はできるだけ狭めてください。

---

2. 任意のボックスにマウスポインタを移動し、**Return** キーを押します。または、[編集]メニューの[画面の更新]をクリックします。

[ディレクトリ構造] 表示区画と [ファイル] 表示区画が更新され、指定した範囲のバックアップで見つかったファイルとディレクトリだけが表示されます。必要なバックアップを選択してリストアします。

NetBackup は、マスタサーバのバックアップからファイル情報を取得するため、リストアウィンドウに表示区画が表示されるまでには時間がかかります。

### ディレクトリの旧バージョンのリストア

---

**注** 以下の手順では、リストア対象のファイルを検索するために指定した日付の範囲内にバックアップされたすべてのファイルがリストアされます。バックアップ後にオンラインのディレクトリから削除されたファイルもリストアされます。削除されたファイルをリストアしない場合は、「ディレクトリのツールイメージのリストア」(88 ページ) で説明している手順に従ってください。

---

最後のフルバックアップより前のバージョンのディレクトリをリストアするには、目的のバージョンのディレクトリを含むバックアップだけを選択します。

たとえば、1995年10月5日付けの /home/hrp/ ディレクトリが必要であるとします。

1. すべての日付をブラウズして[ファイル]表示区画と[バックアップイメージ]表示区画を調べます。

この例では、以下のバックアップが見つかりました。

| Backup Date and Time    | Type of Backup    |
|-------------------------|-------------------|
| 10/10/95 22:01:20 . . . | Full Backup . . . |
| 10/09/95 16:30:27 . . . | Incr Backup . . . |
| 10/02/95 18:05:41 . . . | Incr Backup . . . |
| 09/29/95 19:36:55 . . . | Incr Backup . . . |

## リストアの実行

```
09/25/95 18:06:15 . . . Full Backup . . .
09/20/95 16:06:21 . . . Incr Backup . . .
09/17/95 22:06:44 . . . Full Backup . . .
```

- 必要なバックアップが含まれるように開始日と終了日を設定します。  
この例では、以下のように設定します。
  - ◆ 開始日を 09/25/95 とします。これは、10/05/95 以前に行われた最後のフルバックアップの日付です。
  - ◆ 終了日を 10/02/95 とします。これは、10/05/95 のバージョンのディレクトリを含むインクリメンタルバックアップです。次の日付は 10/09/95 ですが、このバージョンには必要のない変更が含まれています。
- [編集]メニューの[画面の更新]を使用して別のブラウザを開始します。
- [ディレクトリ構造]表示区画で /home/hrp/ を選択し、[ファイル]表示区画に必要なファイルが表示されるかどうかを確認します。

---

**注** デフォルトでは、ディレクトリは元の場所にリストアされます。別の場所にリストアするには、リストアを開始する前に、[リストア]メニューの[代替パスの指定]を使用します。

---

**注** [ファイル]表示区画でディレクトリを選択した後、ディレクトリの選択を解除しようとしても、[編集]メニューの[現在のディレクトリの選択を消去]または[前のディレクトリの選択を無視]を選択するまでディレクトリの選択は解除されません。[編集]メニューの[すべての選択の調査]を使用すると、リストア対象として選択されているディレクトリを確認できます。

---

- [リストア]メニューの[検索ディレクトリのリストア]をクリックします。

### ディレクトリのツール イメージのリストア

ディレクトリのツール イメージのリストアを実行すると、デフォルトでは、最新の自動フルバックアップまたは自動インクリメンタルバックアップの状態にディレクトリの内容がリストアされます。指定したバックアップより前に削除されたファイルはリストアされません。

ツール イメージのリストアの概要については、「別の場所へのすべてのリストア」(35 ページ)を参照してください。そこで説明されている Java インタフェースについての概念は、メニューインタフェースにも当てはまります。

### ツール イメージのリストアと上書き

リストアするディレクトリを上書きする場合、そのディレクトリには現在含まれていても、ツール イメージをリストアするバックアップに含まれていないファイルは削除されません。例については、39 ページを参照してください。

### ツール イメージのリストア手順

**注** ディレクトリのツール イメージをリストアできるのは、ファイルとディレクトリをバックアップする **NetBackup** クラスが、ツール イメージのリストア情報を収集するように設定されている場合だけです。設定について不明な点がある場合は、**NetBackup** の管理者に確認してください。

**注** **NetBackup** では、ユーザ指定の操作時刻に基づいたツール イメージのリストアはできません。ただし、最新の自動フルバックアップまたは自動インクリメンタルバックアップ以降にユーザによるバックアップが行われた場合は、ユーザ指定の操作のデータを使用してツール イメージのリストアが行われます。

以下の例では、12/04/95 付けの /home/abc/doc/ をリストアします。xbp インタフェースが起動し、[ ファイルシステムを参照 (バックアップまたはアーカイブ) ] が選択され、すべての設定がデフォルトになっているものとします。

1. [ファイル]メニューの[バックアップファイルを参照(ツールイメージリストア)]をクリックします。

[ディレクトリ構造]表示区画と[ファイル]表示区画に、ツール イメージのリストアに使用できるディレクトリが表示されます。この例では、デフォルトで以下のように表示されます。

| Directory Structure | Files    |          |      |
|---------------------|----------|----------|------|
| /home/abc           |          |          |      |
| doc                 | 12/04/95 | 20:05:22 | doc/ |
| dirA                | 12/03/95 | 21:10:50 | doc/ |
| dirB                | 12/02/95 | 20:10:34 | doc/ |
|                     | 12/01/95 | 20:15:34 | doc/ |

表示区画には、ディレクトリだけが表示されます。ツール イメージのリストアでは、ディレクトリ全体をリストアするため、個別のファイルは表示されません。個別のファイルを表示または選択するには、[バックアップファイルを参照(リストア)]モードを使用します。

**注** 該当するディレクトリが見つからない場合は、日付の範囲、パス、およびディレクトリのレベル数を確認してください。これらの設定が正しいにもかかわらず、該当するディレクトリが見つからない場合は、ファイルとディレクトリのバックアップを行う **NetBackup** クラスがツール イメージのリストア情報を収集するように設定されているかどうかをマスタサーバの管理者に確認してください。

2. 目的の日付の範囲を選択します。

デフォルトの開始日は、スケジュールされたクラスのフルバックアップが最後に行われた日付です。最後のフルバックアップより前のバージョンをリストアする場合は、デフォルトを使用します。

## リストアの実行

デフォルトの終了日は、現在の日付です。必要に応じて、この値を変更し、リストアする日付を反映することができます。

この例では、ディレクトリの最新バージョンをリストアします。したがって、デフォルトの日付範囲を使用します。

- ◆ 開始日は 12/01/95 です。
- ◆ 終了日は 12/04/95 です。

3. 手順2で日付の範囲を変更した場合は、[編集]メニューの[画面の更新]をクリックして表示区画を更新します。

この手順は、この例では不要です。ただし、日付の範囲を変更した場合は、この手順に従ってください。

4. [ファイル]表示区画で、リストアするディレクトリを選択します。ツールイメージのリストアでは、[ディレクトリ構造]表示区画からディレクトリを選択することはできません。

この例では、[ファイル]表示区画から、/home/abc/doc/ の 12/04/95 のバージョンを選択します。

---

**注** [ファイル]表示区画でディレクトリを選択した後、ディレクトリの選択を解除しようとしても、[編集]メニューの[バックアップファイルを参照(リストア)]または[前のディレクトリの選択を無視]を選択するまでディレクトリの選択は解除されません。[編集]メニューの[すべての選択の調査]を使用すると、リストア対象として選択されているディレクトリを確認できます。

---

**注** デフォルトでは、ディレクトリは元の場所にリストアされます。別の場所にリストアするには、リストアを開始する前に、[リストア]メニューの[代替パスの指定]を使用します。

---

5. [リストア]メニューの[選択したファイルとディレクトリのリストア]をクリックします。ツールイメージのリストアでは、[検索ディレクトリのリストア]を使用できません。

この例でリストアされたディレクトリの内容は、以下の通りです。

```
file1
file2
file4
```

これは、12/04/95 に行われたインクリメンタルバックアップの時点で存在していたディレクトリの内容です。

リストアするディレクトリを上書きする場合、そのディレクトリには現在含まれていても、ツールイメージをリストアするバックアップに含まれていないファイルは削除されません。

## リンクの解決

リストアするファイルを検索する際に、検索パス内のリンクを NetBackup で解決するかどうかを指定できます。リンクの解決を指定すると、実際のファイルまたはディレクトリを指すようにパスが自動的に変更されます。リンクの解決を指定しない場合は、入力したパスが使用されます。詳細については、「リンクの解決」(41 ページ)を参照してください。

---

**注** xbp では、デフォルトでリンクが解決されます。リンクを解決しない場合は、検索を開始する前に、[表示]メニューの[検索ディレクトリ内でのリンクの解釈処理を実行しない]をクリックします。

---

**注** ディレクトリの検索パスでワイルドカード文字を使用すると、NetBackup によるリンクの解決は行われません。

---

## 操作の進行状況の確認

NetBackup の操作を開始するときに、選択したディレクトリにログ ファイルを作成し、操作の進行に伴ってログを記録できます。デフォルトでは、ログ ファイルは以下の形式でホーム ディレクトリに作成されます。

bplog.bkup.*n* (バックアップの場合)

bplog.arch.*n* (アーカイブの場合)

bplog.rest.*n* (リストアの場合)

*n* は、各ファイルの一意的な番号です。

## 操作の進行状況の確認

次の図は、[xbp\_progress] ダイアログボックスです。



このダイアログボックスには、ホームディレクトリにあるプログレスログファイルが一覧表示されます。必要に応じて、各ログファイルの内容を表示できます。more コマンドまたは UNIX のファイルエディタを使用してログファイルを読むこともできます。

ログ情報は、2つのスクロール可能な表示区画に表示されます。

- ◆ \$HOME ディレクトリのログファイル (ダイアログボックスの上部)
- ◆ 選択したログファイルの内容 (ダイアログボックスの中央部)

ログの内容を表示するには、上部の表示区画でエントリを選択して強調表示します。中央部の表示区画に、ログファイルに記録されたログの内容が表示されます。

ログの内容を自動的に更新するには、[自動更新] チェックボックスを選択します。同じログファイルを再度選択して更新することもできます。チェックボックスは、選択されると強調表示されます。

進行状況を確認したら、[閉じる] をクリックして [xbp\_main] ウィンドウに戻ります。



## プログレス ログの読み方

ログ メッセージには、操作中に発生した重要なイベントが記載されています。各メッセージには、イベントの重大度を示すエラーレベルの頭字語が使用されている場合があります。

エラーレベルの頭字語は、以下の通りです。

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| INF | 参考情報のメッセージ (エラーは発生していません) |
| TRV | 軽微なエラーのメッセージ              |
| WRN | 警告エラーのメッセージ               |
| ERR | エラーのメッセージ                 |
| FTL | 致命的エラーのメッセージ              |

プログレス ログには、NetBackup の操作に必要なメディアも一覧表示されます。バックアップの場合は、バックアップ時に NetBackup から要求されるメディア ID が表示されます。リストアの場合は、ファイルを含むバックアップをリストアするために必要なメディア ID が表示されます。バックアップまたはアーカイブが複数のメディア ID にわたる場合、リストア用のログにはすべてのメディアが表示されますが、実際には、要求されたファイルをリストアするために必要なメディアだけが使用されます。

NetBackup の操作の最終的な結果については、ログの最後に表示されるステータスを確認します。要求されたすべてのファイルをバックアップまたはリストアできなかった場合は、ログの最後より数行前に表示される終了のステータスを確認します。通常、このステータスから問題の原因がわかります。

## メール通知

ユーザ指定の操作の結果に関して、ユーザ宛てにメール通知が送信されるように、クライアントの \$HOME ディレクトリの bp.conf ファイルを設定できます。このファイルの設定方法については、『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』または『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

## プログレス ログ ファイルの削除

ディレクトリから不要なログ ファイルを削除するには、[xbp\_progress] ダイアログ ボックスを開き、ログ ファイルを選択し、[ログファイルの削除] をクリックします。システム コマンドを使用してログを手動で削除することもできます。ただし、ログ ファイルには、問題の発生を知らせる警告メッセージが含まれている場合があるため、削除する前にログ ファイルの内容を確認してください。

## バックアップとアーカイブの一覧の取得

bpulist コマンドを使用して一覧を取得できます。

## ファイルやディレクトリの検索および選択

---

`bplist` コマンドを使用すると、特定のファイルやディレクトリ、クライアント名、日付の範囲などの条件に基づいてバックアップとアーカイブの一覧を表示できます。一覧をファイルとして出力し、印刷することもできます。

このコマンドの使い方の詳細については、マニュアル ページを参照してください。各コマンドに関する情報は、『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』でも参照できます。

## ファイルやディレクトリの検索および選択

ここでは、ファイルやディレクトリを検索し、選択するために必要な事項について説明します。以下に説明するメニューやテキスト ボックスなどの項目の詳細については、第 5 章を参照してください。

### ディレクトリ ツリー内の移動

#### ディレクトリ ツリー内を下に移動する

ディレクトリ ツリー内を下に移動するには

- ◆ [ディレクトリ構造] 表示区画の下位レベルのディレクトリをダブルクリックします。  
または
- ◆ ディレクトリをクリックし、**Return** キーを押します。

選択したディレクトリが [検索するディレクトリ] ボックスに表示され、それに対応して [ディレクトリ構造] 表示区画と [ファイル] 表示区画が更新されます。

ディレクトリのパスを [検索するディレクトリ] ボックスに入力して **Return** キーを押すこともできます。[ディレクトリ構造] 表示区画でディレクトリをクリックした場合と同じ結果になります。

#### ディレクトリ ツリー内を上に移る

ディレクトリ ツリー内を上に移るには、上位レベルのディレクトリのパスを [検索するディレクトリ] ボックスに入力し、**Return** キーを押します。**Return** キーを押すと表示内容が更新されます。表示内容を更新する別の方法としては、[編集] メニューの [画面の更新] をクリックします。

### ディレクトリの内容の表示

ディレクトリ内のファイルを表示するには、[ディレクトリ構造] 表示区画でディレクトリをクリックします。ディレクトリの内容が [ファイル] 表示区画に表示されます。

## 日付によるフィルタ処理

特定の日付の範囲内に変更またはバックアップされたファイルだけを表示するには、[日付の範囲]ボックスに範囲の開始日と終了日を設定し、**Return** キーを押して表示内容を更新します。

- ◆ バックアップの場合は、最終更新日を指定します。
- ◆ リストアの場合は、バックアップの日付を指定します。

特定の日付の前または後に変更されたファイルだけを表示するように日付の範囲を設定することもできます。たとえば、今日処理されたファイルだけを選択できます。

## ファイル名によるフィルタ処理

[検索するディレクトリ]ボックスの下に特定のファイル名だけを表示するには、[ファイル名フィルタ]ボックスを使用します。[検索するディレクトリ]ボックスの下に表示される多数のファイルの中で、特定のファイルだけが必要である場合は、ファイル名でフィルタすると選択しやすくなります。たとえば、.doc で終わるファイルを検索するには、フィルタ式 \*.doc を使用します。xpb の起動時には、フィルタは「\*」に設定され、すべてが表示されます。

## ディレクトリの表示レベル数の変更

ディレクトリの表示レベル数を設定するには、[ディレクトリの深さ]ボックスの数値を変更します。デフォルトは2です。

## バックアップ、アーカイブ、またはリストア対象の選択

[ファイル]表示区画でファイルまたはディレクトリを選択するには、その名前をクリックして強調表示にします。ファイルまたはディレクトリの選択を解除するには、再度クリックします。

- ◆ 現在のディレクトリ内にあるすべての内容を選択するには、[編集]メニューの[現在のディレクトリ内のすべてを選択]をクリックします。個別のファイルまたはディレクトリの選択を解除するには、解除するファイルまたはディレクトリを再度クリックします。
- ◆ 現在のディレクトリ内で選択されているすべての内容の選択を解除するには、[編集]メニューの[現在のディレクトリの選択を消去]をクリックします。

**注意** [編集]メニューの[現在のディレクトリ内のすべてを選択]をクリックして NetBackup の操作を行う際、サイズの大きいディレクトリを選択すると、操作が遅くなる場合があります。すべてを選択する代わりに、[検索ディレクトリのリストア]、[検索ディレクトリのバックアップ]、または[検索ディレクトリのアーカイブ]を使用してください。

## ファイルやディレクトリの検索および選択

バックアップ時に、[ファイル]表示区画でディレクトリを選択すると、そのディレクトリ内のすべてのサブディレクトリとファイルが暗黙で選択されます。リストア時に、[ファイル]表示区画でディレクトリを選択すると、指定した日付の範囲で行われたバックアップのファイルとサブディレクトリだけがリストアされます。

[ディレクトリ構造]表示区画での選択方法は、[ファイル]表示区画での選択方法と同じですが、同時に選択できる項目は1つだけです。ディレクトリを選択して強調表示にすると、選択したディレクトリ内のディレクトリとファイルが[ファイル]表示区画に表示されます。

選択を完了して NetBackup の操作を開始するには、[バックアップ]メニューまたは[リストア]メニューの対応するオプションを選択します。[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスに、選択した項目が追加され、表示されます。[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスを開いたときに、前に選択した項目を確定していなかった場合、つまり、NetBackup の実際の操作を行っていない場合は、選択した項目が xbp に残り、[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスに表示されます。この場合は、メイン ウィンドウに戻って、変更を行ってから選択した項目を確定することができます。

[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスで選択されているすべてを選択解除するには、[編集]メニューの[前のディレクトリの選択を無視]をクリックします。

## 選択したファイルのプレビュー

[編集]メニューの[すべての選択の調査]をクリックして選択したファイルの一覧をいつでも表示できます。[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスに似たダイアログ ボックスが表示されます。ただし、このダイアログ ボックスには[了解]ボタンがありません。

## [ディレクトリ構造]表示区画と[ファイル]表示区画のフォーマットの変更

ディレクトリとファイルを表示区画に表示する方法を以下のように変更できます。

### ディレクトリ構造を表示する

[ディレクトリ構造]表示区画で項目をインデントしてディレクトリ階層として表示するには、[表示]メニューの[インデントしたツリー構造]をクリックします。これはデフォルトです。[ディレクトリ構造]表示区画で、ディレクトリの絶対パス名を表示するには、[表示]メニューの[フルパス名]をクリックします。

### ディレクトリの表示レベル数を表示する

[ディレクトリ構造]表示区画と[ファイル]表示区画に表示するサブディレクトリのレベル数を変更するには、[ディレクトリの深さ]ボックスで変更します。

### 最新のバックアップまたはすべてのバックアップを表示する

リストアの場合は、[表示]メニューから選択して[各ファイル用のすべてのバックアップ日]または[最後バックアップ日のみ]を表示できます。

### ファイルの詳細を表示する

ファイルのサイズや書き込みアクセス権などのファイルの詳細を表示するには、[ 表示 ] メニューの [ 属性とファイル名の詳細表示 ] をクリックします。詳細なしでファイル名だけを表示するには、[ ファイル名の簡略表示 ] (デフォルト) をクリックします。

### 表示内容を更新する

NetBackupのウィンドウを更新してファイルの追加や削除などの最新の変更を表示するには、[ 編集 ] メニューの [ 画面の更新 ] をクリックします。

## ファイルやディレクトリの検索および選択

---



## xbp および bp のリファレンス ガイド

## 5

この章では、ユーザ インタフェース プログラムである xbp および bp のウィンドウ、画面、およびメニューについて説明します。この章のほとんどの情報は、各インタフェースのオンライン ヘルプでも参照できます。各インタフェースの使い方については、第 4 章の「X-Windows インタフェースの使い方」または第 3 章の「メニュー インタフェースの使い方」を参照してください。Java インタフェースの詳細については、第 2 章の「Java インタフェースの使い方」または関連アプリケーションのオンライン ヘルプを参照してください。

## グラフィカルユーザ インタフェース (xbp)

### グラフィカル ユーザ インタフェース (xbp)

xbp は、NetBackup ユーザにグラフィカル インタフェースを提供するプログラムです。このインタフェースは X-Windows ベースであり、OSF/Motif に準拠しています。Motif の使い方の概要については、『OSF/Motif User's Guide』(Open Software Foundation 編著、Prentice Hall (ISBN 0-13-640509-6)) を参照してください。ここでは、xbp で操作を行うためのウィンドウ、画面、およびメニューについて説明します。

#### メニューおよびダイアログ ボックスで使用される特殊記号

メニューおよびダイアログ ボックスでは、以下の記号が使用されます。

- ◆ メニュー項目の右側に表示される省略記号 (...) は、その項目を選択すると追加のオプションがダイアログ ボックスに表示されることを示します。省略記号のないメニュー項目を選択すると、直ちに操作が行われます。
- ◆ メニュー項目の左側にダイヤ形の記号が付いている場合は、複数の相互排他的なモードのうち、このメニュー項目に対応するモードが現在有効であることを示します。たとえば、[アーカイブファイルを参照 (リストア)] の左側にダイヤ形の記号が表示されている場合は、アーカイブされたファイルをリストアできます。
- ◆ メニュー ラベルに含まれる下線付きの文字は、ショートカット キーを示します。NCD 端末では、Alt キーを押しながらショートカット キーを押すと、対応するメニューが開きます。たとえば、Alt キーを押しながら V キーを押すと、[表示] メニューが開きます。端末の種類によっては、組み合わせるキーが Alt キー以外の場合もあります。
- ◆ メニューを開いたら、メニュー項目の文字に対応するキーを押すだけで、メニュー項目を実行できます。たとえば、[表示] メニューで I キーを押すと、[ディレクトリ構造] 表示区画のフォーマットが変更されてインデントされます。メニュー項目間は上下の方向キーを使用して移動できます。選択されたメニュー項目は強調表示され、Return キーを押すと強調表示された項目が実行されます。Esc キーを押すとメニューは閉じます。左右の方向キーを使用すると、左右のメニューが開きます。
- ◆ メイン ウィンドウ内のマウス ポインタは、NetBackup による操作の待機中は腕時計の形になります。たとえば、NetBackup によって表示内容が更新されている間はマウス ポインタが腕時計の形になり、更新が完了すると矢印の形に戻ります。

#### xbp の設定

ウィンドウの境界部分は、サイトで使用されるウィンドウ マネージャ (代表的なものは twm と mwm) に応じて異なります。ウィンドウが数秒間表示されないウィンドウ マネージャでは、マウスの左ボタンをクリックしてウィンドウを配置する必要があります。ウィンドウ マネージャを使用してウィンドウのサイズを変更することもできます。

xbp プログラムのテキスト フィールドは、最大サイズ 10x20 までのユーザ指定のフォントに対応できます。また、ウィンドウは、ウィンドウ マネージャ用の境界部分も含めて、1024x768 の画面に入ります。



デフォルトのフォントは指定されていません。検索パス **X** にリソース ファイル **XNB** が含まれている場合、**xbp** は **XNB** に設定された値を使用します。システムによっては、デフォルトのフォントが小さすぎる場合があります。一部のシステムでは、デフォルトのフォントにプロポーショナル スペーシングが使用されているために、カラム形式のテキストが入るフィールドでカラムが位置合わせされないこともあります。

特定のフォントを使用するようにリソース **X** を指定する方法については、チュートリアルヘルプ ファイルの最後の部分を参照してください。ヘルプ ファイルは以下の方法で参照できます。

1. [ヘルプ] メニューの [チュートリアル] をクリックします。[xbp 用のオンラインヘルプ テキスト] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [Customizing xbp] セクションまでスクロールします。

デフォルトで、サーバ **X** にプロポーショナル フォントが設定されており、システムで利用できるフォントが不明な場合は、汎用フォントの *fixed* を試してください。

デフォルトのウィンドウ サイズは、1024x768 の画面に収まるように設定されています。このため、サイズの大きいフォントを使用すると、*verbose* (詳細) 表示モードですべての情報を表示するには、水平スクロール バーが必要になる場合があります。ウィンドウ マネージャを使用して実行時にウィンドウの幅を広げると、スクロール バーを使用せずに済む場合があります。チュートリアルヘルプ ファイルにある「Customizing xbp」の説明に従って、デフォルト サイズを拡大し、サイズの小さいフォントを使用するようリソース **X** を変更することもできます。

**xbp** プログラムで使用する編集キー (BackSpace キーや Del キーなど) は、`/usr/lib/X11/XKeysymDB` ファイルで定義されています。このファイルが存在しない場合は、**NetBackup** のインストール時に名前だけで中身がほとんど無いバージョンのファイルがインストールされます。既存のバージョンは上書きされないため、ユーザによってカスタマイズされた `XKeysymDB` ファイルも破棄されません。

通常、Sun システムには、いくつかの編集キーが定義されていない状態の `XKeysymDB` ファイルがあります。この場合、ユーザまたは管理者は、**NetBackup** のサーバ マシンで使用されている **NetBackup** の標準バージョンの

`/usr/opensv/netbackup/bin/XKeysymDB` ファイルと現在の `XKeysymDB` ファイルを比較し、以下の操作を行う必要があります。

- ◆ 既存のバージョンに **NetBackup** バージョンを追加します。  
または
- ◆ 既存のバージョンを **NetBackup** バージョンに置き換えます。  
または
- ◆ 必要なキーボードがサポートされるように既存のバージョンを手動で編集します。

## グラフィカルユーザインタフェース (xbp)

### [xbp\_main] ウィンドウ

グラフィカル インタフェース プログラムを起動すると、[xbp\_main] ウィンドウが表示されます。



このウィンドウのメニューバーには、バックアップ、アーカイブ、およびリストアの各操作を行うためのメニューがあります。テキストボックスに特定の値を入力してディレクトリやファイルを検索し、選択することもできます。選択したディレクトリやファイルの情報は一覧に表示されます。

## [ ファイル ] メニュー



[ ファイル ] メニューには、NetBackup の操作対象とするファイルを検索し、選択するためのコマンドが含まれています。データベース スクリプトをブラウズして選択することもできます。

**注** BusinessServer では、Auspex FastBackup、SQL-BackTrack、DB2、および SAP はサポートされていません。

**ファイルシステムを参照 (バックアップまたはアーカイブ)** [ 検索するディレクトリ ]、[ 日付の範囲 ]、[ ファイル名フィルタ ]、および [ バックアップと関連するキーワードフレーズ ] の各ボックスに入力された条件に該当するディレクトリとファイルを [ ディレクトリ構造 ] 表示区画と [ ファイル ] 表示区画に表示します。

**バックアップファイルを参照 (リストア)** このクライアントに対して作成されたバックアップの一覧を作成します。作成された一覧は、メイン ウィンドウで開く [ バックアップイメージ ] 表示区画に表示されます。

**バックアップファイルを参照 (トゥルーイメージリストア)** このクライアントに対して作成されたトゥルー イメージのバックアップの一覧を作成します。作成された一覧は、メイン ウィンドウで開く [ バックアップイメージ ] 表示区画に表示されます。

## グラフィカルユーザインタフェース (xbp)

- アーカイブファイル参照 (リストア)** このクライアントに対して作成されたアーカイブの一覧を作成します。作成された一覧は、メイン ウィンドウで開く [バックアップイメージ] 表示区画に表示されます。
- バックアップファイル参照 (raw パーティションのリストア)** このクライアントに対して作成された raw パーティションのバックアップの一覧を作成します。作成された一覧は、メイン ウィンドウで開く [バックアップイメージ] 表示区画に表示されます。
- バックアップファイル参照 (Auspex FastBackup raw パーティション)** このクライアントで作成された Auspex FastBackup raw パーティションのバックアップの一覧を作成します。作成された一覧は、メイン ウィンドウで開く [バックアップイメージ] 表示区画に表示されます。  
**注:** Auspex FastBackup は、BusinessServer ではサポートされていません。
- データベースエクステンションのファイルシステムの参照** NetBackup には、xbp と組み合わせて使用できるデータベース エクステンションが用意されており、これを使用して代表的なデータベースのバックアップおよびリストアを行うことができます。データベース エクステンション用の NetBackup は別売りの製品なので、個別にインストールして xbp で使用できるように設定する必要があります。詳細については、データベース エクステンション用の NetBackup のシステム管理者ガイドを参照してください。  
データベース エクステンション用の NetBackup を有効にするには、ファイルシステムの参照コマンドを使用します。このコマンドによって、[ 検索するディレクトリ ]、[ 日付の範囲 ]、[ ファイル名フィルタ ]、および [ バックアップと関連するキーワードフレーズ ] の各ボックスに入力された条件に該当するすべてのディレクトリとファイルが [ ディレクトリ構造 ] 表示区画と [ ファイル ] 表示区画に表示されます。  
**注:** SQL-BackTrack、DB2、および SAP は、BusinessServer ではサポートされていません。
- 設定** [xbp\_config] ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログ ボックスでは、マスタ サーバ、リストア対象をブラウズするクライアント、リストア先のクライアント、およびブラウズするイメージのクラス タイプを指定できます。詳細については、「[xbp\_config] ダイアログ ボックス」(122 ページ) を参照してください。
- 終了** グラフィカル インタフェース プログラムを終了します。

## [ 編集 ] メニュー

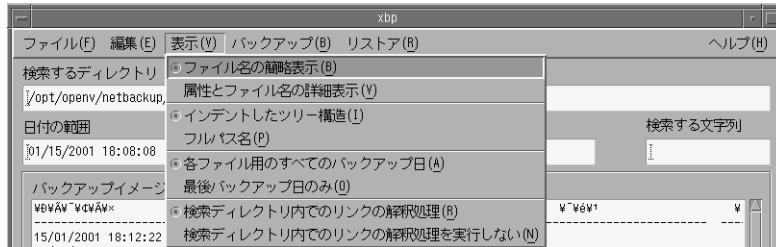


[ 編集 ] メニューには、選択した内容を変更するコマンドが含まれています。

- |                           |                                                                                                                                                     |
|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 現在のディレクトリ<br>の選択を消去       | [ ファイル ] 表示区画で選択されているファイルを選択解除します。<br>[xbp_confirm] ダイアログ ボックスで選択されている内容を解除するには、[ 前のディレクトリの選択を無視 ] を使用する必要があります。                                    |
| 現在のディレクトリ<br>内のすべてを選<br>択 | [ ファイル ] 表示区画のすべてのファイルを選択します。                                                                                                                       |
| 前のディレクトリ<br>の選択を無視        | [xbp_confirm] ダイアログ ボックスで選択されているファイルを選択解除しま<br>す。                                                                                                   |
| すべての選択の調<br>査             | [xbp_viewselect] ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログ ボックスに<br>は、現在選択されているファイルが表示されます。このダイアログ ボックス<br>は情報を表示するだけです。ダイアログ ボックスを閉じるコマンドと、ヘル<br>プを表示するコマンド以外はありません。 |
| 画面の更新                     | ディレクトリ ツリーを再び読み込んで、[ ディレクトリ構造 ] 表示区画と [ ファイル ] 表示区画を更新します。各テキスト ボックスで <b>Return</b> キーを押しても同じ結果になります。                                               |

## グラフィカルユーザインタフェース (xbp)

## [表示] メニュー

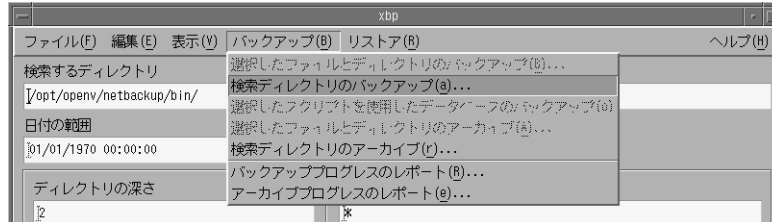


[表示] メニューには、[ディレクトリ構造] 表示区画と[ファイル] 表示区画にディレクトリやファイルの情報を表示する方法を変更するコマンドが含まれています。

- |                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ファイル名の簡略表示</b>         | ファイル名だけを表示します。ファイルの詳細は表示されません。デフォルトではこの方法で表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <b>属性とファイル名の詳細表示</b>      | ファイルの詳細（ファイルのサイズやアクセス権の種類など）を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <b>インデントしたツリー構造</b>       | [ディレクトリ構造] 表示区画の項目をインデントしてディレクトリ ツリーの階層構造を表示します。[インデントしたツリー構造] モードまたは[フルパス名] モードのいずれかを使用できます。両方のモードを同時に使用することはできません。デフォルトはインデント モードです。                                                                                                                                                                    |
| <b>フルパス名</b>              | [ディレクトリ構造] 表示区画にフルパス名を表示します。[フルパス名] モードまたは[インデントしたツリー構造] モード（上を参照）のいずれかを使用できます。両方のモードを同時に使用することはできません。デフォルトはインデント モードです。                                                                                                                                                                                  |
| <b>各ファイル用のすべてのバックアップ日</b> | [ファイル] 表示区画に各ファイルのすべてのバックアップを表示します。このコマンドを実行できるのは、[ファイル] メニューでバックアップまたはアーカイブをブラウズするモードのいずれかが設定されている場合（左側にダイヤ形が表示されている場合）だけです。このオプションは、ファイルシステムをブラウズするモードが設定されている場合は使用できません。[各ファイル用のすべてのバックアップ日] モードと[最後バックアップ日のみ] モードは、相互に排他的です。いずれか一方を使用することはできますが、両方を同時に使用することはできません。デフォルトは、[各ファイル用のすべてのバックアップ日] モードです。 |

- 最後バックアップ日のみ** [ファイル] 表示区画にファイルの最新のバックアップだけを表示します。このコマンドは、ディレクトリが特定できない場合に、散在するファイルの最新のコピーをすべて取得するときに便利です。このコマンドを実行できるのは、[ファイル] メニューでバックアップまたはアーカイブをブラウズするモードのいずれかが設定されている場合（左側にダイヤ形が表示されている場合）だけです。このオプションは、ファイルシステムをブラウズするモードが設定されている場合は使用できません。[各ファイル用のすべてのバックアップ日] モード（上を参照）と [最後バックアップ日のみ] モードは、相互に排他的です。いずれか一方を使用することはできますが、両方を同時に使用することはできません。デフォルトは、[各ファイル用のすべてのバックアップ日] モードです。
- 検索ディレクトリ内でのリンクの解釈処理** このコマンドをクリックすると、検索パス内のリンクが自動的に変更され、パスは実際のファイルまたはディレクトリを指します。これはデフォルトです。
- 検索ディレクトリ内でのリンクの解釈処理を実行しない** このコマンドをクリックすると、リンクは解決されず、入力された通りのパスが検索されます。

### [バックアップ] メニュー



[バックアップ] メニューには、選択したファイルやディレクトリのバックアップまたはアーカイブを開始するコマンドが含まれています。バックアップまたはアーカイブの進行状況を示すレポートも表示できます。[バックアップ] メニューのコマンドを実行するには、[ファイル] メニューでファイルシステムをブラウズするモードに設定しておく必要があります（設定されたモードの左側にはダイヤ形が表示されます）。ただし、進行状況のレポートを表示する場合は、その必要はありません。グラフィカル インタフェースがリストア モードの場合、[バックアップ] メニューのバックアップ コマンドは使用できません。

**注** [選択したファイルとディレクトリのバックアップ] または [選択したファイルとディレクトリのアーカイブ] をクリックした後で、選択した内容を確定せずに [xbp\_confirm] ダイアログ ボックスを閉じると、メインウィンドウに戻ります。ただし、選択した内容は [xbp\_confirm] ダイアログ ボックスに残ります。この機能は、

## グラフィカルユーザインタフェース (xbp)

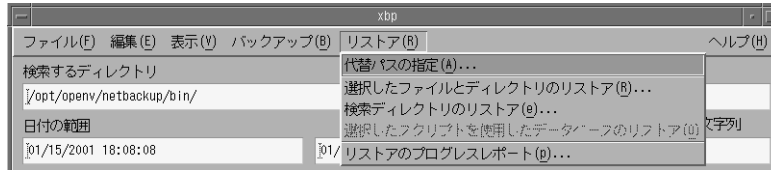
メインウィンドウに戻って選択した内容を編集するときに便利です。前に選択したファイルを選択解除するには、[編集]メニューの[前のディレクトリの選択を無視]をクリックします。

- |                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>選択したファイルとディレクトリのバックアップ</b>      | [xbp_confirm] ダイアログ ボックスを開いて、[ファイル] 表示区画で現在選択されているファイルのバックアップを開始します。[xbp_confirm] ダイアログ ボックスには、現在選択されている項目が表示されます。バックアップを実行するには、[了解] をクリックします。リストアを中止してメインウィンドウに戻るには、[取消し] をクリックします。                                                                                                                                                                                                                                            |
| <b>検索ディレクトリのバックアップ</b>             | [xbp_confirm] ダイアログ ボックスを開いて、[ディレクトリ構造] 表示区画で現在選択されているファイルのバックアップを開始します。[xbp_confirm] ダイアログ ボックスには、現在選択されている項目が表示されます。バックアップを実行するには、[了解] をクリックします。リストアを中止してメインウィンドウに戻るには、[取消し] をクリックします。                                                                                                                                                                                                                                        |
| <b>選択したスクリプトを使用したデータベースのバックアップ</b> | NetBackup には、xbp と組み合わせて使用できるデータベース エクステンションが用意されており、これを使用して代表的なデータベースのバックアップおよびリストアを行うことができます。データベース エクステンション用の NetBackup は別売りの製品なので、個別にインストールして xbp で使用できるように設定する必要があります。詳細については、データベース エクステンション用の NetBackup のシステム管理者ガイドを参照してください。<br><br>このコマンドは、[xbp_confirm] ダイアログ ボックスを開いて、データベースのバックアップを開始します。[xbp_confirm] ダイアログ ボックスには、[ファイル] 表示区画で選択したスクリプトが表示されます。バックアップを開始するには、[了解] をクリックします。リストアを中止してメインウィンドウに戻るには、[取消し] をクリックします。 |
| <b>選択したファイルとディレクトリのアーカイブ</b>       | [xbp_confirm] ダイアログ ボックスを開いて、[ファイル] 表示区画で現在選択されている項目のアーカイブを開始します。[xbp_confirm] ダイアログ ボックスには、現在選択されている項目が表示されます。バックアップを実行するには、[了解] をクリックします。リストアを中止してメインウィンドウに戻るには、[取消し] をクリックします。                                                                                                                                                                                                                                               |
| <b>検索ディレクトリのアーカイブ</b>              | [xbp_confirm] ダイアログ ボックスを開いて、[ディレクトリ構造] 表示区画で現在選択されている項目のアーカイブを開始します。[xbp_confirm] ダイアログ ボックスには、現在選択されている項目が表示されます。バックアップを実行するには、[了解] をクリックします。リストアを中止してメインウィンドウに戻るには、[取消し] をクリックします。                                                                                                                                                                                                                                           |
| <b>バックアッププロセスのレポート</b>             | [xbp_progress] ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログ ボックスには、バックアップ操作に関するログファイルが表示されます。詳細については、「[xbp_progress] ダイアログ ボックス」(127 ページ) を参照してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |



**アーカイブプログレ** [xbp\_progress] ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログ ボックスには、アーカイブ操作に関するログ ファイルが表示されます。詳細については、「[xbp\_progress] ダイアログ ボックス」(127 ページ)を参照してください。

### [ リストア ] メニュー



[ リストア ] メニューには、選択したファイルやディレクトリのリストアを開始するコマンドが含まれています。リストアの進行状況を示すレポートも表示できます。[ リストア ] メニューのコマンドを実行するには、[ ファイル ] メニューでリストアのブラウズ モードを設定しておく必要があります (設定されたモードの左側にはダイヤモンドが表示されます)。ただし、進行状況のレポートを表示する場合は、その必要はありません。リストアのブラウズ モードを設定しないと、[ リストア ] メニューのコマンドは使用できません。

**注** [ 選択したファイルとディレクトリのリストア ] をクリックした後で、選択した内容を確認せずに [xbp\_confirm] ダイアログ ボックスを閉じると、メイン ウィンドウに戻ります。ただし、選択した内容は [xbp\_confirm] ダイアログ ボックスに残ります。この機能は、メイン ウィンドウに戻って選択した内容を編集するときに便利です。前に選択したファイルを選択解除するには、[ 編集 ] メニューの [ 前のディレクトリの選択を無視 ] をクリックします。

**代替パスの指定** [xbp\_altpath] ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログ ボックスを使用すると、ファイルを元のディレクトリとは別のディレクトリにリストアできます。存在しないパスを指定すると、そのパスはファイルのリストア時に作成されます。DomainOS クライアントでは、別のパスへのリストアがサポートされていません。詳細については、「[xbp\_altpath] ダイアログ ボックス」(124 ページ)を参照してください。

**選択したファイルとディレクトリのリストア** ツール イメージのリストアを除くすべてのブラウズ モードでは、[ ファイル ] 表示区画で現在選択されている項目のリストアを開始します。ツール イメージのリストア モードでは、選択されているディレクトリのツール イメージのリストアを開始します。いずれの場合も、[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスが開き、現在選択されている項目が表示されます。バックアップを実行するには、[ 了解 ] をクリックします。リストアを中止してメイン ウィンドウに戻るには、[ 取消し ] をクリックします。

## グラフィカルユーザインタフェース (xbp)

**検索ディレクトリのリストア** このコマンドは、[バックアップファイルを参照 (トウルイメージリストア)] モードでは使用できません。[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスを開いて、[ディレクトリ構造] 表示区画で現在選択されている項目のリストアを開始します。[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスには、現在選択されている項目が表示されます。バックアップを実行するには、[了解] をクリックします。リストアを中止してメイン ウィンドウに戻るには、[取消し] をクリックします。

**選択したスクリプトを使用したデータベースのリストア** NetBackup には、xbp と組み合わせて使用できるデータベース エクステンションが用意されており、これを使用して代表的なデータベースのバックアップおよびリストアを行うことができます。データベース エクステンション用の NetBackup は別売りの製品なので、個別にインストールして xbp で使用できるように設定する必要があります。詳細については、データベース エクステンション用の NetBackup のシステム管理者ガイドを参照してください。

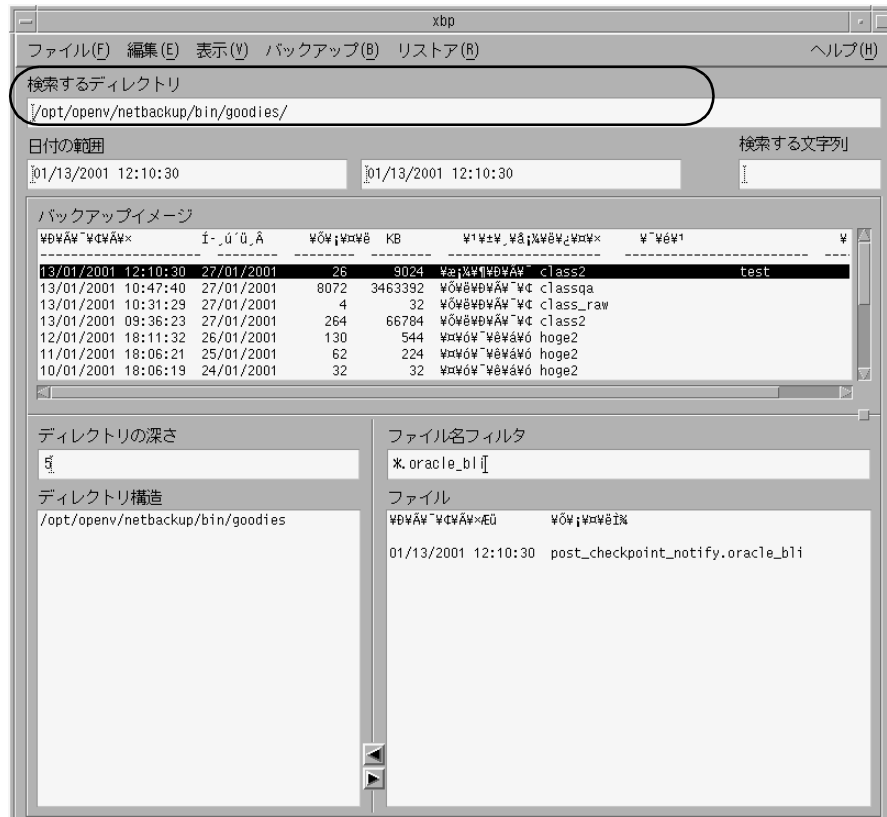
各コマンドは、[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスを開いて、対応するタイプのデータベースのリストアを開始します。[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスには、[ファイル] 表示区画で選択したスクリプトが表示されます。バックアップを実行するには、[了解] をクリックします。リストアを中止してメイン ウィンドウに戻るには、[取消し] をクリックします。

**リストアのプログレスレポート** [xbp\_progress] ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログ ボックスには、リストア操作に関するログ ファイルが表示されます。詳細については、「[xbp\_progress] ダイアログ ボックス」(127 ページ) を参照してください。

### [ヘルプ] メニュー

[ヘルプ] メニューには、グラフィカル インタフェースの使い方に関するオンライン ヘルプがあります。

## [ 検索するディレクトリ ] ボックス



このボックスから、バックアップ、アーカイブ、またはリストアするファイルのブラウズを開始します。デフォルトでは、グラフィカル インタフェースを起動したディレクトリが設定されています。デフォルトのディレクトリを変更するには、[ 検索するディレクトリ ] ボックスに新しいディレクトリパスを入力し、**Return** キーを押します。または、[ ディレクトリ構造 ] 表示区画で変更先のディレクトリをダブルクリックします。

検索対象のディレクトリを指定するときに、以下のワイルドカード文字を使用することもできます。

\* ? [ ]

例:

/home/s\*  
 /home/.??\*  
 /home/[a-z]\*

## グラフィカル ユーザ インタフェース (xpb)

---

ファイルパスでは、ワイルドカード文字がワイルドカード文字としてではなくリテラルとして使用される場合があります。このようなファイルパスをバックアップまたはリストアするには、円マーク (¥) 文字を使用してワイルドカードをエスケープする必要があります。たとえば、以下のパスで使用されている角かっこ ([ ]) は、ワイルドカード文字ではありません。

```
/home/abc/fun[ny]name
```

このファイルパスをバックアップまたはリストアするには、以下のように角かっこの前に円マーク (¥) を使用します。

```
/home/abc/fun¥[ny¥]name
```

これで、角かっこはリテラルとして解釈されます。

円マーク (¥) がエスケープ文字として機能するのは、上の例のようにワイルドカードの前に使用された場合だけです。通常、**NetBackup** は円マーク (¥) をリテラルとして解釈します。ほかの正式な文字と同じようにパス名にも使用できます。

[ 検索するディレクトリ ] ボックスは、長いパス名を入力すると、自動的に水平にスクロールされます。ウィンドウの幅を超えるパスを表示するには、スクロールバーを使用して水平にスクロールします。

## [ 日付の範囲 ] ボックス



[ 日付の範囲 ] ボックスを使用すると、ファイルをブラウズして選択するための日付の範囲を指定できます。左のボックスには開始日を指定し、右のボックスには終了日を指定します。

- ◆ リストアの場合は、目的のバックアップまたはアーカイブが行われた時期に相当する日付の範囲を入力します。
- ◆ バックアップまたはアーカイブの場合は、目的のファイルが最後に変更された時期に相当する日付の範囲を入力します。

[ ディレクトリ構造 ] 表示区画と [ ファイル ] 表示区画には、指定された日付の範囲に該当するファイルだけが表示されます。管理者は、最初に設定されたデフォルト値を変更して日付の範囲をさらに狭めることができます。その場合は、サーバ側およびクライアント側の

/usr/opensv/netbackup/bp.conf ファイルにある INITIAL\_BROWSE\_SEARCH\_LIMIT オプションを使用します。

## グラフィカル ユーザ インタフェース (xbp)

---

### ブラウザ モード

グラフィカル インタフェースの起動時は、バックアップ モードになります。デフォルトの日付の範囲は、01/01/70 から現在の日付までです。この範囲を変更するには、キーボードから新しい値を入力し、Return キーを押します。米国での日時の形式は以下の通りです。

- ◆ 日付の形式は、月 / 日 / 年です。以下に例を示します。

01/23/93

- ◆ 時刻の形式は、時:分:秒です。時間は、24時間制で表示されます。以下に例を示します。

深夜 0 時は 00:00:00、正午は 12:00:00、午後 11 時 30 分は 23:30:00 になります。

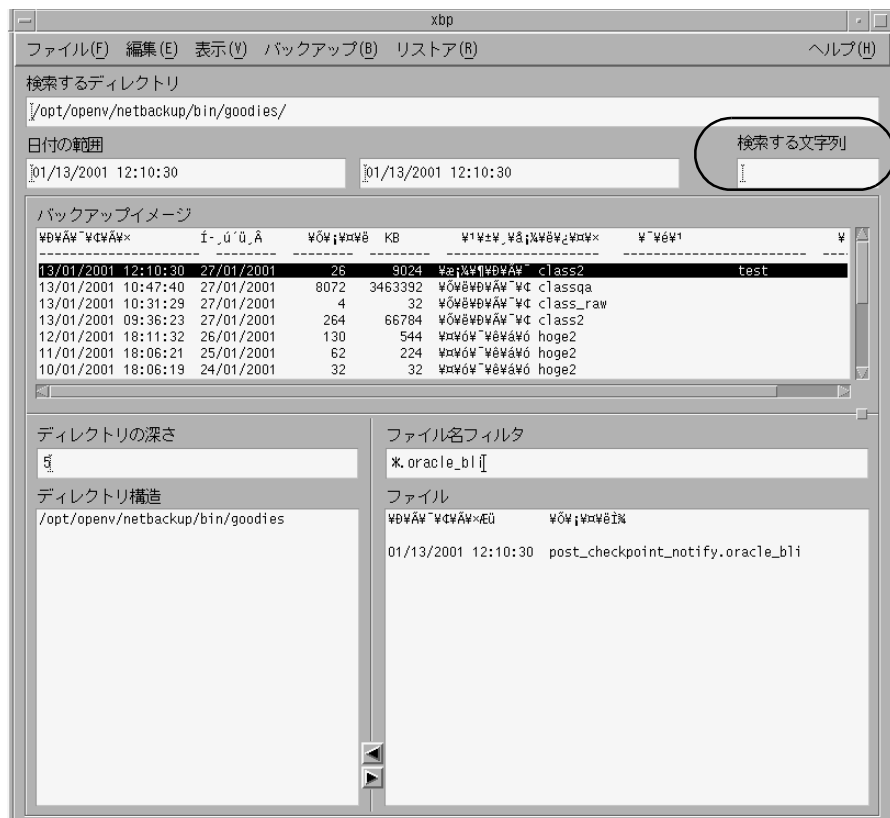
開始日から現在の日付までを検索するには、終了日を空白にします。

### リストア モード

バックアップ モードからリストア モードに切り替えると、通常はデフォルトで開始日が最新のフル バックアップの日付に変更されます。ただし、モードを切り替える前に特定の日付を入力すると、その日付が使用されます。

クライアントが複数のクラスに属している場合、開始日には、最後に行われたフル バックアップのうち、最も古い日付がデフォルトで設定されます。たとえば、クライアントが ClassW1 と ClassW2 に属しており、両方のクラスでフル バックアップが行われたとします。ClassW1 の最後のフル バックアップが、ClassW2 の最後のフル バックアップより前に行われた場合、ClassW1 のフル バックアップ以降にバックアップされたファイルが表示されます。

## [ バックアップと関連するキーワードフレーズ ] ボックス



バックアップまたはアーカイブの操作によって作成されるバックアップに対応付けるキーワードフレーズを設定します。後でキーワードフレーズを指定するだけで、対応するバックアップをリストアできます。

このオプションをほかのリストアオプションの代わりとして使用するか、または組み合わせて使用することによって、バックアップとアーカイブを簡単にリストアできます。以下のメタ文字をキーワードに含めて使用すると効率的に検索できます。

\* - 任意の数の文字を表します。

? - 任意の 1 文字を表します。

[] - 角かっこ内に指定した文字のいずれかを表します。

[-] - 角かっこ内に指定した範囲内の任意の 1 文字を表します。

キーワードフレーズは、バックアップを表すテキスト文字列です。指定できる最大文字数は 128 文字です。キーワードフレーズには、スペース (" ") とピリオド (".") も含めて、すべての印刷可能な文字を使用できます。キーワードフレーズは二重引用符 ("...") または単一引用符 ('...') で囲んで、UNIX のシェルと矛盾しないようにします。

## グラフィカルユーザインタフェース (xbp)

デフォルトのキーワードフレーズは、ヌル (空) 文字列です。

### [バックアップイメージ]表示区画



[バックアップイメージ]表示区画は、[ファイル]メニューの[バックアップファイルを参照 (リストア)]、[バックアップファイルを参照 (トゥルーイメージリストア)]、または[アーカイブファイルを参照 (リストア)]を実行したときに、メインウィンドウ内に表示されます。この表示区画には、クライアントのバックアップまたはアーカイブが表示されます。[検索するディレクトリ]、[日付の範囲]、[ディレクトリの深さ]、[ファイル名フィルタ]、および[バックアップと関連するキーワードフレーズ]の各ボックスに指定した値に該当するディレクトリとファイルを、一部または全部のバックアップから検索できます。



一覧の先頭には、最新のバックアップまたはアーカイブが表示されます。一覧には、各バックアップに関する以下の情報が表示されます。

|           |                                                                                                                                                                        |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| バックアップ    | バックアップが行われた日時。                                                                                                                                                         |
| 有効期限      | バックアップの期限が切れて[バックアップイメージ]表示区画から削除される日時。                                                                                                                                |
| ファイル      | バックアップ内のファイル数。                                                                                                                                                         |
| KB        | バックアップのサイズ (KB)。                                                                                                                                                       |
| スケジュールタイプ | 以下のスケジュールタイプ。<br>- Full Backup (フルバックアップ)<br>- Incr Backup (インクリメンタルバックアップ)<br>- User Backup (ユーザバックアップ)<br>- User Archive (ユーザアーカイブ)                                  |
| クラス       | バックアップを作成したバックアップクラス。クラス名はシステム管理者が設定します。詳細については、『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』または『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。 |
| キーワード     | バックアップを開始するときにユーザが入力したキーワード。                                                                                                                                           |

[バックアップイメージ]表示区画では、バックアップの選択に関し、以下の規則が適用されます。

- ◆ 特定のバックアップを選択すると、開始日と終了日の日付が、選択したバックアップの日付に変更されます。
- ◆ 連続した複数のバックアップを選択すると、開始日と終了日には、選択した範囲内で最も古い日付と最も新しい日付がそれぞれ表示されます。
- ◆ 別のバックアップを選択すると、前の選択は取消されます。表示される項目がウィンドウの幅を超える場合は、右端に垂直スクロールバーが表示されます。

選択した内容を確認したら、いずれかのテキストボックスにマウスポインタを移動し、Return キーを押します。選択したバックアップのうち、[検索するディレクトリ]、[日付の範囲]、[ディレクトリの深さ]、[ファイル名フィルタ]、および[バックアップと関連するキーワードフレーズ]の各条件を満たすディレクトリとファイルが、[ディレクトリ構造]表示区画と[ファイル]表示区画にそれぞれ表示されます。

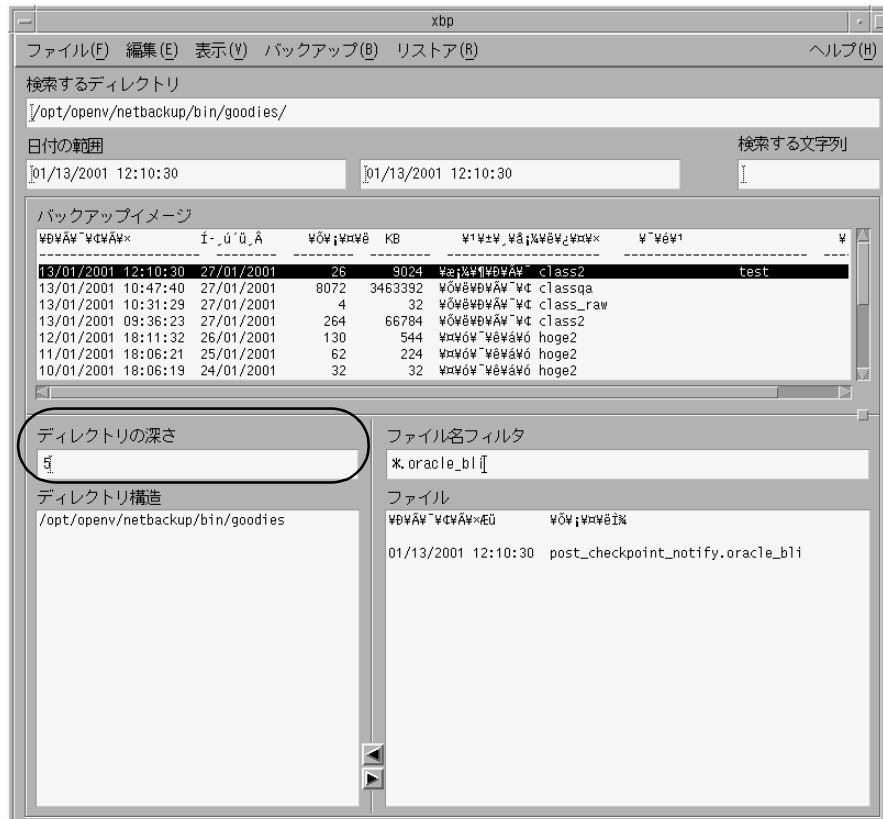
---

**注** クライアントは、NetBackup のマスタサーバからファイル情報を取得するため、内容が更新されるまでには時間がかかります。

---

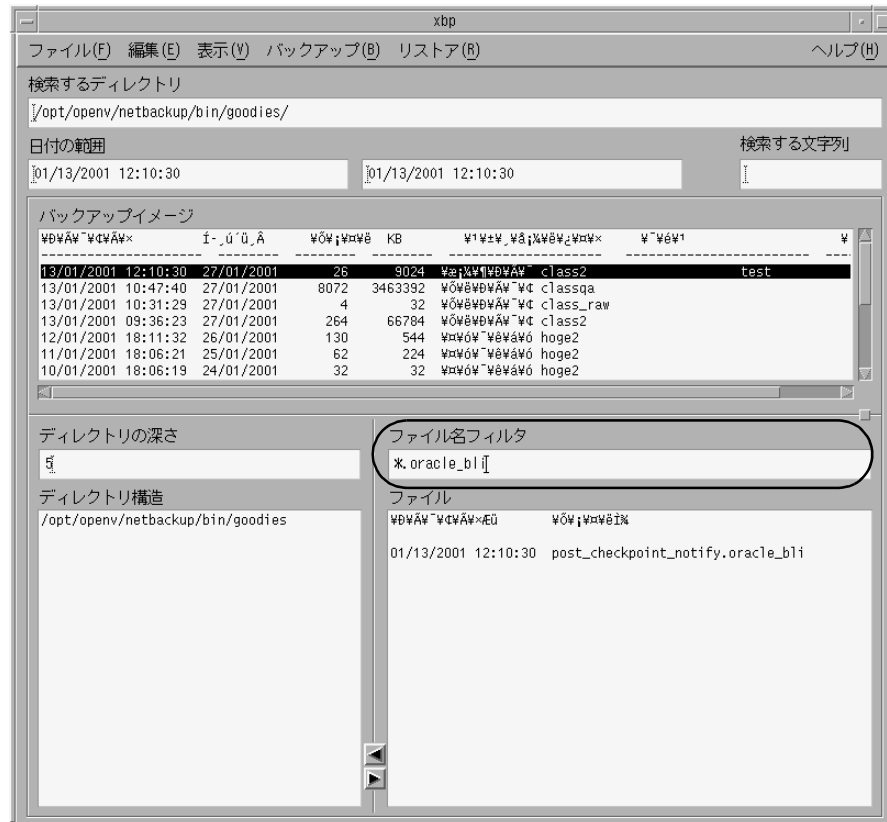
## グラフィカルユーザインタフェース (xbp)

## [ ディレクトリの深さ ] ボックス



[ ディレクトリの深さ ] ボックスでは、現在のディレクトリのサブディレクトリを何レベルまで検索するかを指定します。このボックスでの指定は [ ファイル ] 表示区画には影響しません。キーボードから新しい値を入力してレベル数を変更し、**Return** キーを押します。デフォルトは2です。

## [ファイル名フィルタ] ボックス



[ファイル名フィルタ] ボックスは、選択したディレクトリの中から [ファイル] 表示区画に表示するファイルを選別します。グラフィカル インタフェースの起動時の [ファイル名フィルタ] ボックスには「\*」と表示され、[ファイル] 表示区画にはすべてのファイルが表示されます。これを変更して表示されるファイルを選別できます。特定のファイル名のほか、以下の式を使用してファイル名をフィルタ処理できます。

アスタリスク (\*) は、任意の数の文字を表します。たとえば、「\*\_log」と指定すると、\_log で終わるすべてのファイルを検索できます。

疑問符 (?) は、任意の 1 文字を表します。たとえば、「log?」と指定すると、log1、log2、log3 などのファイルを検索できます。

角かっこ ([ ]) は、角かっこ内に指定した文字のいずれかを表します。たとえば、「prog[1-4]」と指定すると、prog で始まり、1～4 のいずれかの数字で終わる 5 文字の組み合わせを検索できます。

## グラフィカルユーザインタフェース (xbp)

## [ ディレクトリ構造 ] 表示区画と [ ファイル ] 表示区画



この2つの表示区画でディレクトリとファイルを選択し、NetBackup の操作を適用できます。[ ファイル ] 表示区画に表示されるディレクトリには、スラッシュ (/) が付きます。2つの表示区画に表示される内容は、ブラウザモードに応じて異なります。

ディレクトリツリーのブラウザとファイルの選択の詳細については、「ファイルやディレクトリの検索および選択」(94 ページ) を参照してください。

## [ ファイルシステムを参照 (バックアップまたはアーカイブ) ] モード

[ ファイルシステムを参照 (バックアップまたはアーカイブ) ] モードでは、ファイルシステムの中で以下の条件に該当するディレクトリとファイルが表示区画に表示されます。

- ◆ [ 検索するディレクトリ ] ボックスに設定された、クライアントのディレクトリツリー内のディレクトリ、またはそのディレクトリの下にあるサブディレクトリに含まれるもの。[ ディレクトリの深さ ] ボックスで指定したレベル数のサブディレクトリが表示されます。
- ◆ [ 日付の範囲 ] ボックスに指定した期間内に日付が変更されたもの。

- ◆ 現在選択されているディレクトリ内にあり、[ファイル名フィルタ]ボックスの値に合致するもの。

グラフィカル インタフェースの起動時のモードは、[ファイルシステムを参照 (バックアップまたはアーカイブ)] です。このモードでは、xbp コマンドの実行元のディレクトリにあるすべてのディレクトリとファイルが表示されます。

#### [バックアップファイルを参照 (リストア)] モードまたは [アーカイブファイルを参照 (リストア)] モード

[バックアップファイルを参照 (リストア)] モードまたは [アーカイブファイルを参照 (リストア)] モードでは、選択したバックアップまたはアーカイブの中で以下の条件に該当するディレクトリとファイルが表示区画に表示されます。

- ◆ [検索するディレクトリ]ボックスに設定された、クライアントのディレクトリ ツリー内のディレクトリ、またはそのディレクトリの下にあるサブディレクトリに含まれるもの。[ディレクトリの深さ]ボックスで指定したレベル数のサブディレクトリが表示されます。
- ◆ [日付の範囲]ボックスに指定した期間内にバックアップされたもの。
- ◆ 現在選択されているディレクトリ内にあり、[ファイル名フィルタ]ボックスの値に合致するもの。

#### [バックアップファイルを参照 (トゥルーイメージリストア)] モード

[バックアップファイルを参照 (トゥルーイメージリストア)] モードでは、選択したバックアップの中で以下の条件に該当するディレクトリが表示区画に表示されます。

- ◆ [検索するディレクトリ]ボックスに設定された、クライアントのディレクトリ ツリー内のディレクトリ、またはそのディレクトリの下にあるサブディレクトリに含まれるもの。[ディレクトリの深さ]ボックスで指定したレベル数のサブディレクトリが表示されます。
- ◆ [日付の範囲]ボックスに指定した期間内に、スケジュールされたフルバックアップまたはインクリメンタルバックアップによってバックアップされたもの。
- ◆ 現在選択されているディレクトリ内にあり、[ファイル名フィルタ]ボックスの値に合致するもの。

#### スクリプトのブラウザ モード

スクリプトのブラウザ モードでは、バックアップまたはアーカイブのためにファイルシステムをブラウザする場合と同じ情報が表示区画に表示されます。

NetBackup には、xbp と組み合わせて使用できるデータベース エクステンションが用意されており、これを使用して代表的なデータベースのバックアップおよびリストアを行うことができます。データベース エクステンション用の NetBackup は別売りの製品なので、個

## グラフィカルユーザインタフェース (xbp)

別にインストールして xbp で使用できるように設定する必要があります。詳細については、データベース エクステンション用の NetBackup のシステム管理者ガイドを参照してください。

### [バックアップファイルを参照 (raw パーティションのリストア)] モード

[バックアップファイルを参照 (raw パーティションのリストア)] モードでは、バックアップまたはアーカイブのためにファイルシステムをブラウズする場合と同じ情報が表示区画に表示されます。

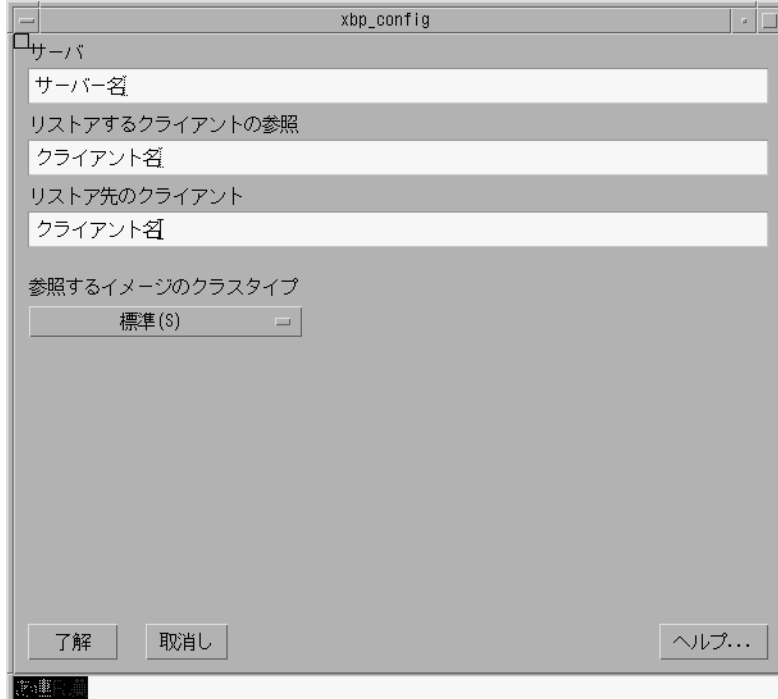
### [バックアップファイルを参照 (Auspex FastBackup raw パーティション)] モード

**注** Auspex FastBackup は、BusinessServer ではサポートされていません。

[バックアップファイルを参照 (Auspex FastBackup raw パーティション)] モードでは、バックアップまたはアーカイブのためにファイルシステムをブラウズする場合と同じ情報が表示区画に表示されます。

## [xbp\_config] ダイアログ ボックス

[xbp\_config] ダイアログ ボックスは、[ファイル] メニューの [設定] をクリックすると表示されます。



[`xbp_config`] ダイアログ ボックスでは、以下の値を変更できます。必要な変更を行うには、マウスとキーボードを使用します。変更の完了後は、以下のいずれかの操作を行います。

- ◆ 新しい値を使用するには、[ 了解 ] をクリックします。  
または
- ◆ 変更を取消して前の値を継続して使用するには、[ 取消し ] をクリックします。

#### サーバ

NetBackup がバックアップ要求およびアーカイブ要求の送信先とする現在のマスタ サーバです。このサーバにあるバックアップをブラウズしてファイルをクライアントにリストアします。マスタ サーバは、クライアントで `/usr/opensv/netbackup/bp.conf` ファイルの `SERVER` オプションの下に表示される最初のサーバです。bp.conf ファイルの詳細については、『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』または『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

グラフィカル インタフェースの起動時には、クライアントに設定されたデフォルトのマスタサーバがこのボックスに表示されます。マスタサーバの名前は変更できます。無効な名前を指定した場合、またはクライアントがそのサーバに設定されているクラスに属していない場合は、エラーメッセージが表示されます。

#### リストアするクライアントの参照

現在ブラウズできるバックアップファイルがあるクライアント。マスタサーバの管理者は、このクライアント名を別のクライアント名に変更できます。また、マスタサーバの `/usr/opensv/netbackup/altnames` ファイルで必要な変更を行って、クライアント名を変更するための許可をユーザに与えることもできます。

グラフィカル インタフェースの起動時に、このボックスに表示されるクライアント名は、クライアントの `/usr/opensv/netbackup/bp.conf` ファイルの `CLIENT_NAME` パラメータに指定された現在のクライアント名です。

altnames と bp.conf ファイルの詳細については、『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』または『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

#### リストア先のクライアント

グラフィカル インタフェースの起動時には、このフィールドに現在のクライアント名が表示されます。

マスタサーバでユーザ インタフェースを実行している管理者は、この名前を変更して別のクライアントをファイルのリストア先として指定できます。ほかのユーザは、この機能を利用できません。

#### 参照するイメージのクラスタイプ

別のクライアントにリストアするときに、ファイルのリストア先となるクライアントのタイプ。

クライアントタイプは、[ リストア先のクライアント ] ボックスと [ リストアするクライアントの参照 ] ボックスのクライアントタイプと一致する必要があります。異なるタイプのクライアントには、リストアできません。

## グラフィカル ユーザ インタフェース (xbp)

**[xbp\_altpath] ダイアログ ボックス**

[xbp\_altpath] ダイアログ ボックスは、[ リストア ] メニューの [ 代替パスの指定 ] をクリックすると表示されます。このダイアログ ボックスでは、ファイルのリストア先として元のパスとは別のパスを設定できます。



ダイアログ ボックスの上部のテキスト ボックスには、リストアのパスが表示されます。

リストア元                      リストアするファイルを検索する対象のフルパス名またはパス名の一部が表示されます。

リストア先                      選択したファイルのリストア先のパスが表示されます。

グラフィカル インタフェースの起動時には、この 2 つのパスは現在の検索対象のディレクトリに設定されます。

[ リストア元 ] ボックスと [ リストア先 ] ボックスのパスは、マウスとキーボードを使用して変更できます。[ 現在のディレクトリ ] ボタンを使用すると、両方のボックスの値はデフォルトに変更されます。デフォルトは、現在の検索対象のディレクトリです。存在しないパスを指定すると、そのパスはファイルのリストア時に作成されます。

パスの変更後に以下のいずれかの操作を行います。

- ◆ 次回のリストアで[ リストア元 ] と [ リストア先 ] の新しいパスを使用する場合は、[ 了解 ] をクリックします。

または

- ◆ 変更を取消して前の値を継続して使用するには、[ 取消し ] をクリックします。



## グラフィカル ユーザ インタフェース (xbp)

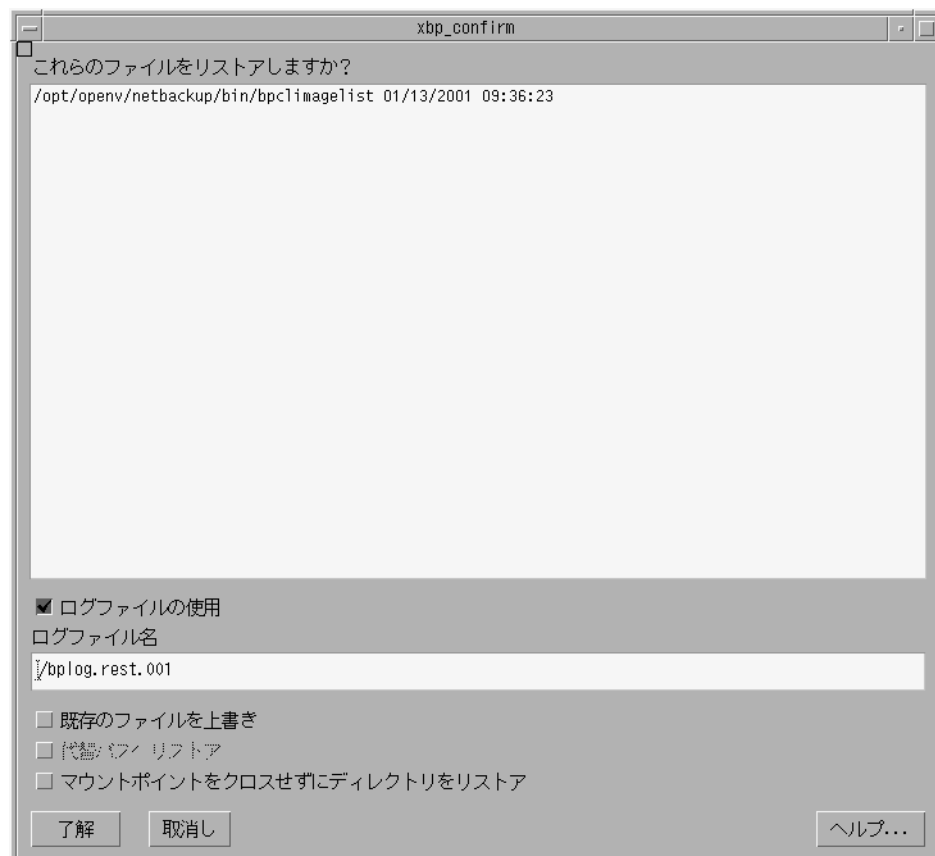
ファイルへのソフト リンク (シンボリック リンク) とハード リンクの名前を変更して、各リンクが [ リストア先 ] のパス名を指すようにすることもできます。

ハードリンク名の変更 ハード リンクの名前を変更してリンクが新しいパスを指すようにするには、このボタンを有効にします。ボタンは有効になると強調表示されます。

ソフトリンク名の変更 ソフトリンク (シンボリックリンク) の名前を変更してリンクが新しいパスを指すようにするには、このボタンを有効にします。ボタンは有効になると強調表示されます。

**[xbp\_confirm] ダイアログ ボックス**

[xbp\_confirm] ダイアログ ボックスは、NetBackup の操作を実行するときに表示されます。このダイアログ ボックスには、[ ディレクトリ構造 ] 表示区画または [ ファイル ] 表示区画で選択した項目が表示され、次の操作に進む前に選択内容を確認できます。選択した項目の一覧がダイアログ ボックスの幅を超える場合は、右端に垂直スクロール バーが表示されます。



## グラフィカルユーザインタフェース (xbp)

---

- ログファイルの使用** [ログファイルの使用]チェックボックスを使用してホームディレクトリにプログレス ログ ファイルを作成するかどうかを指定できます。このファイルには、操作の進行に伴ってログが記録されます。
- ログ ファイルを使用する場合は、[ログファイルの使用]チェックボックスを有効にします(デフォルト)。ログ ファイルの名前は、[ログファイル名]ボックスに表示されます。ログ ファイルを読むには、[バックアップ]メニューまたは[リストア]メニューの進行状況レポートのコマンドを使用します。詳細については、次のトピック (「[xbp\_progress] ダイアログ ボックス」(127 ページ))を参照してください。
- 既存のファイルを上書き** ファイルまたはディレクトリをリストアするときに、[既存のファイルを上書き]チェックボックスを使用して、既存のファイルを上書きするかどうかを指定できます。
- 既存のファイルを上書きする場合は、[既存のファイルを上書き]チェックボックスを選択します。ファイルやディレクトリを上書きできるかどうかは、ファイルの所有権とアクセス権があるかどうかによって決まります。詳細については、「NetBackup に必要なファイル アクセス権」(7 ページ)を参照してください。
- 既存のファイルを上書きしない場合は、[既存のファイルを上書き]チェックボックスをクリアします。ファイルが存在する場合、リストアは行われません。
- 代替パスへリストア** 以前に別のパスを選択していると、[代替パスへリストア]チェックボックスを使用できます。このチェックボックスが選択されている場合は、ファイルを元のディレクトリとは別のディレクトリにリストアできます。詳細については、「[xbp\_altpath] ダイアログ ボックス」(124 ページ)を参照してください。以前に別のパスを選択していないと、このチェックボックスは使用できません。
- 別のディレクトリにファイルをリストアするには、[代替パスへリストア]チェックボックスを選択します。
- 別のパスへのリストアを取消すには、[代替パスへリストア]チェックボックスをクリアします。
- マウントポイントをクロスせずにディレクトリをリストア** 選択したディレクトリにマウントされているファイルシステムをスキップするには、[マウントポイントをクロスせずにディレクトリをリストア]チェックボックスを選択します(デフォルト)。

---

**注** 内部のマウント ポイントは、[マウントポイントをクロスせずにディレクトリをリストア]チェックボックスが選択されているかどうかに関係なくリストアされます。

---

選択した内容を確認して NetBackup の操作を開始するには、[了解]をクリックします。

取消して NetBackup の操作を開始せずにメイン ウィンドウに戻るには、[ 取消し ] をクリックします。取消しても、選択した内容には影響しません。取消した後で、[ 編集 ] メニューの [ 前のディレクトリの選択を無視 ] をクリックすると、選択した内容を編集または選択解除できます。

## [xbp\_progress] ダイアログ ボックス

[xbp\_progress] ダイアログ ボックスは、該当するメニューから [ バックアッププログラムのレポート ]、[ アーカイブプログラムのレポート ]、または [ リストアのプログラムのレポート ] を実行するときに表示されます。このダイアログ ボックスには、ホーム ディレクトリの関連するプログラムのログ ファイルが表示され、操作の進行状況を監視できます。

このダイアログ ボックスの使い方については、「操作の進行状況の確認」(91 ページ) を参照してください。

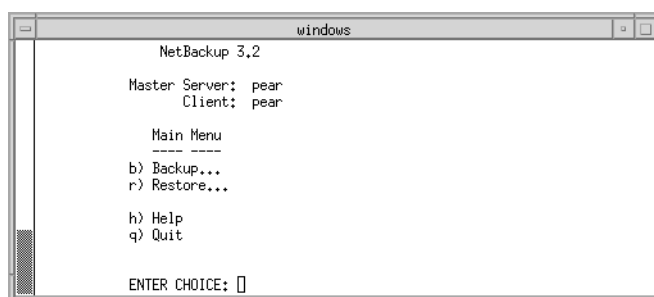


## メニュー インタフェース (bp)

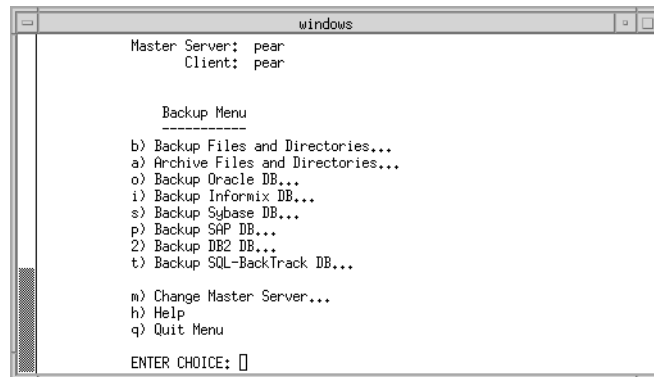
### メニュー インタフェース (bp)

bp プログラムは、NetBackup に対するメニュー形式のユーザ インタフェースです。メニューから操作を実行するには、対応するメニュー項目の左側にある文字を入力します。たとえば、メインメニューから「b」と入力すると、[Backup Menu] が表示されます。通常、Return キーを押す必要はありません。オプションの右側に表示される省略記号 (...) は、そのオプションを選択すると、さらに別のメニューや画面が表示されることを示します。省略記号のないオプションを選択すると、直ちに操作が行われます。

#### メインメニュー



- |               |                                                                                                                             |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Master Server | NetBackup が操作要求の送信先とするマスタ サーバです。別のマスタ サーバを指定するには、[Backup Menu] または [Restore Menu] の [m (Change Master Server)] オプションを使用します。 |
| Client        | バックアップまたはアーカイブを実行するクライアントの名前が表示されます。                                                                                        |
| b (Backup)    | [Backup Menu] を開きます。                                                                                                        |
| r (Restore)   | [Restore Menu] を開きます。                                                                                                       |
| h (Help)      | メインメニューのヘルプ情報。各セカンダリメニューにも [Help] オプションがあります。                                                                               |
| q (Quit)      | プログラムを終了し、シェルプロンプトに戻ります。                                                                                                    |

**[Backup Menu]**

**注** BusinessServer では、[Backup SAP DB]、[Backup DB2 DB]、および [Backup SQL-BackTrack DB] の各メニュー項目はサポートされていません。

|                                          |                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Master Server</b>                     | NetBackup がバックアップ要求およびリストア要求の送信先とするマスターサーバです。別のマスターサーバを指定するには、[m (Change Master Server)] オプションを使用します。                                                                                                             |
| <b>Client</b>                            | バックアップまたはアーカイブを実行するクライアントの名前が表示されます。                                                                                                                                                                              |
| <b>b (Backup Files and Directories)</b>  | [Backup of Files and Directories] メニューを開きます。                                                                                                                                                                      |
| <b>a (Archive Files and Directories)</b> | [Archive of Files and Directories] メニューを開きます。                                                                                                                                                                     |
| <b>データベースのバックアップオプション</b>                | NetBackup には、bp と組み合わせて使用できるデータベース エクステンションが用意されており、これを使用して代表的なデータベースのバックアップおよびリストアを行うことができます。データベース エクステンション用の NetBackup は別売りの製品なので、個別にインストールする必要があります。詳細については、データベース エクステンション用の NetBackup のシステム管理者ガイドを参照してください。 |
| <b>o (Backup Oracle DB)</b>              | [Backup Oracle DB] メニューを開きます。                                                                                                                                                                                     |
| <b>i (Backup Informix DB)</b>            | [Backup Informix DB] メニューを開きます。                                                                                                                                                                                   |
| <b>s (Backup Sybase DB...)</b>           | [Backup Sybase DB] メニューを開きます。                                                                                                                                                                                     |
| <b>p (Backup SAP DB)</b>                 | [Backup SAP DB] メニューを開きます。                                                                                                                                                                                        |

## メニュー インタフェース (bp)

|                             |                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 (Backup DB2 DB)           | [Backup DB2 DB] メニューを開きます。                                                                                                                                                 |
| t (Backup SQL-BackTrack DB) | [Backup SQL-BackTrack DB] メニューを開きます。                                                                                                                                       |
| m (Change Master Server)    | バックアップ要求とリストア要求の送信先とするマスタサーバを変更できます。無効なサーバを指定した場合、またはクライアントがそのサーバでユーザ指定されているバックアップ クラスに属していない場合は、エラーメッセージが表示されます。ここで指定したマスタサーバが、クライアントに対して設定されたメニュー インタフェース起動時のデフォルトになります。 |
| h (Help)                    | [Backup Menu] のヘルプ情報。各セカンダリ メニューにも [Help] オプションがあります。                                                                                                                      |
| q (Quit Menu)               | [Backup Menu] を閉じて、[Main menu] に戻ります。                                                                                                                                      |

## [Backup of Files and Directories] メニュー

```

windows
 Path: /opt/opensv32/netbackup/bin/
 Start Date: 01/01/70 00:00:00
 End Date: 12/02/98 23:59:59
 Master Server: pear
 Display Mode: Brief
 Files selected: 0
 Keyword Phrase:

 Backup of Files and Directories

 s) Select Files and Directories...
 e) Edit/View Selected Files...
 i) Initiate Backup
 p) Change Path...
 d) Change Date Range...
 m) Change Master Server...
 k) Change Keyword Phrase...
 x) Change Display Mode to Verbose
 h) Help
 q) Quit Menu

 ENTER CHOICE: [

```

|            |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Path       | [s (Select Files and Directories)] オプションを使用して検索を開始する場所です。現在のディレクトリを変更するには、このメニューの [p (Change Path)] オプションを使用します。                                                                                                                                 |
| Start Date | [Start Date] と [End Date] (下を参照) には、検索対象の日付範囲の開始日と終了日が表示されます。[Start Date] は、検索に含まれる最も古いファイル更新日時です。[Start Date] の値は、このメニューの [d (Change Date Range)] オプションを使用して変更できます。メニュー インタフェースの起動時には、バックアップとアーカイブの [Start Date] の値が 01/01/70 00:00:00 に設定されます。 |

|                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| End Date                              | [Start Date] (上を参照) と [End Date] には、検索対象の日付範囲の開始日と終了日が表示されます。[End Date] は、検索に含まれる最新のファイル更新日時です。[End Date] の値は、このメニューの [d (Change Date Range)] オプションを使用して変更できます。メニュー インタフェースの起動時には、バックアップとアーカイブの [End Date] の値が現在の日付の 23:59:59 に設定されます。                                                                                                                                                                                                              |
| Master Server                         | NetBackup の操作要求の送信先とするマスタ サーバです。別のマスタ サーバを指定するには、[m (Change Master Server)] オプションを使用します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| Display Mode                          | 表示モードとして、Verbose (詳細) または Brief (簡略) が表示されます。詳細については、「x (Change Display Mode to Verbose) (132 ページ) を参照してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| Files Selected                        | バックアップのために現在選択されているファイル数。この数は、[s (Select Files and Directories)] オプションまたは [e (Edit/View Selected Files)] オプションでファイルを選択または選択解除するたびに変わります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| k (Change Keyword Phrase)             | バックアップを表すキーワード フレーズが表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| s (Select Files and Directories)      | 指定されたパスのファイルとディレクトリの一覧を表示します。この一覧からバックアップするファイルとディレクトリを選択します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| E (Edit/View Selected Files...) オプション | バックアップのために以前に選択されたファイルとディレクトリの一覧を表示します。一覧の選択項目は追加または削除できます。詳細については、「編集 / 表示画面」(144 ページ) を参照してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| i (Initiate Backup)                   | バックアップ操作を開始します。このオプションを選択すると、ホーム ディレクトリにログ ファイルを作成するためのプロンプトが表示されます。ログ ファイルには、操作の進行に伴ってログが記録されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| p (Change Path)                       | 検索を開始するディレクトリを変更できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| d (Change Date Range)                 | <p>メニューの上部に表示される [Start Date] と [End Date] の値を変更できます。この 2 つの日付によって指定される範囲から、バックアップするファイルの更新日が検索されます。「D」と入力すると、新しい開始日と終了日を入力するためのプロンプトが表示されます。</p> <p>日時を入力する際の規則は以下の通りです。</p> <p>日付の形式は、月 / 日 / 年です。たとえば、01/23/93 になります。</p> <p>時刻の形式は、時 : 分 : 秒です。24 時間制で表されます。たとえば、深夜 12 時は 00:00:00、正午は 12:00:00、午後 11 時 30 分は 23:30:00 になります。</p> <p>日付を変更しない場合は、プロンプトに対して Return キーを押します。</p> <p>日付または時刻の一部だけを変更して Return キーを押すと、残りは NetBackup によって入力されます。</p> |

## メニュー インタフェース (bp)

- |                                    |                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| m (Change Master Server)           | バックアップ要求とリストア要求の送信先とするマスタ サーバを変更できます。無効なサーバを指定した場合、またはクライアントがそのサーバでユーザ指定されているバックアップ クラスに属していない場合は、エラー メッセージが表示されます。ここで指定したマスタ サーバが、クライアントに対して設定されたメニュー インタフェース起動時のデフォルトになります。 |
| x (Change Display Mode to Verbose) | 検索画面にファイル名だけを表示するか、ファイルのアクセス権などの詳細も表示するかを指定できます。表示モードを <b>[Verbose]</b> にすると、ファイルの詳細が表示されます。 <b>[Brief]</b> にすると、ファイル名だけが表示されます。                                              |
| h (Help)                           | <b>[Backup of Files and Directories]</b> メニューのヘルプ情報。各セカンダリ メニューにも <b>[Help]</b> オプションがあります。                                                                                   |
| q (Quit Menu)                      | <b>[Backup of Files and Directories]</b> メニューを閉じて、 <b>[Main menu]</b> に戻ります。                                                                                                  |

### [Archive of Files and Directories] メニュー

**[Archive of Files and Directories]** メニューには、アーカイブ操作のためのオプションが含まれています。アーカイブとバックアップの操作は似ていますが、アーカイブではバックアップ後のファイルが削除され、ディスク領域が解放される点が異なります。

```

windows
 Path: /opt/opensv32/netbackup/bin/
 Start Date: 01/01/70 00:00:00
 End Date: 12/02/98 23:59:59
 Master Server: pear
 Display Mode: Brief
 Files selected: 0
 Keyword Phrase:

 Archive of Files and Directories

 s) Select Files and Directories...
 e) Edit/View Selected Files...
 i) Initiate Archive
 p) Change Path...
 d) Change Date Range...
 m) Change Master Server...
 k) Change Keyword Phrase...
 x) Change Display Mode to Verbose
 h) Help
 q) Quit Menu

 ENTER CHOICE:

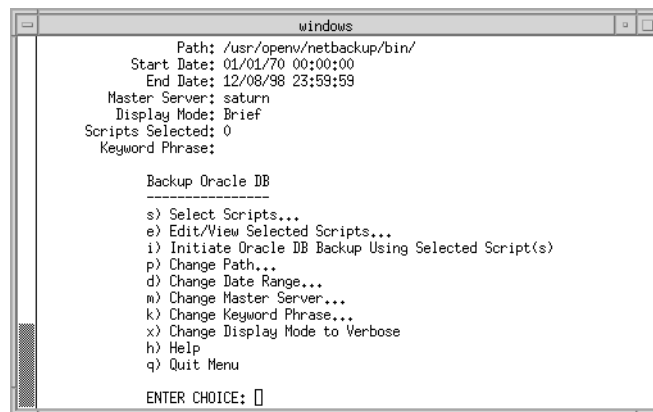
```

メニューの上部の情報とメニュー項目は、 **[Backup of Files and Directories]** メニューと同じです。ただし、このメニューには、アーカイブ操作を開始するための **[i (Initiate Archive)]** がある点が異なります。



## データベースのバックアップ メニュー

データベースのバックアップ メニューには、データベースのタイプ別のバックアップ オプションがあります。次の図は、[Backup Oracle DB] メニューの例です。



```
windows
Path: /usr/opensw/netbackup/bin/
Start Date: 01/01/70 00:00:00
End Date: 12/08/98 23:59:59
Master Server: saturn
Display Mode: Brief
Scripts Selected: 0
Keyword Phrase:

Backup Oracle DB

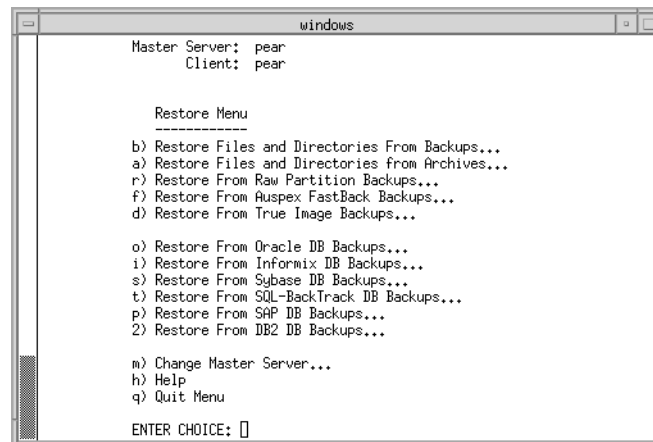
s) Select Scripts...
e) Edit/View Selected Scripts...
i) Initiate Oracle DB Backup Using Selected Script(s)
p) Change Path...
d) Change Date Range...
m) Change Master Server...
k) Change Keyword Phrase...
x) Change Display Mode to Verbose
h) Help
q) Quit Menu

ENTER CHOICE:
```

メニューの上部の情報とメニュー項目は、[Backup of Files and Directories] メニューと同じです。ただし、このメニューには、[i (Initiate Oracle DB Backup Using Selected Script(s))] オプションがある点が異なります。このオプションを選択すると、Oracle データベースをバックアップするために、[s (Select Scripts)] オプションと [e (Edit/View Selected Scripts)] オプションで選択したスクリプトが使用されます。バックアップを開始するメニュー項目を除いて、データベースのバックアップ メニューは同じです。

詳細については、データベースに対応する NetBackup のシステム管理者ガイドを参照してください。

## [Restore Menu]



```
windows
Master Server: pear
Client: pear

Restore Menu

b) Restore Files and Directories From Backups...
a) Restore Files and Directories from Archives...
r) Restore From Raw Partition Backups...
f) Restore From Auspex FastBack Backups...
d) Restore From True Image Backups...

o) Restore From Oracle DB Backups...
i) Restore From Informix DB Backups...
s) Restore From Sybase DB Backups...
t) Restore From SQL-BackTrack DB Backups...
p) Restore From SAP DB Backups...
2) Restore From DB2 DB Backups...

m) Change Master Server...
h) Help
q) Quit Menu

ENTER CHOICE:
```

## メニュー インタフェース (bp)

**注** BusinessServer では、[Restore From Auspex FasBack Backups]、[Restore From SQL-BackTrack DB Backups]、[Restore From SAP DB Backups]、および [Restore From DB2 DB Backups] の各メニュー項目はサポートされていません。

|                                                 |                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Master Server                                   | ブラウズするファイルのバックアップがあるマスタ サーバです。別のマスタサーバを指定するには、[m (Change Master Server)] オプションを使用します。                                                                                                                             |
| Client                                          | ブラウズしてリストアできる、ファイルをバックアップした元のクライアントです。                                                                                                                                                                            |
| b (Restore Files and Directories from Backups)  | [Restore Backups] メニューを開きます。                                                                                                                                                                                      |
| a (Restore Files and Directories from Archives) | [Restore Archives] メニューを開きます。                                                                                                                                                                                     |
| r (Restore From Raw Partitian Backups)          | [Restore Raw Partition Backups] メニューを開きます。                                                                                                                                                                        |
| f (Restore From Auspex FastBack Backups)        | [Restore Auspex FastBackup Raw Partition Backups] メニューを開きます。                                                                                                                                                      |
| d (Restore From True Image Backups)             | [Restore True Image Backups] メニューを開きます。                                                                                                                                                                           |
| データベースのリストアオプション                                | NetBackup には、bp と組み合わせて使用できるデータベース エクステンションが用意されており、これを使用して代表的なデータベースのバックアップおよびリストアを行うことができます。データベース エクステンション用の NetBackup は別売りの製品なので、個別にインストールする必要があります。詳細については、データベース エクステンション用の NetBackup のシステム管理者ガイドを参照してください。 |
| o (Restore Oracle DB)                           | [Restore Oracle DB] メニューを開きます。                                                                                                                                                                                    |
| i (Restore Informix DB)                         | [Restore Informix DB] メニューを開きます。                                                                                                                                                                                  |
| s (Restore Sybase DB)                           | [Restore Sybase DB] メニューを開きます。                                                                                                                                                                                    |
| t (Restore SQL-Backtrack DB)                    | [Restore DB using SQL-BackTrack] メニューを開きます。                                                                                                                                                                       |
| p (Restore SAP DB)                              | [Restore SAP DB] メニューを開きます。                                                                                                                                                                                       |

- 2 (Restore DB2 DB) [Restore DB2 DB] メニューを開きます。
- m (Change Master Server) バックアップ要求とリストア要求の送信先とするマスタ サーバを変更できません。無効なサーバを指定した場合、またはクライアントがそのサーバでユーザ指定されているバックアップ クラスに属していない場合は、エラーメッセージが表示されます。ここで指定したマスタ サーバが、クライアントに対して設定されたメニュー インタフェース起動時のデフォルトになります。
- h (Help) [Restore Menu] のヘルプ情報。各セカンダリ メニューにも [h (Help)] が表示されます。
- q (Quit Menu) [Restore Menu] を閉じて、[Main menu] に戻ります。

### [Restore Backups] メニュー

```

windows
Path: /opt/opensv32/netbackup/bin/

Start Date: 12/02/98 07:09:39 Master Server: pear
End Date: 12/02/98 23:59:59 Source Client: pear
Files Selected: 0 Destination Client: pear
Directory Depth: 1 level Class Type: Standard
Display Mode: Brief Keyword Phrase:

Restore Backups

s) Select Files and Directories... p) Change Path...
e) Edit/View Selected Files... d) Change Date Range...
i) Initiate Restore c) Change Directory Depth...
x) Change Display Mode to Verbose n) Change Master Server...
l) List Backup Images... b) Change Source Client...
a) Specify Alternate Path... t) Change Destination Client
q) Quit Menu y) Change Class Type
h) Help k) Change Keyword Phrase

ENTER CHOICE: []

```

- Path [s (Select Files and Directories)] を使用して検索を開始する場所です。現在のディレクトリを変更するには、このメニューの [p (Change Path)] オプションを使用します。
- Start Date [Start Date] と [End Date] (下を参照) には、リストアするファイルを検索する日付範囲の開始日と終了日が表示されます。[Start Date] は、検索に含まれるバックアップの最も古い日時です。開始日は、このメニューの [d (Change Date Range)] オプションを使用して変更できます。
- End Date [Start Date] (上を参照) と [End Date] には、リストアするファイルを検索する日付範囲の開始日と終了日が表示されます。[Start Date] は、検索に含まれるバックアップの最新の日時です。終了日は、このメニューの [d (Change Date Range)] オプションを使用して変更できます。
- Files Selected 現在選択されているファイル数。この数は、[s (Select Files and Directories)] オプションまたは [e (Edit/View Selected Files)] オプションでファイルを選択または選択解除するたびに変わります。

## メニュー インタフェース (bp)

|                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Directory Depth                  | 検索画面に表示されるディレクトリとファイルのレベル数を示します。レベル数は、[c (Change Directory Depth...) option] オプションを使用して変更できません。デフォルトは1です。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| Display Mode                     | 表示モードとして、 <b>Verbose</b> (詳細) または <b>Brief</b> (簡略) が表示されます。詳細については、「x (Change Display Mode to Verbose)」(132 ページ) を参照してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| Master Server                    | ブラウズするファイルのバックアップがあるマスタ サーバです。別のマスタサーバを指定するには、[m (Change Master Server)] オプションを使用します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| Source Client                    | ブラウズしてリストアできる、ファイルをバックアップした元のクライアントです。別のクライアントを選択するには、[b (Change Source Client)] オプションを使用します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| Destination Client               | 選択したファイルのリストア先とするクライアントです。このオプションは、ルートとしてログインしたときに表示されます。マスタ サーバの管理者だけが、このクライアント名を別のクライアント名に変更できます。クライアント名の変更方法については、[t (Change Destination Client)] オプションを参照してください。                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| Class Type                       | クライアント タイプ。DomainOS オペレーティング システムを使用するクライアントを除き、すべてのクライアントタイプは [Standard] です。DomainOS のクライアントタイプは、Apollo_wbak です。<br>クラスタイプの変更方法については、[y (Change Client Type)] オプションを参照してください。                                                                                                                                                                                                                                                                |
| k (Change Keyword Phrase)        | バックアップを表すキーワード フレーズを表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| s (Select Files and Directories) | バックアップをブラウズできる検索画面を表示します。この画面から、リストアするファイルとディレクトリを選択できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| e (Edit/View Selected Files)     | リストアのために以前に選択したファイルとディレクトリの一覧を表示します。一覧の選択項目は追加または削除できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| I (Initiate Backup)              | 操作を開始する [Initiate Restore] 画面を表示します。「I」と入力すると、以下を指定するためのプロンプトが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ NetBackup によってホーム ディレクトリにログ ファイルを作成し、このファイルに操作の進行に伴ってログを記録するかどうか。</li> <li>◆ リストアするファイルと同じ名前の既存のファイルを上書きするかどうか。</li> </ul> <p>[a (Specify Alternate Path)] オプションを選択している場合は、以下の操作を行うかどうかを確認するプロンプトが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 別のパスへのリストア</li> <li>◆ ハード リンクの名前の変更</li> <li>◆ ソフト リンクの名前の変更</li> </ul> |

|                                      |                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| x (Change Display Mode to Verbose)   | 検索画面にファイル名だけを表示 ( <i>Brief</i> モード) するか、ファイルのアクセス権などの詳細も表示 ( <i>Verbose</i> モード) するかを指定します。表示モードを [ <i>Verbose</i> ] にすると、ファイルの詳細が表示されます。 [ <i>Brief</i> ] にすると、ファイル名だけが表示されます。 |
| l (List Backup Images)               | クライアントのバックアップの中で、 [Directory to Search]、 [Range of Dates]、 [Directory Depth]、 [Filename filter]、 および [Keyword phrase to associate with this backup] の各条件に該当するものを表示します。          |
| a (Specify Alternate Path)           | バックアップされた元のディレクトリとは別のディレクトリにファイルをリストアできます。存在しないパスを指定すると、そのパスはファイルのリストア時に作成されます。DomainOS のクライアントでは、別のパスへのリストアはサポートされていません。                                                       |
| q (Quit Menu)                        | [Restore Backups] メニューを閉じて、 [Main menu] に戻ります。                                                                                                                                  |
| h (Help)                             | [Restore Backups] メニューのヘルプ情報。各セカンダリ メニューにも [h (Help)] オプションがあります。                                                                                                               |
| p (Change Path)                      | 検索を開始するディレクトリを変更できます。特定のファイルを検索するには、その完全なパス名をプロンプトに入力します。ワイルドカード文字のアスタリスク (*)、疑問符 (?)、および角かっこ ([ ]) を使用して複数のファイルとディレクトリを検索することもできます。                                            |
| d (Change Date Range)                | メニューの上部に表示される [Start Date] と [End Date] の値を変更できます。この 2 つの日付によって指定される範囲から、リストアするバックアップが検索されます。「D」と入力すると、新しい開始日と終了日を入力するためのプロンプトが表示されます。                                          |
| c (Change Directory Depth...) option | 検索画面に表示するディレクトリとファイルのレベル数を変更できます。新しい数値は、画面の上部の [Directory Depth] フィールドに表示されます。デフォルトのレベル数は 1 です。                                                                                 |
| m (Change Master Server)             | リストアするファイルのバックアップがあるマスタ サーバを指定できます。無効なサーバを指定した場合、またはクライアントがそのサーバでユーザ指定されているバックアップ クラスに属していない場合は、エラー メッセージが表示されます。ここで指定したマスタサーバが、クライアントに対して設定されたメニュー インタフェース起動時のデフォルトになります。      |
| b (Change Source Client)             | マスタサーバの管理者は、別のクライアントのファイルをブラウズしてリストアできます。管理者は、設定を変更して、この権限をほかのユーザに与えることもできます。ここで指定したクライアント名が、メニュー インタフェース起動時のデフォルトになります。通常は、現在操作を行っているクライアント名がデフォルトです。                          |
| t (Change Destination Client)        | マスタサーバの管理者は、別のクライアントにファイルをリストアできます。ここで指定したクライアント名が、メニュー インタフェース起動時のデフォルトになります。通常は、現在操作を行っているクライアント名がデフォルトです。                                                                    |

## メニュー インタフェース (bp)

y (Change Client Type) サーバの管理者は、リストア先として標準クライアントまたは Apollo\_wbak を指定できます。ここで指定するクラスタイプは、[Source Client] フィールドと [Destination Client] フィールドに指定されたクラスタイプと一致する必要があります。異なるクラスタイプのクライアントにファイルをリストアすることはできません。

注：BusinessServer では、Apollo-wbak、DataTools-SQL-BackTrack、Auspex-FastBackup、SAP、DB2、および FlashBackup の各クラスタイプはサポートされていません。

k (Change Keyword Phrase) 検索用のキーワード フレーズを入力できます。

## [Restore Archives] メニュー

[Restore Archives] メニューは、アーカイブされたファイルとディレクトリをリストアするという点を除き、[Restore Backups] メニューと同じです。

```

windows
Path: /opt/opens32/netbackup/bin/

Start Date: 01/01/70 00:00:00 Master Server: pear
End Date: 12/02/98 23:59:59 Source Client: pear
Files Selected: 0 Destination Client: pear
Directory Depth: 1 level Class Type: Standard
Display Mode: Brief Keyword Phrase:

Restore Archives

s) Select Files and Directories... p) Change Path...
e) Edit/View Selected Files... d) Change Date Range...
i) Initiate Restore c) Change Directory Depth...
x) Change Display Mode to Verbose m) Change Master Server...
l) List Archive Images... b) Change Source Client...
a) Specify Alternate Path... y) Change Class Type
q) Quit Menu k) Change Keyword Phrase
h) Help K) Change keyword phrase

ENTER CHOICE: []

```

## [Restore Raw Partition Backups] メニュー

次の図は、[Restore Raw Partition Backups] メニューです。このメニューのオプションを使用して、raw パーティションのバックアップを選択してリストアできます。各メニュー項目の説明については、「[Restore Backups] メニュー」(135 ページ)を参照してください。

```

windows
Path: /opt/opensv32/netbackup/bin/

Start Date: 12/02/98 07:09:39 Master Server: pear
End Date: 12/02/98 23:59:59 Source Client: pear
Files Selected: 0 Destination Client: pear
Directory Depth: 1 level Class Type: Standard
Display Mode: Brief Keyword Phrase:

Restore Raw Partition Backups

s) Select Files and Directories... p) Change Path...
e) Edit/View Selected Files... d) Change Date Range...
i) Initiate Restore c) Change Directory Depth...
x) Change Display Mode to Verbose m) Change Master Server...
l) List Backup Images... b) Change Source Client...
a) Specify Alternate Path... t) Change Destination Client
q) Quit Menu k) Change Keyword Phrase
h) Help

ENTER CHOICE: []

```

## [Restore Aupsex FastBackup Raw Partition Backups] メニュー

**注** Aupsex FastBackup は、BusinessServer ではサポートされていません。

次の図は、[Restore Aupsex FastBackup Raw Partition Backups] メニューです。このメニューのオプションを使用して、Aupsex FastBackup クライアントから raw パーティションのバックアップを選択してリストアできます。各メニュー項目の説明については、「[Restore Backups] メニュー」(135 ページ)を参照してください。

```

windows
Path: /opt/opensv32/netbackup/bin/

Start Date: 12/02/98 07:09:39 Master Server: pear
End Date: 12/02/98 23:59:59 Source Client: pear
Files Selected: 0 Destination Client: pear
Directory Depth: 1 level Class Type: Aupsex-FastBackup
Display Mode: Brief Keyword Phrase:

Restore Aupsex FastBackup Raw Partition Backups

s) Select Files and Directories... p) Change Path...
e) Edit/View Selected Files... d) Change Date Range...
i) Initiate Restore c) Change Directory Depth...
x) Change Display Mode to Verbose m) Change Master Server...
l) List Backup Images... b) Change Source Client...
a) Specify Alternate Path... t) Change Destination Client
q) Quit Menu k) Change Keyword Phrase
h) Help

ENTER CHOICE: []

```

## メニュー インタフェース (bp)

**[Restore True Image Backups] メニュー**

**注** NetBackupでは、DomainOSクライアントでのトゥルー イメージのリストアはサポートされていません。

次の図は、[Restore True Image Backups] メニューです。このメニューのオプションを使用して、トゥルー イメージのバックアップを選択してリストアできます。各メニュー項目の説明については、「[Restore Backups] メニュー」(135 ページ)を参照してください。

```

windows
Path: /opt/openv32/netbackup/bin/
Start Date: 12/02/98 07:09:39 Master Server: pear
End Date: 12/02/98 23:59:59 Source Client: pear
Files Selected: 0 Destination Client: pear
Directory Depth: 1 level Class Type: Standard
Display Mode: Brief Keyword Phrase:

Restore True Image Backups

s) Select Files and Directories... p) Change Path...
e) View/Delete Selected Files... d) Change Date Range...
i) Initiate Restore c) Change Directory Depth...
x) Change Display Mode to Verbose m) Change Master Server...
l) List TIR Backup Images... b) Change Source Client...
a) Specify Alternate Path... t) Change Destination Client
q) Quit Menu k) Change Keyword Phrase
h) Help

ENTER CHOICE: []

```

**データベースのリストア メニュー**

データベースの **Restore Menu** には、データベースのタイプ別にバックアップをリストアするためのオプションがあります。次の図は、[Backup Oracle DB] メニューの例です。

```

windows
Path: /usr/openv/netbackup/bin/
Start Date: 01/01/70 00:00:00
End Date: 12/08/98 23:59:59
Master Server: saturn
Display Mode: Brief
Scripts Selected: 0
Keyword Phrase:

Restore Oracle DB

s) Select Scripts...
e) Edit/View Selected Scripts...
i) Initiate Oracle DB Restore Using Selected Script(s)
p) Change Path...
d) Change Date Range...
m) Change Master Server...
k) Change Keyword Phrase...
x) Change Display Mode to Verbose
h) Help
q) Quit Menu

ENTER CHOICE: []

```

メニューの上部の情報とメニュー項目は、[Restore Backups] メニューの対応する情報およびメニュー項目と同じです。ただし、このメニューには、アーカイブ操作を開始するための [i (Initiate Archive)] がある点が異なります。



[i (Initiate Oracle DB Backup Using Selected Script(s))] を選択すると、NetBackup は [s (Select Scripts)] オプションと [e (Edit/View Selected Scripts)] オプションで選択したスクリプトを使用して Oracle データベースをリストアします。リストアを開始するメニュー項目を除いて、データベースのリストア メニューは同じです。

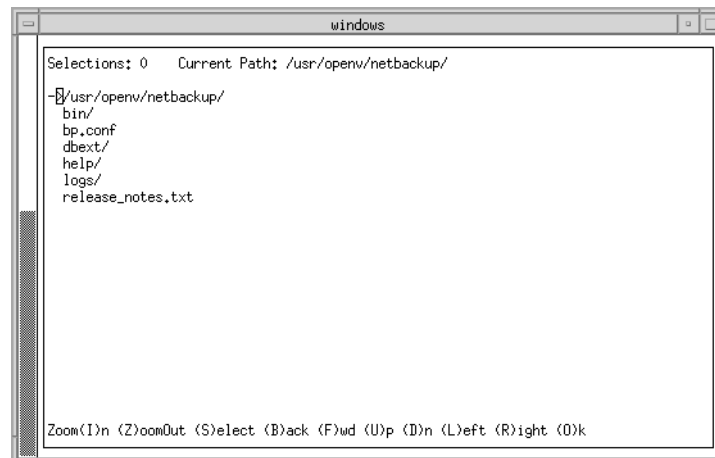
詳細については、データベースに対応する NetBackup の『システム管理者ガイド』を参照してください。

## 共通画面

以下に説明する画面の内容は、実行する操作（バックアップ、アーカイブ、またはリストア）に応じて異なります。

### バックアップまたはアーカイブの検索画面

バックアップまたはアーカイブ時に、バックアップ メニューまたはアーカイブ メニューから [s (Select Files and Directories)] を選択すると、検索画面が表示されます。この画面を使用して、バックアップまたはアーカイブするディレクトリとファイルを選択します。



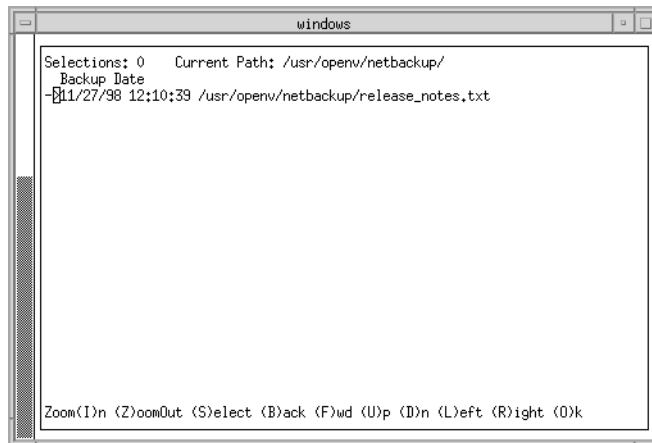
- |                     |                                                                                                                                                  |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Selections</b>   | 以前に選択したファイルまたはディレクトリの数。この数は、ファイルを選択または選択解除するたびに変わります。                                                                                            |
| <b>Current Path</b> | 現在のディレクトリ。現在表示されているファイルとディレクトリが存在するディレクトリであり、画面に現在表示できる最上位のディレクトリです。ディレクトリ ツリー内で、現在のディレクトリから上または下に移動するには、それぞれ [Zoom(I)n] または [(Z)oomOut] を使用します。 |
| <b>File List</b>    | ファイル リストには、現在のディレクトリ内にあるディレクトリとファイルが表示されます。画面の下部のオプションを使用すると、ディレクトリ ツリーをブラウズして項目を選択できます。詳細については、「検索画面のオプション」(143 ページ) を参照してください。                 |

## メニュー インタフェース (bp)

Q このオプションは画面に表示されません。変更を行わずにメニューを終了するには、「Q」と入力します。

### リストアの検索画面

リストア時に、[s (Select Files and Directories)] オプションを選択し、NetBackup によるファイルとディレクトリの検索が完了すると、検索画面が表示されます。この画面を使用して、リストアするディレクトリとファイルを選択します。



検索画面の最初の行に表示される情報は、バックアップまたはアーカイブの検索画面と同じです。ファイル リストには、バックアップ時またはアーカイブ時の現在のディレクトリにあった内容が表示されます。

- ◆ アーカイブをリストアする場合、ファイル リストにはユーザ指定のアーカイブのファイルとディレクトリが表示されます。
- ◆ バックアップをリストアする場合、ファイル リストにはユーザ指定のバックアップと管理者のスケジュールされたバックアップのファイルとディレクトリが表示されます。
- ◆ ツールイメージをリストアする場合、ファイル リストにはスケジュールされたフルバックアップとインクリメンタルバックアップのディレクトリだけが表示されます。ファイルは表示されません。ユーザ指定のバックアップまたはアーカイブの結果も表示されません。

「Q」と入力すると、変更は行われずに画面が終了します。ただし、このオプションは画面には表示されません。

## 検索画面のオプション

検索画面の下部のオプションを使用すると、ディレクトリ ツリーをブラウズして項目を選択できます。通常、バックアップの検索は、バックアップ時またはアーカイブ時のファイルシステムの検索よりも時間がかかります。

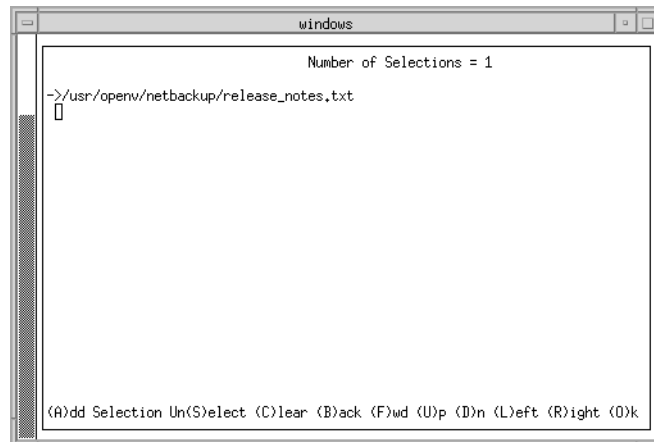
オプションを実行するには、かっこ内の文字を入力します。たとえば、「Z」と入力すると、現在のディレクトリの親に移動します。「Q」と入力すると、変更は行われずに画面が終了します。ただし、このオプションは画面には表示されません。入力する文字は大文字でも小文字でもかまいません。

|                   |                                                                                  |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Z</b> oomIn    | ディレクトリ ツリーで1つ下のレベルのディレクトリに移動し、矢印が現在指しているディレクトリ内のファイルとディレクトリを表示します。               |
| <b>(Z)</b> oomOut | ディレクトリ ツリーで1つ上のレベルのディレクトリに移動し、現在のディレクトリの親にあるファイルとディレクトリを表示します。                   |
| <b>(S)</b> elect  | 現在のポインタ位置にあるディレクトリまたはファイルを選択し、その項目の左側にアスタリスク (*) を追加します。「S」を再度入力すると、項目は選択解除されます。 |
| <b>(B)</b> ack    | 前の画面の情報を表示します。                                                                   |
| <b>(F)</b> wd     | 次の画面の情報を表示します。                                                                   |
| <b>(U)</b> p      | 一覧の1つ上の項目にポインタを移動します。                                                            |
| <b>(D)</b> n      | 一覧の1つ下の項目にポインタを移動します。                                                            |
| <b>(L)</b> eft    | 画面の幅を超える行を表示するために右に移動したディスプレイを左に戻します。                                            |
| <b>(R)</b> ight   | 画面の幅を超える行を表示するためにディスプレイを右に移動します。                                                 |
| <b>(O)</b> k      | 現在の選択内容を保持したまま、前のメニューに戻ります。                                                      |

## メニュー インタフェース (bp)

### 編集 / 表示画面

バックアップ、アーカイブ、またはリストアのメニューから [e (Edit/View Selected Files)] オプションを選択すると、編集 / 表示画面が表示されます。ただし、トゥルー イメージを操作する場合を除きます。この画面には、実行する操作（バックアップ、アーカイブ、またはリストア）に応じて選択したディレクトリとファイルが表示されます。



**注** トゥルー イメージのバックアップとリストアの場合、この画面に対応するのは表示 / 削除画面です。トゥルー イメージの画面では、選択項目の削除はできますが、追加はできません。

画面の最初の行には、選択項目の総数が表示されます。この数は、ファイルを選択または選択解除するたびに変わります。

画面の下部のオプションを使用すると、選択内容を変更できます。オプションを選択するには、かっこ内の文字を入力します。入力する文字は大文字でも小文字でもかまいません。たとえば、「B」と入力すると、前の画面が表示されます。「Q」と入力すると、変更は行われずに画面が終了します。ただし、このオプションは画面には表示されません。

- (A)dd Selection このオプションは、ツール イメージのリストア用の表示 / 削除画面には表示されません。このオプションを使用すると、一覧に選択項目を追加できます。このオプションを選択すると、追加するファイルまたはディレクトリのパス名を入力するためのダイアログ ボックスが表示されます。Return キーを押すと、新しい選択項目が一覧に追加されます。
- リストア用の選択項目を追加すると、bp では、[Start Date] と [End Date] の現在の値に基づく日付の範囲を使用してファイルが検索されます。これにより、バックアップの検索機能が向上します。たとえば、追加するファイルが既存のファイルに対して指定された日付の範囲外にあるとします。この場合、編集 / 表示画面を閉じてリストア画面で日付の範囲を変更した後で、編集 / 表示画面に戻り、そのファイルを追加することができます。
- ワイルドカード文字のアスタリスク (\*)、疑問符 (?)、および角かっこ ([]) を使用して複数のファイルおよびディレクトリを指定することもできます。
- Un(S)elect 矢印が現在指しているディレクトリまたはファイルを選択解除し、それを一覧から削除します。
- (C)lear 前のすべての選択項目を選択解除します。
- (B)ack 前の画面の情報を表示します。
- (F)wd 次の画面の情報を表示します。
- (U)p 一覧の 1 つ上の項目にポインタを移動します。
- (D)n 一覧の 1 つ下の項目にポインタを移動します。
- (L)eft 画面の幅を超える行を表示するために右に移動したディスプレイを左に戻します。
- (R)ight 画面の幅を超える行を表示するためにディスプレイを右に移動します。
- (O)k 現在の選択内容を保持したまま、前のメニューに戻ります。

### 表示 / 削除画面

表示 / 削除画面は、[Restore True Image Backups] メニューの [e (View/Delete Selected Files)] を選択すると表示されます。この画面には、ツール イメージのリストアのために選択したディレクトリが表示されます。

メニュー インタフェース (bp)

---

## システム管理者

## A

ここでは、NetBackup の管理者のために jbp インタフェースに関する追加情報を提供します。

## 別のクライアントへのリストア

---

### 別のクライアントへのリストア

別のクライアントへのリストアは、ユーザによって行われる場合とシステム管理者によって行われる場合の2通りがあります。

#### ユーザ指定

ユーザは、別のクライアントによってバックアップされたファイルを各自のクライアントにリストアできます。そのためには、**NetBackup** のマスタサーバをクライアントからリストアできるように設定し、ユーザに対応するアクセス権を与える必要があります。

#### サーバ指定

**NetBackup** サーバの管理者は、ファイルをバックアップした任意のクライアントにリストアできます。管理者は、別のクライアントへのリストアを行うこともできます。つまり、特定の**NetBackup** クライアントからバックアップしたファイルを同じタイプに属する別の**NetBackup** クライアントにリストアすることができます。サーバ指定のリストアは、ユーザ自身がファイルをリストアするためのアクセス権を持っていない場合などに役立ちます。

ファイルまたは raw パーティションは、それをバックアップしたのと同じタイプに属する任意のクライアントにリストアできます。サーバ指定のリストアは、**NetBackup for Oracle** などのデータベースエクステンション製品を通じて行うことはできません。

#### ▼ 別のクライアントへのリストアを行うには

クライアント に対するサーバ指定のリストアを行うための一般的な手順は、以下の通りです。

1. ファイルをバックアップした **UNIX** マスタサーバにルートとしてログインします。
2. **NetBackup-Java** の [バックアップ、アーカイブ、およびリストア] プログラムを起動します。



## 別のクライアントへのリストア

現在ログインしている UNIX マスタ サーバの名前が、[NetBackup サーバ] テキストボックスに表示されます。



3. 以下の項目を指定します。

◆ [NetBackup サーバ]

ファイルをバックアップした NetBackup マスタ サーバの名前を指定します。指定したシステムのイメージ カタログへのアクセス権が与えられ、目的のバックアップをブラウズできるようになります。

◆ [ソース クライアント]

ファイルをバックアップした元のクライアントの名前を指定します。指定したクライアントからバックアップされたファイルのブラウズとリストアが可能になります。

◆ [クライアントのタイプ]

ブラウズするイメージのクラス タイプを指定します。ここで指定するクラス タイプは、リストア先のクライアント ([デスティネーションクライアント]) のタイプと一致する必要があります。

## 別のクライアントへのリストア

**注** ソースクライアントとデスティネーションクライアントは、常に同じタイプでなければなりません。

ほかのクライアントに対するクラス設定については、以下の表を参照してください。

表 3. クライアントのクラス設定

| クライアント                      | クラス           |
|-----------------------------|---------------|
| UNIX                        | 標準            |
| Macintosh                   | 標準            |
| Microsoft Windows 98 または 95 | 標準            |
| Microsoft Windows NT/2000   | MS-Windows-NT |
| NetWare Target              | 標準            |
| NetWare Non-Target          | NetWare       |
| IBM OS/2 Warp               | OS/2          |

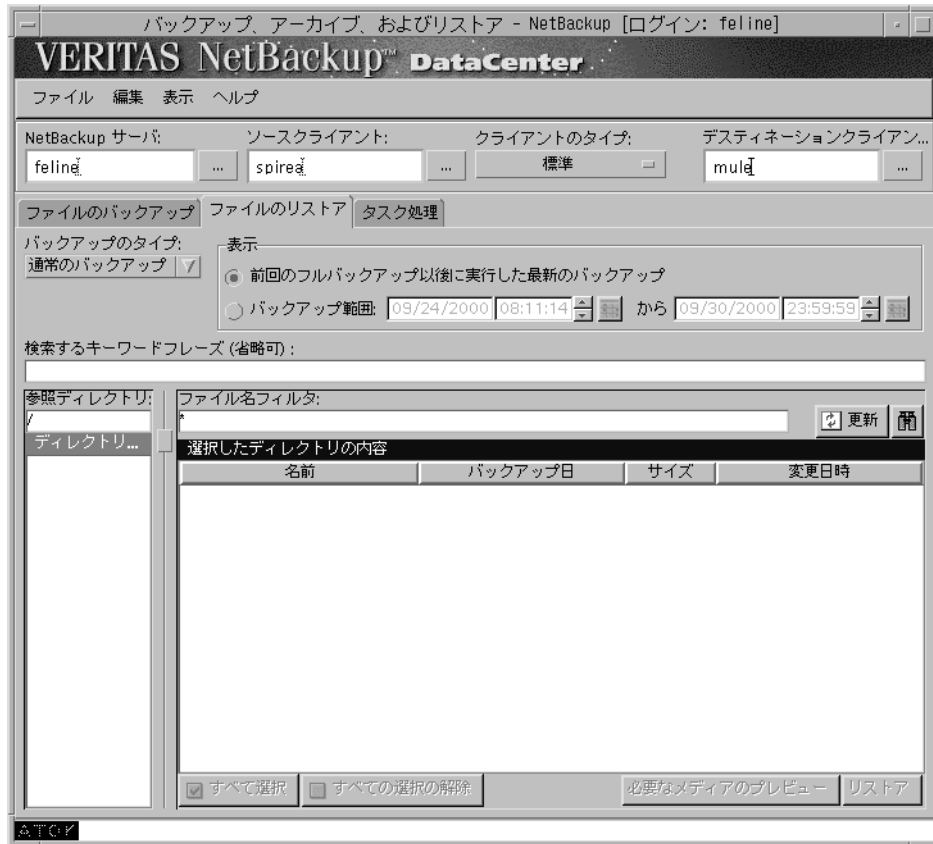
◆ [ デスティネーションクライアント ]

[ デスティネーションクライアント ] ボックス内の名前をファイルのリストア先のクライアント名に変更します。

**注** [ デスティネーションクライアント ] フィールドを使用できるのは、ユーザがルートまたはルート以外の管理者としてログインしていて、jbp の接続先のマシンがサーバである場合だけです。jbp では、この条件を確認するために、サーバの一覧を使用して jbp の接続先のマシンの名前を照合します。

## 別のクライアントへのリストア

次の画面は、spirea (ソースクライアント) から eagle (NetBackup サーバ) にバックアップしたファイルを mule (リストア先のクライアント) にリストアする例を示しています。クライアントは両方とも標準です。



4. [更新] をクリックしてリストア可能なバックアップの一覧を更新します。
5. リストアするファイルまたはディレクトリを選択します。

別のクライアントへのリストア

- [リストア]をクリックします。  
[ファイルのリストア]ダイアログ ボックスが表示されます。



- [ファイルのリストア]ダイアログ ボックスで必要なオプションを選択し、[リストアの開始]をクリックします。

**注** リストア先を変更する場合は、表 4 で指定する形式に従って [ソース] ボックスと [デスティネーション] ボックスにパスを入力します。Windows NT/2000 クライアントにリストアする場合は、UNIX の規約に従います。

表 4. リストアのパスの形式

| クライアント                                  | パスの形式                    | 例                                            |
|-----------------------------------------|--------------------------|----------------------------------------------|
| UNIX                                    | /directory/              | /usr/opensv/netbackup/                       |
| Macintosh                               | folder/folder/           | NetBackup Admin/Configuration Files<br>Dist/ |
| Microsoft Windows<br>NetWare Non-Target | /drive/directory/        | /C/VERITAS/NetBackup/                        |
| NetWare Target                          | /target/volume/data_path | /MARGE/SYS/veritas/netbackup/                |
| IBM OS/2                                | ドライブ名 ¥ ディレクトリ名          | c:¥veritas¥netbackup                         |

## サーバ指定のリストアの無効化

サーバ指定のリストアを無効にするには、以下の表に従ってクライアントの設定を追加または削除します。

| クライアント タイプ                          | 設定の場所                                                                                       | サーバ指定のリストアを無効にするには                            |
|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| Microsoft Windows NT/2000、98、または 95 | クライアントの [NetBackup 設定] ダイアログ ボックスの [一般] タブ。このダイアログ ボックスを表示するには、[アクション] メニューの [設定] をクリックします。 | [Allow server directed restores] ボックスをクリアします。 |
| UNIX                                | /usr/opensv/netbackup/bin/bp.conf                                                           | DISALLOW_SERVER_FILE_WRITES を追加します。           |
| Macintosh                           | NetBackup Admin/Configuration Files Dist/                                                   | DISALLOW_SERVER_FILE_WRITES を追加します。           |
| NetWare (Target および Non-Target)     | クライアントの [NetBackup 設定] ダイアログ ボックスの [一般] タブ。このダイアログ ボックスを表示するには、[アクション] メニューの [設定] をクリックします。 | [Allow server directed restores] ボックスをクリアします。 |
| IBM OS/2                            | c:\veritas\netbackup\bp.ini                                                                 | Allow_Server_Write を削除します。                    |

## AFS のバックアップのリストア

### AFS のバックアップのリストア

**注** AFS は、BusinessServer ではサポートされていません。

ここでは、AFS クライアントからバックアップをリストアする際のインタフェースの相違点について説明します。

すべてのリストア操作は、AFS クライアントの NetBackup から行う場合でもマスタサーバから行う場合でも管理者が担当します。管理者は、マスタサーバの NetBackup クライアント インタフェースを使用して、同じ AFS クライアントまたは別の AFS クライアントの NetBackup (AFS ファイルサーバ) にボリュームをリストアできます。

リストアは、ボリューム単位で行われます。バースパーティションをリストアする場合、管理者はそのパーティション内のすべてのボリュームを選択する必要があります。

#### ボリュームおよびバースパーティションのブラウズとマーキング

AFS のバックアップをブラウズする場合は、[参照ディレクトリ] フィールドを使用して特定のパスを入力することはできません。代わりに、表示するバースパーティションを [ディレクトリ構造] 表示区画で選択します。選択したバースパーティションの内容が、右側の表示区画に表示されます。

**注** [ディレクトリ構造] 表示区画には、フルパスは表示されません。たとえば、/AFS/eagle/vicepa/user.abc とは表示されずに、/vicepa/user.abc と表示されます。

#### 別のボリュームおよびバースパーティションへのリストア

jbp インタフェースには、ボリュームまたはバースパーティションに別の名前を指定できる便利な機能があります。別のボリューム名を指定すると、リストアによって既存のボリュームが上書きされるのを防止できます。

- ◆ [上書き保存] または別のボリューム名を指定しない場合は、以下のように、リストアされたボリュームの名前に「R」が追加されます。

- ◆ ボリューム名が 22 文字未満である場合は、リストアされたボリュームの名前の先頭に「R」が追加されます。次に例を示します。

ボリューム名 : /vicepa/user.abc

リストア後の名前 : /vicepa/Ruser.abc

- ◆ ボリューム名が 22 文字 (ボリューム名の最大許容長) である場合は、以下の例に示すように、元のボリューム名の最初の文字が R に置き換えられます。

ボリューム名 : /vicepa/engineering.documents1

リストア後の名前 : /vicepa/Rengineering.documents1

## AFS のバックアップのリストア

- ◆ リストア先として別のパスを使用し、既存のボリュームを指定する場合は、[ 上書き保存 ] を選択します。この場合は、ボリューム全体が上書きされます。[ 上書き保存 ] オプションを選択しないと、リストアは失敗します。
- ◆ ボリュームを別のバイス パーティションにリストアする場合は、そのバイス パーティションが存在していなければなりません。バイス パーティションが存在しない場合、リストアは失敗します。

## raw パーティションのリストア

---

### raw パーティションのリストア

raw パーティションのリストアでは、UNIX のディスクドライブのパーティションのビットごとのバックアップ（Windows NT/2000 ではディスク イメージのバックアップと呼ばれる）がリストアされます。raw パーティションをリストアするには、マスタ サーバまたは UNIX クライアントで管理者の権限を持っている必要があります。FlashBackup の raw パーティションのリストア方法については、『NetBackup FlashBackup System Administrator's Guide』を参照してください。Auspex FastBackup の raw パーティションのリストア方法については、『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』を参照してください。

---

**注** FlashBackup および Auspex FastBackup は、BusinesServer ではサポートされていません。

---

#### raw パーティションに関する留意事項

- ◆ パーティションがマウントされていないこと、および使用中でないことを確認します。パーティションを使用中のデータベースがある場合は、そのデータベースを必ず終了してください。パーティションは、バックアップされた時点と同じサイズでなければなりません。サイズが異なると、リストアの結果は予測できません。
- ◆ リストア前に raw パーティションのデバイス ファイルが存在することを確認します。
- ◆ raw パーティションのリストアでは、上書きオプションが無視されます。ただし、Windows NT/2000 のディスク イメージのリストアを除きます。raw パーティションのリストアにはデバイス ファイルが必要であり、上書きオプションが設定されているかどうかに関係なく、ディスク パーティションは上書きされます。
- ◆ Windows NT/2000 のディスク イメージをリストアするには、[ファイルのリストア] ダイアログ ボックスの [上書き保存] オプションが選択されている必要があります。
- ◆ ファイルシステムとして使用されているディスク パーティションの raw パーティション バックアップを行った場合は、単一のファイルをリストアする場合でもパーティション全体をリストアする必要があります。パーティション全体が上書きされないようにするには、別のパスへのリストア機能を使用して raw パーティションを同じサイズの別の raw パーティションにリストアします。その後、各ファイルを元のファイルシステムにコピーします。

#### ▼ raw パーティション全体をリストアするには

---

**注** raw パーティション全体をリストアできるのは、フル バックアップからだけです。NetBackup では、raw パーティションの標準バックアップを行う場合に、フルバックアップとインクリメンタルバックアップが区別されません。

---



## raw パーティションのリストア

1. [ファイルのリストア] タブをクリックします。
2. 使用している [クライアントのタイプ] を選択します。大半のクライアントは「標準」タイプです。
3. [バックアップのタイプ] ドロップダウン リストで、[raw パーティション] を選択します。
4. [参照ディレクトリ] フィールドに、デバイス ファイルへのディレクトリ パスを指定します。たとえば、「/dev/rdisk/」と指定します。
5. [更新] をクリックしてリストア可能な raw パーティションのバックアップの一覧を更新します。



6. 右側の表示区画で、デバイス ファイルを選択します。
7. [リストア] をクリックします。

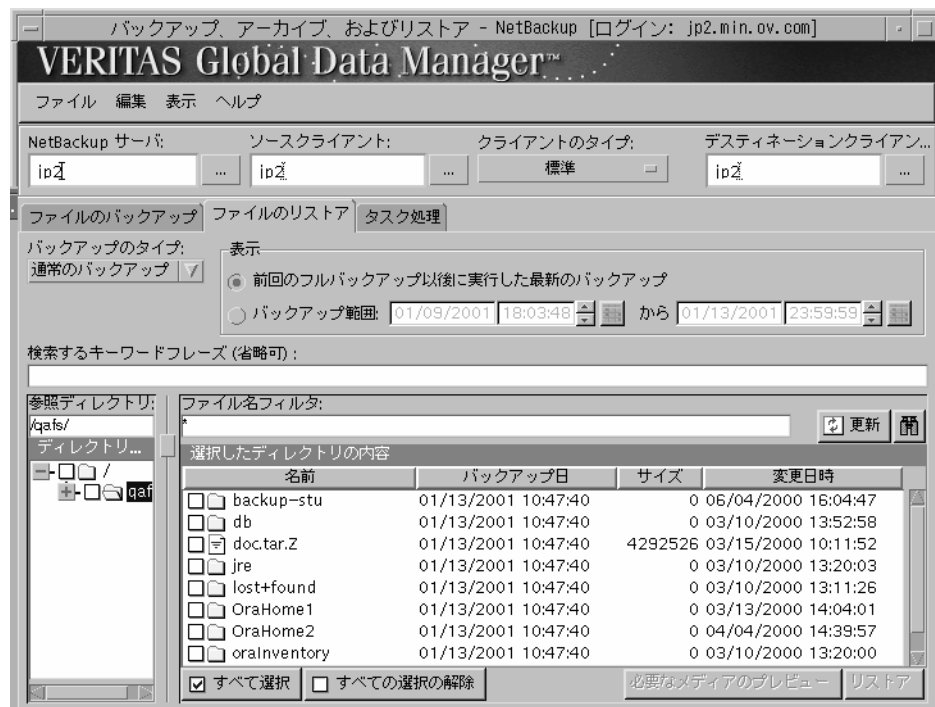
## ▼ ディレクトリ別またはファイル別にリストアするには

**注** raw パーティション バックアップから個別のディレクトリまたはファイルをリストアするには、クライアントが **FlashBackup** または **Auspex-FastBackup** のクラスに属している必要があります。また、raw パーティション バックアップから個別のファイルをリストアできるようにサーバを設定する必要があります。

1. [ファイルのリストア] タブをクリックします。
2. [ソース] ドロップダウン リストで、[バックアップ] を選択します。

## raw パーティションのリストア

3. [参照ディレクトリ] フィールドに、リストアするファイルまたはフォルダのバックアップへのパスを指定します。
4. [更新] をクリックしてリストア可能なバックアップの一覧を更新します。



5. 右側の表示区画で、目的のファイルまたはフォルダを選択します。
6. [リストア] をクリックします。

## ▼ Windows NT/2000 のディスク イメージバックアップをリストアするには

1. [ファイルのリストア] タブをクリックします。
2. 使用している [クライアントのタイプ] を選択します。大半のクライアントは「標準」タイプです。
3. [更新] をクリックしてリストア可能なバックアップの一覧を更新します。
4. 右側の表示区画で、ディスク イメージを選択します。たとえば、¥¥.¥c: を選択します。
5. [リストア] をクリックします。
6. [ファイルのリストア] ダイアログ ボックスで、[上書き保存] を必ず選択します。

## 必要なメディアのプレビュー

[必要なメディアのプレビュー]を使用すると、選択されたファイルおよびディレクトリをバックアップまたはアーカイブするのに使用されたメディアIDの一覧を表示できます。この機能は、クライアントが NetBackup サーバでもある場合と、ユーザが管理者の権限を持っている場合だけに使用できます。

1. [ファイルのリストア]タブをクリックします。
2. リストアするファイルとフォルダを選択します。
3. [必要なメディアのプレビュー]をクリックします。
4. [リストア]をクリックしてリストア操作を開始します。

## 必要なメディアのプレビュー

---

## 用語集

---

### ACS

Automated Cartridge System (自動カートリッジシステム) の略。このロボットタイプは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

### AIT

Sony Advanced Intelligent Tape の略。テープドライブまたはメディアのタイプ。

### bp

NetBackup UNIX クライアント上でユーザが使用するバックアップ、アーカイブ、およびリストアユーティリティ。このユーティリティは、キャラクタベースのメニューインタフェースが備わっており、X Windows 端末ではない端末から実行することができます。

### bp.conf ファイル

UNIX サーバ、および UNIX、Macintosh、OS/2 のクライアントにある NetBackup 設定ファイル。

### bp.ini ファイル

Novell NetWar ターゲットクライアント用の NetBackup 初期設定ファイル。

### bpadm

NetBackup UNIX サーバ上で実行するシステム管理者用ユーティリティ。このユーティリティは、キャラクタベースのメニューインタフェースが備わっており、X Windows 端末ではない端末から実行することができます。

### bpccd

Windows NT 上の NetBackup Client Service、および UNIX 上の NetBackup Client デーモン。

### bprd

Windows NT 上の NetBackup Request Manager Service、および UNIX 上の NetBackup Request デーモン。

## CDF

Context-dependent file の略。Hewlett-Packard システムにおけるディレクトリ構造のタイプ。

## cpio

ディスクやテープ上の `cpio` アーカイブに、またはそこから、ファイルをコピーするための UNIX コマンド。

## ctime

UNIX i ノードが変更された時間。

## DHCP

Dynamic Host Configuration Protocol (動的ホスト構成プロトコル) の略。この TCP/IP プロトコルは、ネットワークへの接続時に、ホストに一時的な IP アドレスを自動的に割り当てます。

## DLT

デジタル リニア テープ (Digital Linear Tape) のこと。テープドライブの種類の 1 つ。

## DNS (Domain Name Service)

ネットワーク通信のために、名前の変換を扱うプログラム。

## EVSN

External Volume Serial Number (外部ボリュームのシリアル番号) の略。メディア カートリッジ、またはキャニスタに書き込まれた識別子で、ボリュームをドライブやロボットに挿入する前に、演算子はそのボリュームを識別できるようにします。ラベルの付いたメディアの場合は、EVSN は RVSN (Recorded Volume Serial Number の略で、メディア上に記録された識別子) と同じでなければなりません。すべてのメディアで、EVSN の値はメディア ID と同じになります。

## FastBackup

Auspex クライアント上でのみ実行可能な、raw パーティションのバックアップの特殊なタイプ (このオプションは NetBackup DataCenter でのみ使用できます)。

## FlashBackup

別ライセンスのオプションである NetBackup FlashBackup でのみ実行可能な、raw パーティションのバックアップ (このオプションは NetBackup DataCenter でのみ使用できます)。

## FROZEN (メディアの状態)

ボリュームの状態が FROZEN (凍結状態) の場合、NetBackup ではそのメディアを永久保存するものとして扱います。このメディアからリストアすることはできますが、バックアップやアーカイブには使用できなくなります。

## FULL (メディアの状態)

レポートやリストにこの状態が表示された場合、ボリュームはいっぱい、これ以上データを保存したりバックアップすることができないことを示します。

## Global Data Manager

別ライセンスの製品 (UNIX サーバ用) で、管理者が複数のマスタサーバを監視したり管理することができる、ツリービューを持つインタフェースを提供します。このオプションがインストールされているサーバを「マスタ オブ マスタ」と呼びます。

## GNU tar

UNIX tar プログラムのパブリックドメインバージョン。

## goodies ディレクトリ

サポート対象外のプログラム、スクリプト、およびその他のファイルが格納されているディレクトリ。

## GUI

Graphical User Interface (グラフィカル ユーザ インタフェース) の略。

## HSM

「Storage Migrator」を参照。

## install\_path

NetBackup と Media Manager ソフトウェアがインストールされているディレクトリ。Windows NT の場合、デフォルトは C:\Program Files\VERITAS で、UNIX の場合は、デフォルトは /usr/openv です。

## i ノード

単一ファイルの存在を定義する UNIX のデータ構造。

## jbpSA

ユーザがバックアップ、アーカイブ、およびリストアを実行するために使用する Java ベースの NetBackup インタフェース。

## jnbSA

システム管理者が使用する Java ベースの NetBackup インタフェース。

## LMF (Library Management Facility : ライブラリ管理機能)

Media Manager で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダー タイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート製品リスト) で NetBackup BusinessServer または NetBackup DataCenter のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

このロボット タイプは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

## Media Manager

NetBackup のソフトウェアの 1 つで、ストレージ デバイスとリムーバブルメディアを管理します。

## Media Manager ホスト

Media Manager ソフトウェアがインストールされているホスト。

## MHD

「マルチホスト ドライブ」を参照。

## MPX

「多重化」を参照。

## mtime

UNIX ファイルまたは NTFS ファイルが修正された時間のポイント。

## NDMP

Network Data Management Protocol の略。NetBackup で NDMP を使用するには、NDMP 用 NetBackup の別ライセンスのオプションが必要です。

## NetBackup Client Service

クライアントとサーバ上で実行される NetBackup Windows NT のサービスで、ネットワーク内の NetBackup サーバとクライアントの接続を待機します。接続が確立すると、このサービスによって必要なプログラムが開始されます。

## NetBackup Database Manager Service

マスタ サーバ上で実行される NetBackup Windows NT/2000 のサービスで、カタログと呼ばれる NetBackup 内部データベースを管理します。NetBackup の管理操作中は、このサービスはマスタ サーバ上で実行されていなければなりません。



### NetBackup Device Manager Service

NetBackup サーバ上で実行される NetBackup Windows NT/2000 のサービスで、ロボティックコントロールの処理を開始し、ボリュームの予約と割り当てを制御します。このサービスは、サーバに Media Manager によって制御されているデバイスが存在する場合にのみ実行されます。このプロセスは、ltid です。

### NetBackup Request Manager Service

マスタサーバ上で実行される NetBackup Windows NT/2000 のサービスで、スケジューラを開始し、クライアントからリクエストを受信します。

### NetBackup Volume Manager Service

マスタサーバ上で実行される NetBackup Windows NT/2000 サービスで、Media Manager のリモート管理とボリューム情報の管理を行います。このプロセスは、vmd です。

### NetBackup 設定オプション

UNIX サーバや UNIX と Macintosh クライアントの場合は、NetBackup 設定オプションは bp.conf ファイル内で指定します。NetWare ターゲットや OS/2 クライアントの場合は、bp.ini ファイル内で指定します。Windows NT サーバと Microsoft Windows クライアントの場合、この設定はプロパティと呼ばれ、バックアップ、アーカイブおよびリストア インタフェースか、管理インタフェースの [設定 - NetBackup] ウィンドウで指定します。

### NetBackup データベース

「カタログ」を参照。

### NetBackup のプロパティ

NetBackup 設定オプションと同じですが、Microsoft Windows プラットフォーム上では NetBackup のプロパティと呼ばれます。

### NFS

Network File System の略。

### NIS

Network Information Service の略。

### NLM

NetWare Loadable Module の略。

### ODL

Optical Disk Library の略。このロボットタイプは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

## OSF と Motif

ユーザ インタフェースの設計のための仕様を集めたもの。

## pathname

目的のディレクトリやファイルへのパスを示すディレクトリのリスト。

## PC クライアント

Microsoft Windows (2000、NT、98、95)、Macintosh、または IBM OS/2 オペレーティングシステムが実行されている NetBackup クライアント。

## peername

別のシステムへの接続を確立する際に、コンピュータがそれ自体を識別する名前。

## QIC

Quarter-Inch-Cartridge (1/4 インチ カートリッジ) テープの略。

## raw パーティションのバックアップ

UNIX 上のディスクドライブの任意のパーティションをビット単位でバックアップすること。Windows NT/2000 の場合は、ディスク イメージバックアップと呼ばれます。

## rbak

Apollo クライアントが、リストアの実行中にテープからデータを読み込むために使用するプログラム。

## RS-232

シリアル通信や、場合によってはストレージユニット周辺機器との通信に使われる、業界標準のインタフェース。

## RSM - Removable Storage Manager

Media Manager で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダー タイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート製品リスト) で NetBackup BusinessServer または NetBackup DataCenter のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

また、ストレージデバイスを管理している Windows2000 オペレーティングシステムのコンポーネントでもあります。

## RSM インタフェース

Windows 2000 で RSM (Removable Storage Manager) の管理に使用されるアプリケーション。

## RVSN

Recorded Volume Serial Number の略。ボリューム上のラベルの一部として記録される識別子で、Media Manager は正しいボリュームがマウントされたかどうかを確認するために使用します。RVSN の値は、メディア ID と同じになります。

## SCSI

Small Computer System Interface の略。形式としてはパラレル インタフェースの一種で、ストレージ周辺機器との通信に頻繁に使用されます。

## Shared Storage Option (SSO)

「マルチホスト ドライブ」を参照。

## SMDR

Storage Management Data Requestor の略。ユーザに意識させずにすべての SMS モジュールに対してサービスを提供し、リモートやローカル モジュールの相互通信を可能にする Novell NetWare のプログラム。

## SMS

Novell NetWare のストレージ マネージメント サービス (Storage Management Service)。

## Storage Migrator

VERITAS Storage Migrator など、UNIX および Windows NT 用の階層型ストレージ管理製品。これらの製品は、ユーザに意識させずにデータを別のストレージ ユニットに移動し、ユーザやアプリケーションで必要になったときにだけ、そのデータをユーザに意識させずに戻すことで、ディスクの容量を節約します。

Storage Migrator は、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

## SUSPENDED (メディアの状態)

ボリュームが SUSPENDED (サスペンド状態) の場合、NetBackup はそのボリュームからリストアすることはできますが、バックアップに使用することはできません。NetBackup では、ボリューム内の最後のバックアップ イメージの期限が切れるまで、メディア ID のレコードを保存します。

## tar

リストア中に NetBackup がバックアップ イメージを抽出するために使用する Tape Archive プログラム。

## Target Service Agent (ターゲット サービス エージェント)

ターゲット サービス エージェントは、Novell NetWare のエージェントで、バックアップ中は SMS 用に、リストア中はターゲット用に、ターゲットのデータを用意します。

## TIR

「トウルー イメージ リストア (True Image Restore)」を参照。

## TL4 - Tape Library 4MM

Media Manager で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダー タイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート 製品リスト) で NetBackup BusinessServer または NetBackup DataCenter のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

## TL8 - Tape Library 8MM

Media Manager で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダー タイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート 製品リスト) で NetBackup BusinessServer または NetBackup DataCenter のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

## TLD - Tape Library DLT

Media Manager で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダー タイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート 製品リスト) で NetBackup BusinessServer または NetBackup DataCenter のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

## TLH - Tape Library Half-inch

Media Manager で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダー タイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート 製品リスト) で NetBackup BusinessServer または NetBackup DataCenter のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

このロボット タイプは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

## TLM - Tape Library Multimedia

Media Manager で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダー タイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート 製品リスト) で NetBackup BusinessServer または NetBackup DataCenter のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

このロボット タイプは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

## tpconfig

デバイスの設定に使用される **Media Manager** の管理ユーティリティで、コマンド ラインから開始されます。このユーティリティには、キャラクタ ベースのメニュー インタフェースが備わっており、UNIX 上では、X Windows 端末ではない端末から実行することができます。

## TS8 - Tape Stacker 8MM

**Media Manager** で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダー タイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート製品リスト) で **NetBackup BusinessServer** または **NetBackup DataCenter** のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

## TSA

「Target Service Agent (ターゲット サービス エージェント)」

## TSH - Tape Stacker Half-inch

**Media Manager** で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダー タイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート製品リスト) で **NetBackup BusinessServer** または **NetBackup DataCenter** のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

このロボット タイプは、**NetBackup DataCenter** でのみ使用することができます。

## vm.conf

**Media Manager** の設定ファイルで、ローカル デバイスと、バーコードの付いていないデフォルトのメディア ID のプレフィックスを管理するサーバのエントリを持ちます。

## vmadm

ボリューム管理のための **Media Manager** の管理ユーティリティ。このユーティリティは、UNIX 上で実行されます。キャラクタ ベースのメニュー インタフェースが備わっており、X Windows 端末ではない端末から実行することができます。

## wbak

Apollo クライアントがテープにデータを書き込むために使用するプログラム。

## Windows Display Console

Windows 2000、NT、98、および95のコンピュータで実行される **NetBackup-Java** インタフェース プログラム。ユーザまたは管理者は、ローカル システムでこのインタフェースを起動して、**NetBackup-Java** ソフトウェアがインストールされている UNIX システムにアクセスできます。その後は、各自の権限の範囲内でユーザや管理者の操作を実行できます。

## WORM メディア

1 度書き込むと、その後は読取り専用になるオプティカル ディスクのメディア。NetBackup BusinessServer では、WORM メディアは使用できません。

### xbp

NetBackup UNIX クライアント上のユーザが、バックアップ、アーカイブ、およびリストアを実行するための、X Windows ベースのプログラム。

### xbpadm

UNIX 用の X Windows ベースの NetBackup 管理インタフェース。このインタフェースは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

### xbpmon

UNIX でジョブの監視を行うための、X Windows ベースの NetBackup ユーティリティ。このユーティリティは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

### xdevadm

UNIX でデバイスの管理を行うための、X Windows ベースの Media Manager ユーティリティ。このインタフェースは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

### xvmadm

UNIX でメディアの管理を行うための、X Windows ベースの Media Manager ユーティリティ。このインタフェースは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

## アウト - ポート

「入力ポートと出力ポート」を参照。

## アーカイブ

特別な形式のバックアップの仕方。NetBackup の場合、選択したファイルをバックアップし、バックアップが完了すると、ファイルをローカル ディスクから削除することをいいます。このマニュアルでは特に記載がない限り、「バックアップ」はアーカイブ操作の一部であるバックアップ処理を指すこともあります。

## アーカイブ ビット

ファイルの書き込み時に Microsoft ベースのオペレーティング システムによって設定されるファイルのステータス ビットで、ファイルが変更されたことを示します。

## アクセス制御リスト (ACL)

ある種のファイルシステムにおいて、ファイルに関連付けられているセキュリティ情報のこと。

## アクティビティ モニタ

NetBackup のジョブ情報を表示し、最小限の管理機能を提供する、NetBackup の管理ユーティリティ。

## アクティビティ ログ

必要に応じて、特定の NetBackup のプログラムやプロセスに対して有効とすることができ、その結果障害解析に利用できるログの総称。

## アクティブ ジョブ

NetBackup でデータのバックアップまたはリストアを実行中のジョブ。

## 圧縮

データ圧縮処理のことで、この処理によりデータの転送と格納をより効率的に実行できます。

## 暗号化

クライアント上のバックアップ データを暗号化することにより、セキュリティ効果を高めます。この機能を使用するには、別ライセンス製品の NetBackup Encryption オプションが必要です。

## イメージ

NetBackup が、バックアップまたはアーカイブの実行中に、クライアントごとに保存するデータの集まり。イメージには、バックアップやアーカイブと関連付けられたすべてのファイル、ディレクトリ、およびカタログ情報が含まれます。

## イメージ複製

バックアップ イメージの複製コピー。

## 入力ポートと出力ポート

ロボット 内部にアクセスしなくてもテープの挿入や取り出しが行えるロボットのスロット、または領域です。テープを挿入した後は、**inject** コマンドを使用してスロットに移動します。テープを取り出す前には、**eject** コマンドを使用してそのポートに移動します。**inject** コマンドと **eject** コマンドは、**Media Manager** 管理インタフェースの追加 / 移動画面で実行できます。入力ポートと出力ポートは、メール スロット、あるいはイン - ポート、アウト - ポートと呼ばれることもあります。

## インクリメンタルバックアップ

「累積インクリメンタル バックアップ」および「差分インクリメンタル バックアップ」を参照。

## インクルード リスト

バックアップから除外するためにエクスクルード リストに追加したファイルやディレクトリを、バックアップするように指定するためのリスト。

## インポート

「入力ポートと出力ポート」を参照。

## インポート

NetBackup でイメージをリストアできるように、そのイメージの NetBackup レコードを再生する処理。

## エクスクルド リスト (exclude list)

自動バックアップから除外するファイルやディレクトリを指定するためのリスト。

## 階層ストレージ管理

選択したファイルを管理しているファイル システムからセカンダリ ストレージの指定したマイグレーション レベルに自動的にマイグレートする処理で、その間これらのファイルへの透過アクセスは保持されます。

## カタログ

NetBackup および Media Manager の内部データベース。これらのカタログには、設定、メディア、デバイス、ステータス、エラー、および格納したバックアップ イメージのファイルやディレクトリについての情報が格納されています。

## カーネル

オペレーティング システムの核。

## 管理クライアント

NetBackup サーバを管理するために管理インタフェース ソフトウェアがインストールされている、Windows NT/2000 の NetBackup クライアント。

## キーワード句

各バックアップのテキストによる説明文。

## キューに追加されたジョブ

実行するジョブ リストに追加されたジョブ。

## クライアント

バックアップ、アーカイブ、またはリストアを行うファイルが置かれているシステム。

## クライアント ユーザ インタフェース

ユーザがバックアップ、アーカイブ、およびリストアを実行するために使用するプログラム。



## クラス

類似するバックアップ条件を持つ、1つ以上のクライアントから成るグループのバックアップポリシーを定義するもの。

## クラスタ

「マスタ サーバとメディア サーバのクラスタ」を参照。

## クラスの属性

特定のクラスが関わる操作を実行中の NetBackup の動作を制御するための設定パラメータ。

## グラビティ スタッカ

次に必要なテープに切り替えるためにグラビティに依存するロボット。

## グローバル属性

すべてのクラスに影響する NetBackup の設定属性。

## 権限

ユーザ、システム、またはアプリケーションが実行する権限を持っているタスクや機能。

## 検証

実際にボリュームに存在するファイルのリストと、NetBackup がボリュームにあると記録したリストとを比較する処理。メディア上のデータは検証されません。

## コマンドライン

ユーザがコマンドラインやスクリプトから実行できるコマンド。

## サーバ側からの指示によるリストア

マスタサーバ上でクライアント インタフェースを使用して、ファイルを任意のクライアントにリストアすること。この操作は、管理者だけが実行できます。

## サーバに依存しないリストア

バックアップの書き込みに使用したサーバ以外の NetBackup サーバを使用して、ファイルをリストアすること。このオプションは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

## サーバ リスト

NetBackup サーバへの接続を確立したり検証する場合に、NetBackup クライアントやサーバが参照するサーバのリスト。Windows NT/2000 サーバと Microsoft Windows クライアントの場合は、このリストはインタフェース内のダイアログ ボックスで更新できます。UNIX サーバ、お

よび UNIX クライアントと Macintosh クライアントの場合は、このリストは `bp.conf` ファイルで指定されています。NetWare ターゲットや OS/2 クライアントの場合は、このリストは `bp.ini` ファイルで指定されています。

## サービス

Windows NT/2000 システム上のプログラムで、バックグラウンドでいくつかのタスクを実行します (たとえば、別のプログラムを必要に応じて開始するタスクなどがあります)。通常、UNIX システム上ではデーモンと呼ばれます。

## 差分インクリメンタルバックアップ

マスタ サーバ上の管理者がスケジュールするバックアップで、最後にインクリメンタルバックアップまたはフルバックアップが完了した後に変更されたファイルをバックアップします。一度もバックアップが実行されていない場合には、すべてのファイルをバックアップします (「累積インクリメンタルバックアップ」も参照してください)。

## システム管理者

インストールや設定を行うための特別な権限を付与されているユーザで、システムの操作、ネットワークやアプリケーションの管理を行います。

## 自動バックアップ

マスタ サーバでスケジュールされたバックアップ。

## 障害回復

ディスクの破損やその他の障害が発生した後に実行する、バックアップからのデータの回復のこと。

## 冗長フラグ

ログに上位レベルの詳細を書きこむファイル エントリの設定。

## ジョブ

コンピュータに送られた処理の一部。NetBackup のジョブには、バックアップ、アーカイブ、およびリストアがあります。

## ジョブの強制終了

ジョブを強制終了 (**kill**) し、ジョブのキューから削除すること。

## シンボリック リンク

UNIX システムの場合、ソース データのあるファイルの名前へのポインタのこと。

## スケジュール

バックアップを実行する時期を、バックアップのタイプ（フルかインクリメンタル）や NetBackup でバックアップ イメージを保持する期間などの情報と共に制御します。

## スタンドアロン

ドライブおよびメディアに使用される修飾語句で、それらがロボットと関連付けられていないことを表す。たとえば、スタンドアロン テープ ドライブとは、テープの選択後に、そのテープを手動でロードする必要があるテープドライブのことを指します。スタンドアロン ボリュームは、スタンドアロンドライブ内のボリュームか、ドライブ以外の場所に格納されているボリュームで、ボリュームの設定で「スタンドアロン」と指定されたものです。

## ステータス コード

数値コードで、通常は、操作の結果を表すメッセージが続きます。

## ストレージ ユニット

NetBackup や Storage Migrator のファイルが格納されるストレージユニット デバイス。ストレージ ユニットは、1 台のロボット内のドライブ一式や、同一ホストに接続されている 1 つまたは複数のテープドライブを指す場合もあります。

## スレーブ サーバ

「リモート メディア サーバ」を参照。

## セッション

実行時期になったバックアップがないかどうかをスケジュールで調べ、ある場合はそのバックアップをワーク リストに追加し、ワーク リストのすべてのジョブの完了を試みる NetBackup のインスタンス。ユーザが実行するバックアップとアーカイブの場合は、通常セッションには単一のバックアップかアーカイブが含まれます。

## 設定、構成

アプリケーションの動作を管理するパラメータ。この用語は、「ネットワークの構成」のように、ネットワークやシステムのレイアウトや接続方法に対しても使用されます。

## タイムアウト期間

イベントが発生するようにアプリケーションによって割り当てられた期間。

## ターゲット

「ターゲット サービス」を参照。

## ターゲット サービス

ストレージ管理を必要とする **Novell NetWare** のサービス。SMS では、すべてのサービス（出力サービス、通信サービス、ワークステーションなど）をターゲットとして表示します。

## ディスク

磁気メディアまたはオプティカル ディスク ストレージ メディアのこと。

## ディスク イメージ バックアップ

Windows NT 上のディスクドライブをファイル システムごとバックアップするのではなく、ビットごとにバックアップすること。

## ディレクトリ ツリー

ディスク上で編成されているファイルの階層構造。それぞれのディレクトリにはファイルやそのツリーの直下にあるディレクトリが列挙されています。UNIX では、最上位のディレクトリをルート ディレクトリと呼びます。

## ディレクトリの深さ

現在のディレクトリより下位の階層の数。NetBackup インタフェースの各ディレクトリと、ファイルリストに表示されます。

## データベース エクステンション クライアント

「データベースエージェント クライアント」を参照。

## データベースエージェント クライアント

リレーショナル データベースをバックアップするように設計された、オプションの NetBackup ソフトウェアがインストールされているクライアント。

## デバイスの遅延

ストレージ アプリケーションから制御できないデバイスにより生じた遅延のこと。たとえば、読み込みヘッドや書き込みヘッドの下にテープを配置するために必要な時間などがあります。

## デバイス ホスト

ドライブやロボティック コントロールが接続あるいは定義されている Media Manager ホスト。

## デバイス モニタ

Media Manager ストレージ デバイスの監視や手動による制御を行うことができる Media Manager 管理ユーティリティ。たとえば、システム管理者やコンピュータ室のオペレータは、このユーティリティを使用して手動でデバイスをリセットしたり、アップまたはダウン状態に設定することができます。

## デバッグ ログ

「アクティビティ ログ」を参照。

## テープ オーバーヘッド

データ中には必要であるけれども、バックアップ イメージの一部ではない領域のこと。たとえば、テープ内のテープ マークとカタログはオーバーヘッドとみなされます。

## テープ形式

テープにデータを書き込むためにアプリケーションが使用する形式。

## テープのスパン

1つのバックアップ イメージを格納するために複数のテープを使用すること。

## テープ マーク

テープ内のバックアップ イメージの間で記録されるマーク。

## デーモン

UNIX システム上のプログラムで、バックグラウンドでタスクを実行します（たとえば、別のプログラムを必要に応じて開始するタスクなどがあります）。Windows NT/2000 システムの場合、通常、サービスやプロセスと呼ばれます。

## 転送速度

ソースと転送先の間で、コンピュータの情報が転送される速度のこと。

## トゥルー イメージ リストア (True Image Restore)

あるディレクトリの内容を、スケジュールされた任意のフル バックアップまたはインクリメンタル バックアップが実行されたときの状態にリストアします。削除されたファイルは無視されます。

## ドライブ クリーニング

特別なクリーニング テープを使用してドライブのヘッドをクリーニングすること。

## パスの長さ

パス名の文字数。

## バックアップ

ファイルとディレクトリをコピーし、ストレージ メディアに保管する処理（例：バックアップが完了しました）。この用語は、バックアップやアーカイブ中に NetBackup がクライアントに保管するデータの集まりを示すこともあります（例：バックアップを複製する）。

また、「バックアップ」は、「バックアップする」というように動詞としても使用します  
(例: ファイルをバックアップする)。

### バックアップ、アーカイブ、およびリストア インタフェース

NetBackup の Microsoft Windows と Java ベースのクライアント ユーザ インタフェースの名前。サーバ上では、これらのインタフェースは NetBackup 管理インタフェースから起動することができます。

### バックアップ ウィンドウ

バックアップの開始が可能な時間帯。

### バックアップ処理

ファイルとフォルダをコピーし、ストレージメディアに保管する処理。

### パッチ

既に提供しているソフトウェアの問題を修正したり、機能を追加するためのプログラム。

### パーティション

磁気ディスクが分割される論理パーティション。

### ハード リンク

UNIX の場合は、ハード リンクはデータの i ノードへのポインタを示します。Windows NT/2000 の場合は、ハード リンクはファイルのディレクトリに対するエントリになります。すべてのファイルに、少なくとも 1 つのハード リンクがあります。NTFS ボリュームの場合は、各ファイルが複数のハード リンクを持ち、1 つのファイルを複数のディレクトリ (または別の名前を持つ同じディレクトリ) に表示することができます。

### ヒープ レベル

Novell NetWare または Windows NetBackup クライアント上でメモリ ヒープをデバッグするためのパラメータ。

### 非ロボティック

「Storage Migrator」を参照。

### 頻度 (バックアップ)

NetBackup がスケジュールされたバックアップを実行する頻度。たとえば、頻度が 7 日の場合、バックアップは毎週 1 回実行されます。

## 負荷

システムが実行する処理の量、またはネットワーク上のトラフィックのレベル。たとえば、「ネットワーク負荷はパフォーマンスに影響を与える」のように使われます。

## プライマリ コピー

リストアの要件を満たすために NetBackup が使用するイメージのコピー。NetBackup がイメージを複製すると、オリジナルのイメージがプライマリ コピーとして指定されます。

## フラグメント

バックアップまたはアーカイブ イメージの一部。NetBackup では、イメージが一定のサイズ以上になった場合や、複数のテープをまたがる場合に、イメージをフラグメントに分割するよう設定できます。

## フラッシュ レベル

Novell NetWare または Microsoft Windows のクライアント プラットフォーム上で、Netbackup がログ ファイルをクリアする頻度を制御します。

## フル バックアップ

指定したディレクトリより下にあるファイルとディレクトリをすべてストレージユニットにコピーするバックアップ。

## プロキシ リストア

プロキシ リストアを使用すると、ユーザは、あるファイルへの書き込み権限を持っている場合に、別のマシンからそのファイルをリストアすることができます。リストアするファイルは、リストアを実行するマシンでバックアップされている必要があります。

## プログレス レポート

ユーザのオペレーション中に発生したイベントを NetBackup が記録したログ。

## ブロック サイズ

バックアップ中にメディアに書き込まれる各データ ブロックのバイト数。

## 別クライアントへのリストア

別のクライアントからバックアップしたファイルを、作業を行っているクライアントにリストアします。管理者はマスタ サーバ上のインタフェースを使用して、どのクライアントに対してもリストアを実行することができます（この処理を「サーバ側からの指示によるリストア」といいます）。

## 別ターゲットへのリストア

NetBackup ターゲット バージョンのクライアント ソフトウェアを実行中の Novell NetWare サーバプラットフォームでこの処理を実行すると、バックアップを実行したターゲット以外のターゲットにファイルがリストアされます。

## 別パスへのリストア

バックアップを実行したディレクトリ以外のディレクトリにファイルをリストアします。

## ホスト

アプリケーションプログラムを実行するコンピュータ。

## ホスト名

ネットワーク内のプログラムや他のコンピュータがホスト コンピュータを識別するために使用する名前。

## ポート

コンピュータから出たり入ったりするデータを転送する際に使用する位置のこと。

## ボリューム

Media Manager ボリュームは、データ ストレージの論理ユニットで、Media Manager のボリューム データベースに記録されているメディア ID と、その他の属性が割り当てられているメディアをクリーニングする機能を持ちます。

## ボリューム グループ

Media Manager で、同一の物理ロケーション（たとえば、特定のロボットなど）に常駐するよう設定されたボリュームの集まり。

## ボリューム設定

Media Manager のボリューム データベースに格納される設定情報。

## ボリューム データベース

Media Manager がボリュームについての情報を保存する内部データベース。すべての Media Manager ホストが、1 つのボリューム データベースを持っています。ただし、そのホストがボリューム データベース ホストとして指定されない限り、データベースは空白になります。

## ボリューム データベース ホスト

Media Manager がデバイス内で使用するボリュームについての情報保存に指定された、Media Manager ホスト。NetBackup BusinessServer では、1 台のサーバしか使用できないため、常にボリューム データベース ホストが Media Manager ホストになります。



## ボリューム プール

単一のアプリケーションで使用され、他のアプリケーションやユーザからのアクセスを防ぐように **Media Manager** で設定されたボリュームの集まり。

## マウント

ボリュームを読み込みや書き込みが可能な状態にすること。

## マウント ポイント

ディスク上のファイル システムが論理的にシステムのディレクトリ構造に接続するポイントのことで、マウント ポイントを介してユーザとアプリケーションからそのファイル システムを利用することができます。

## マスタ オブ マスタ

**Global DataManager** ソフトウェアがインストールされている **NetBackup** ホスト。このホストにログインすると、インタフェースにツリー ビューが表示され、ここで管理者は複数のマスタサーバを表示したり、管理することができます。

## マスタ サーバ

**NetBackup** のサーバは、マスタサーバとメディアサーバのクラスタ内のすべてのクライアントとサーバにおけるバックアップやリストアの管理や制御を行います。**NetBackup BusinessServer** は、1 台のサーバ (マスタサーバ) のみをサポートします。

## マスタサーバとメディアサーバのクラスタ

1 台の **NetBackup** のマスタサーバと、追加ストレージとして使用する複数のリモート メディアサーバのことを指します。クラスタを設定するには、**NetBackup DataCenter** サーバが構成に含まれている必要があります。**NetBackup BusinessServer** は、1 台のサーバ (マスタサーバ) のみをサポートします。

## マニュアル ページ

UNIX のコンピュータ システムとアプリケーションが提供するオンライン マニュアル。

## 多重化

1 つ以上のクライアントから並行多重バックアップを単一のストレージデバイスに送り、それらのイメージをメディア上にインターリーブする処理。

## マルチプレックス グループ

単一の多重化セッションで、一度に多重化された一連のバックアップのこと。

## マルチホスト ドライブ

複数の NetBackup サーバと Storage Migrator サーバで、(スタンドアロンおよびロボティックライブラリ内の) テープドライブを動的に共有させる VERITAS の別ライセンスのオプション (Shared Storage Option または SSO) です。

このオプションは、NetBackup DataCenter サーバでのみ使用することができます。

## メディア

データが格納される、物理的な磁気テープ、オプティカル ディスク、または磁気ディスク。

## メディア ID

記録されたラベルの一部としてボリュームに書き込まれる識別子。

## メディア サーバ

マスタ サーバとメディア サーバのクラスタ内で、ストレージを提供する NetBackup サーバ。マスタ サーバをメディア サーバとして使用することもできます。マスタ サーバ以外のメディア サーバは、リモート メディア サーバ (またはスレーブ サーバ) とも呼びます。NetBackup BusinessServer では、リモート メディア サーバを使用することはできません。

## メディア ホスト

(クライアントの) ジョブがデータを送信する NetBackup サーバ。

## メニュー インタフェース

キャラクタ ベースのインタフェースで、グラフィカル機能のない端末から使用することができます。

## メール スロット

「入力ポートと出力ポート」を参照。

## 有効期限 (イメージ)

NetBackup がバックアップ イメージのトラッキングを停止する日時。

## 有効期限 (ボリューム)

物理メディア (テープ) の使用期限が切れる日時。

## ユーザ操作

クライアント システムからユーザが開始したバックアップ、アーカイブ、またはリストア処理を示します。

## 呼び起こし間隔

実行時期になったバックアップがないかどうかを NetBackup が調べる間隔。

## ライブラリ

ロボットとその付属ソフトウェア。ライブラリには、データのストレージと検索に使用する、テープとオプティカル プラタの集まりが含まれます。たとえば、**Tape Library DLT (TLD)** は、**TLD** ロボティック コントロールのあるロボットを指します。

## ラベル

磁気ディスクまたはオプティカル ディスクのボリュームの識別子。記録されたラベルには、メディア ID が含まれます。

バーコード ラベルによって、バーコード スキャナはメディアをトラッキングすることができます。

## リストア

過去に実行したバックアップから、選択したファイルとディレクトリをリストアし、元のディレクトリ（または別のディレクトリ）に戻す処理を指します。

## リストアする

過去に実行したバックアップやアーカイブから、選択したファイルとディレクトリをリストアし、元のディレクトリ（または別のディレクトリ）に戻す操作のことを指します。

## リソース

ターゲット上のデータセットを示す **Novell NetWare** 用語。たとえば、**DOS** の場合、リソースはドライブ、ディレクトリ、およびファイルになります。「ターゲット サービス」も参照。

## リテンション ピリオド

**NetBackup** がバックアップ イメージとアーカイブ イメージを保持する期間。リテンション ピリオドはスケジュールで指定します。

## リテンション レベル

ユーザが定義したリテンション ピリオドを表すインデックス番号で、0 から 9 までの 10 レベルから選択できます。それぞれのレベルと関連付けられたリテンション ピリオドの設定は変更可能です。「ワイルドカード文字」も参照。

## リモート メディア サーバ

マスタ サーバ以外のメディア サーバ。リモート メディア サーバは、**NetBackup DataCenter** でのみ使用することができます。**NetBackup BusinessServer** では、1 台のサーバ（マスタサーバ）のみをサポートします。

## リンク

「ハード リンク」または「シンボリック リンク」を参照。

## 累積インクリメンタルバックアップ

マスタサーバ上でシステム管理者がスケジュールするバックアップで、最後にフルバックアップが完了した後に変更されたファイルをすべてバックアップします。一度もバックアップが実行されていない場合には、すべてのファイルをバックアップします（「差分インクリメンタルバックアップ」も参照してください）。

## ルート (root)

階層型ディレクトリ構造における最上位段階のディレクトリのこと。MS-DOSでは、ドライブ上のルートディレクトリは円記号 (¥) で示されます（たとえば、ドライブ C のルートは C:¥ になります）。UNIXでは、ルートディレクトリはスラッシュ (/) で示されます。

また、UNIXにおける管理機能を持つユーザのユーザ名としても使用されます（この場合は **root** と記述します）。

## レジストリ

ハードウェアとユーザアカウントに関する設定情報が格納されている Microsoft Windows 2000、NT、98、および 95 のデータベース。

## レジデンス

Media Manager では、各ボリュームの位置情報はボリュームデータベースに保存されます。レジデンスエントリには、ロボット番号、ロボットホスト、ロボットタイプおよびメディアタイプなどの情報が含まれます。

## ログ

コンピュータやアプリケーションがそのアクティビティについての情報を記録するファイル。

## ロードする

内部メモリにデータをコピーすること。たとえば、「インストレーションプログラムをロードする」のように使用します。

## ワイルドカード文字

検索時に任意の文字を表すために使用する文字。

## 索引

---

- A**
- AFS のバックアップ、jbp でのリストア 154
  - altnames ファイル 123
  - Auspex FastBackup
    - bp のリストア 139
    - xbp のリストア 104
- B**
- bp
    - [Backup sql-BackTrack DB] バックアップ オプション 130
    - SQL-BackTrack DB のリストア オプション 134
    - 起動 46
    - 基本的なリストア手順 51
    - バックアップ / アーカイブ手順 46
    - プログレス ログ 65
    - 別のクライアントへのリストア 63
    - リンクの解決 65
  - bp.conf コマンド
    - CLIENT\_NAME オプション 123
    - ブラウザの初期値 113
    - メールの通知 93
  - bp.conf ファイル
    - 定義 161
  - bplist コマンド 93
  - Brief (簡略) 表示
    - [Backup of Files and Directories] メニュー 131
    - [Backup of Files and Directories] メニューでの切り替え 132
    - [Restore Backups] メニュー 136
    - [Restore Backups] メニューでの切り替え 137
- C**
- CDE (Common Desktop Environment)
    - NetBackup-Java のための設定 12
  - CDF ディレクトリ 6
- D**
- DISPLAY、setenv 変数 68
  - DLT の定義 162
- F**
- FastBackup
    - Auspex FastBackup を参照 139
- H**
- HP (Hewlett Packard)、CDF ディレクトリのリストア 6
  - HSM 163
- I**
- install\_path 163
- J**
- Java インタフェース (jbp) 9
- M**
- Media Manager ホスト
    - 定義 164
- N**
- NetBackup Client Service
    - 定義 164
  - NetBackup Database Manager Service
    - 定義 164
  - NetBackup Device Manager Service
    - 定義 165
  - NetBackup Request Manager Service
    - 定義 165
  - NetBackup Volume Manager Service
    - 定義 165
  - NetBackup セッション 175

NetBackup 設定オプション  
 定義 165  
 NetWare Loadable Module 165  
 NFS マウント ファイル 7  
 NLM (「NetWare Loadable Module」を参照)

## R

raw パーティション  
 bp のリストア  
 上書きオプション 58  
 デバイス ファイル 51  
 マウントされているディレクトリ 51  
 jbp のリストア  
 上書きオプション 156  
 手順 157  
 デバイス ファイル 156  
 マウントされているディレクトリ 156  
 xbp のリストア  
 デバイス ファイル 74  
 バックアップのブラウズ (Auspex FastBackup raw パーティション) 104  
 バックアップのブラウズ (raw パーティションのリストア) 104  
 マウントされているディレクトリ 74  
 リストア、上書きオプション 6  
 raw パーティションのバックアップ  
 定義 166  
 [Restore Auspex FastBackup Raw Partition Backups] メニュー 139

## S

[Search] 画面  
 bp  
 オプション 143  
 バックアップまたはアーカイブ 141  
 リストア 142  
 setenv コマンド 68  
 SMS (「Storage Management Service」を参照)  
 Storage Management Service 167  
 Storage Migrator 167

## T

tpconfig の定義 169

## V

Verbose (詳細) 表示  
 [Backup of Files and Directories] メニュー 131  
 [Backup of Files and Directories] メニューでの切り替え 132  
 [Restore Backups] メニュー 136  
 [Restore Backups] メニューでの切り替え 137  
 vm.conf ファイル  
 定義 169  
 vmadm の定義 169

## W

WORM メディア  
 定義 170

## X

xbp  
 起動 68  
 基本的なリストア手順 74  
 ツール イメージのリストア手順 89  
 バックアップ/アーカイブ手順 69  
 プログレス ログ 91  
 別のクライアントへのリストア手順 84  
 xbp で使用される特殊記号 100  
 xbp でのステータス コード 93  
 XKeysymDB 101  
 X リソースの Mwm\*keyboardFocusPolicy 12

## あ

アーカイブ  
 bp  
 [Archive of Files and Directories] 132  
 [Search] 画面 141  
 開始 132  
 選択されたファイル/ディレクトリ 132  
 手順 46  
 プログレス ログ 65  
 リストア 138  
 jbp  
 手順 21  
 リストア 25  
 xbp  
 bplist 93  
 一覧表示 82

- 検索ディレクトリ 108
- 最新のバックアップのブラウズ 107
- 進行状況のレポート オプション 109
- スケジュール タイプ 117
- すべてのバックアップのブラウズ 106
- [ 選択したファイルとディレクトリのアーカイブ ] オプション 108
- 手順 69
- プログレス ログ 91
- メディア ID 間での分割 93
- リストアのためのブラウズ 104
- シンボリックリンク 6
- 定義 170
- 必要な UNIX の書き込みアクセス権 7
- アーカイブ ビット
  - 定義 170
- アクセス権
  - UNIX のファイル アクセス権 7
  - xbp
    - 既存のファイルの上書き 82
    - リストア先のクライアント 123
    - [ リストアするクライアントの参照 ] 123
  - 他のクライアントのバックアップをブラウズする 3
  - ユーザ指定のリストア 148
  - リストアのための bp のファイル アクセス権 51
- い
  - インクルード リスト 5
  - インタフェース
    - java 9
    - グラフィカル 3
      - 説明 100
      - 使い方 67
    - コマンド ライン 3
    - メニュー 2
      - 説明 128
      - 使い方 45
- う
  - ウィンドウ, ユーザ指定の操作 4
  - 上書き
    - bp
      - raw パーティションのリストア 58
      - トゥルー イメージのリストア 62
      - プロンプト 136
      - リストア手順 56
- CDF 6
- jbp
  - raw パーティションのリストア 156
- raw パーティションのリストア 6
- xbp
  - [ 既存のファイルを上書き ] チェックボックス 126
  - 手順 81
- XKeysymDB 101
- ディスクパーティション 81
- え
  - エージェント、定義 1
- か
  - 書き込みアクセス権、xbp での表示 97
  - 管理者
    - 管理者への確認事項 6
    - サーバ指定のリストア 138
    - 指定のリストア 5
    - 除外リストとインクルードリスト 5
    - スケジュールされたバックアップ 142
  - 設定
    - クラス名 117
    - 自動バックアップ 4
    - ソース クライアント 137
    - バックアップとアーカイブのウィンドウ 4
    - ブラウズの許可 123
    - ブラウズの初期値 113
    - リストア先のクライアント 136、137
    - 他のクライアントをブラウズするためのアクセス権 3
- き
  - キーワード フレーズ
    - bp
      - [Backup of Files and Directories] メニュー 131
      - [Restore Backups] メニュー 136
      - [Restore Files and Directories] メニュー 138

- バックアップ手順 49
- リストア手順 53
- jbp**
  - バックアップとの対応付け 20
  - リストア時の使用 25
- xbp**
  - バックアップ手順 73
  - バックアップとの対応付け 115
  - リストア手順 79
- ＜
- クライアント
  - bp**
    - [Change Destination Client] 137
    - ソース クライアント 136
    - ソース クライアントの変更 137
    - 別のクライアントへのリストア 63
    - リストア先のクライアント 136
  - jbp**、別のクライアントへのリストア 148
  - xbp**
    - 別のクライアントへのリストア 84
    - リストア先のクライアント 123
    - リストアのためにブラウズするクライアント 123
  - 定義 1
  - 別のクライアント 5
  - クライアント, NetBackup
    - 定義 172
    - クライアント ユーザ インタフェース 172
    - グラフィカル ユーザ インタフェース
      - 説明 100
      - 使い方 67
- け
  - 検索ディレクトリ、xbp 110
- こ
  - コマンド
    - bp 2、46、128
    - bp.conf 93、113、123
    - setenv 68
- さ
  - サーバ側からの指示によるリストア
    - 定義 173
  - サーバ指定のリストア 5、148
  - 削除
    - bp
      - ファイル/ディレクトリのアーカイブ 132
      - プログレス ログ ファイル 65
    - jbp**
      - 削除されたファイルのリストア 25
      - ファイル/ディレクトリのアーカイブ 21
    - xbp**
      - 削除されたファイルのリストア 83
      - ファイル/ディレクトリのアーカイブ 73
      - プログレス ログ ファイル 4
- し
  - 自動更新、xbp 92
  - 自動バックアップ 4
  - ショートカット キー 100
  - 除外リスト 5
- す
  - スケジュール
    - タイプ 117
  - スケジュールされたバックアップ
    - インクルード リスト 5
    - 管理者のスケジュールされたバックアップ 142
  - 自動バックアップ 6
  - 除外リスト 5
  - スタンドアロン
    - 定義 167
  - ストレージユニット
    - 定義 175
- せ
  - 正式な文字 112
  - 選択項目、画面
    - 表示/削除 145
    - 編集/表示 144
- た
  - ターゲット サービス 176
  - タイムゾーン、jbp での調整 13
- て
  - ディスク イメージのバックアップ
    - jbp のリストア 157
  - ディスク イメージ バックアップ



- 定義 176
- ディスク パーティション 6
  - bp 58
  - jbp 156
  - xbp 81
- ディスプレイの更新
  - [Edit] メニュー 105
  - リストア手順 78
- ディレクトリ
  - bp
    - [Change Directory Depth] オプション 137
    - [Change Path] オプション 131、137
    - 検索 54
    - ディレクトリのレベル数 136
    - トゥルー イメージのバックアップのリストア 61
    - パス フィールド 48、54
    - バックアップするための選択 49、50
    - リストアするための選択 56
    - リンクの解決 60
  - CDF 6
  - jbp
    - トゥルー イメージのバックアップのリストア 39
    - リンクの解決 41
  - UNIX のアクセス権 7
  - xbp
    - [xbp\_altpath] ダイアログ ボックス 124
    - インデントしたツリー構造 106
    - 旧バージョンのリストア 87
    - 検索 78
    - [ 検索するディレクトリ ] ボックス 111
    - 構造の表示 96
    - 最新バージョンのリストア 83
    - 削除 73
    - 選択解除 80
    - 選択内容の破棄 105
    - [ ディレクトリ構造 ] 表示区画 120
    - [ ディレクトリ構造 ] 表示区画で選択されている項目のアーカイブ 108
    - [ ディレクトリ構造 ] 表示区画で選択されている項目のバックアップ 108
    - [ ディレクトリ構造 ] 表示区画で選択されている項目のリストア 110
    - ディレクトリ ツリー内の移動 94
    - [ ディレクトリの深さ ] ボックス 118
    - ディレクトリのレベル数 95、96
    - トゥルー イメージのバックアップのリストア 88
    - 内容の表示 94
    - バックアップするための選択 72
    - 表示内容の更新 105
    - 別のパス 85
    - 別のパスの指定 109
    - リストアするための選択 76
    - リンクの解決 91、107
    - ログが記録されるプロGRESS ログファイル 73、81
    - シンボリックリンク 6
- データベース
  - スクリプト 103、110
  - データベースのバックアップ 108
  - データベースのリストア 110
  - バックアップ メニュー 133
  - リストア メニュー 140
- と
  - トゥルー イメージのリストア
    - bp
      - [View/Delete Selections] 画面 145
      - 手順 61
      - メニュー 140
    - jbp 39
    - xbp
      - 手順 89
      - バックアップのブラウザ 103
  - トゥルー イメージ リストア
    - 定義 177
- は
  - パス
    - bp
      - [Change Path] オプション 137
      - [Search] 画面の現在のパス 141
      - [Specify Alternate Path] 137

- バックアップ開始後の変更 51、59
  - バックアップのための切り替え 48
  - 別のパスへのリストアの取消し 59
  - 別のリストア 57
  - リストアのための変更 54
  - リンクの解決 60、65
  - jbp、リンクの解決 23
  - xbp
    - [xbp\_altpath] ダイアログ ボックス 124
    - [ 検索するディレクトリ ] ボックス 111
    - 検索パスのリンク 107
    - [ 代替パスへリストア ] チェックボックス 126
    - ディレクトリ ツリー内の移動 94
    - 別のパス 86
    - 別のパスの指定 109
    - リンク 78
  - 最大長 6
  - パスの最大長 6
  - パス名
    - xbp、フルパス名 106
    - 正式な文字 112
    - リンクされているファイルのリストア 85
  - バックアップ
    - bp
      - Backup Menu 129
      - [Search] 画面 141
      - オプション 128
      - 検索オプション 141
      - データベースのバックアップメニュー 133
      - 手順 46
      - プログレス ログ 65
    - jbp、手順 19
    - xbp
      - bplist コマンド 94
      - 一覧表示 82
      - イメージ ペイン 116
      - キーワード フレーズ 115
      - 検索ディレクトリ 108
      - 最新 107
      - 進行状況のレポート 108
  - スケジュール タイプ 117
  - すべてのバックアップの表示 106
  - 選択されたファイル / ディレクトリ 108
  - ディレクトリの選択 96
  - データベース スクリプト 108
  - 手順 69
  - バックアップ メニュー 107
  - 日付によるフィルタ処理 95
  - 表示 96
  - プログレス ログ 91
  - メディア ID 93
  - メディア ID 間での分割 93
  - シンボリックリンク 6
  - スケジュールされた 4
  - 定義 177、178
  - 他のクライアントのブラウザ 3
  - リストアするためのブラウザ 103
    - Auspex Fastbackup 104
    - raw パーティション 104
    - トウルレー イメージのバックアップ 103
  - バックアップ イメージの定義 171
  - バックアップ ウィンドウ 4
    - 定義 178
  - バックアップとアーカイブの一覧
    - bplist 93
  - バックアップとアーカイブの一覧表示
    - bp の手順 53
    - UNIX のアクセス権 7
    - xbp の手順 82
- ひ
- 日付
    - bp
      - 開始日、バックアップ 130
      - 開始日、リストア 135
      - 終了日、バックアップ 131
      - 終了日、リストア 135
      - 日付の範囲の変更、バックアップ 131
      - 日付の範囲の変更、リストア 137
    - jbp、リストアする日付の指定 31、86
    - xbp
      - バックアップが行われた日付 117

バックアップの期限が切れる日付 117  
 日付によるフィルタ処理 95  
 日付の範囲 113  
 [日付の範囲] ボックス 113  
 表示内容のリフレッシュ  
 xbp 97  
 [Edit] メニューの [Update Display] 105  
 多数のバックアップがある場合 78  
 表示モード  
 bp  
 [Backup of Files and Directories] メニュー 131  
 切り替え 132  
 リストア メニュー 136  
 bp のリストア メニューでの切り替え 137  
 フォント サイズ 101  
 非ロボティックの定義 178  
 頻度 (バックアップ)  
 定義 178

ふ

ファイルアクセス権 7  
 ファイル名のフィルタ  
 jbp 17、20  
 xbp 95、119  
 手順 79  
 説明 119  
 ファイルリスト  
 bp 141  
 除外リストとインクルード リスト 5  
 フォント、xbp での変更 100  
 ブラウズ  
 bp のメニュー オプション 49  
 [Search] 画面 141  
 xbp の [ファイル] メニュー 103  
 イメージのクラス タイプ 123  
 キーワード フレーズ 115  
 検索対象のディレクトリ 111  
 ソース クライアント 123、136、137  
 ディレクトリ構造 120  
 ディレクトリのレベル数 118  
 バックアップ イメージ 116  
 日付の範囲 113

ファイル 120  
 ファイル名のフィルタ 119  
 モード 114  
 ユーザ インタフェース 3  
 プログレス ログ  
 jbp 29  
 xbp  
 [xbp\_progress] ダイアログ ボックス 92、127  
 削除 93  
 作成 126  
 読み方 93  
 確認 65

へ

別クライアントへのリストア  
 定義 179  
 別ターゲットへのリストア  
 定義 180  
 別のクライアントへのリストア 5  
 bp の手順 63  
 jbp の手順 148  
 Novell NetWare クライアント 84  
 xbp の手順 84  
 サーバ指定 5  
 別のパスへのリストア  
 bp  
 指定 137  
 手順 57  
 パスに含まれるリンク 60  
 jbp、手順 35  
 Novell NetWare 63  
 xbp 126  
 指定 109  
 手順 85  
 別パスへのリストア  
 定義 180  
 ヘルプ、オンライン  
 bp の [Help] オプション 128  
 xbp 67  
 xbp の [ヘルプ] メニュー 110  
 リソース X の指定 101

ほ

ボリューム グループ  
 定義 180

- ボリューム データベースの定義 180  
 ボリューム データベース ホスト  
   定義 180  
 ボリューム プール  
   定義 181
- ま**
- マウント ポイント 27、82、126  
 マウント ポイントのクロス  
   リストア 27、82、126  
 マスタ サーバ  
   altnames 123  
   bp  
     Backup Menu 129  
     [Backup of Files and Directories] メ  
     ニュー 131  
     [Restore Backups] メニュー 136  
     バックアップのための切り替え 47、  
     130、132  
     表示される名前 46  
     メイン メニュー 128  
     リストアのための切り替え 52、  
     135、137  
     リストア メニュー 134  
   jbp  
     バックアップのための切り替え 19  
     リストアのための切り替え 24  
   Novell NetWare クライアント 57、63  
   xbp  
     [cbp\_config] ダイアログ ボック  
     ス 123  
     現在の 71  
     設定 104  
     バックアップのための切り替え 70  
     リストアのための切り替え 74、76  
     指定のリストア 5  
     除外リスト、インクルード リスト 5
- め**
- メールの通知 4、7、93  
 メディア サーバ  
   定義 182  
 メディア ID 93  
   jbp での一覧表示 159  
 メディア ID の表示 93  
 メディア ホストの定義 182
- メニュー  
 bp  
 Auspex FastBackup の raw パーティ  
 ションのリストア 139  
 Backup 129  
 raw パーティションのバックアップ  
 のリストア 139  
 アーカイブのリストア 138  
 データベースのバックアップ 133  
 データベースのリストア 140  
 トゥルネ イメージのバックアップの  
 リストア 140  
 ファイル/ディレクトリのアーカイ  
 ブ 132  
 メイン 128  
 リストア 134  
 xbp  
 バックアップ 107  
 表示 106  
 ファイル 103  
 ヘルプ 110  
 編集 105  
 リストア 109  
 メニュー インタフェース 2  
 説明 128  
 使い方 45
- ゆ**
- ユーザ指定の操作 2
- ら**
- ライブラリの定義 183
- り**
- リストア  
 bp  
 [Restore Archives] メニュー 138  
 [Restore Raw Partition Backups] メ  
 ニュー 139  
 [Restore True Image Backups] メ  
 ニュー 140  
 オプション 128  
 データベースのリストア メ  
 ニュー 140  
 手順 51  
 トゥルネ イメージ 61  
 リストアの検索オプション 142

- リストア メニュー 134
- CDF ディレクトリ 6
- jbp
  - AFS のバックアップ 154
  - raw パーティション 157
  - アーカイブ 25
  - 検索オプション 30
  - トゥルー イメージ 39
  - 特定の日付範囲 31
  - 別のクライアント 148
  - 別のパス 35
  - リンクの解決 23
- xbp
  - Auspex FastBackup 104
  - raw パーティション 74、104
  - アーカイブのブラウズ 104
  - 削除されたファイル 83
  - 進行状況のレポート 110
  - 選択されているファイル/ディレク  
トリ 109
  - 手順 74
  - トゥルー イメージ 88
  - トゥルー イメージのバックアップの  
ブラウズ 103
  - 特定の日付範囲 86
  - バックアップのブラウズ 103
  - プログレス ログ 91
  - 別のクライアント 124
  - [マウントポイントをクロスせずに  
ディレクトリをリストア] 126
  - モード 114
  - [リストア先のクライアント] 123
  - リストアするクライアントの参  
照 123
  - リストア メニュー 109
  - リンクの解決 78
  - [代替パスへリストア] 126
- サーバ指定 148
  - 定義 183
  - 別のクライアントへのサーバ指定 5
- リソース X、変更 101
- リソース (「ターゲット サービス」も参  
照) 183
- リテンションピリオド 6
  - 定義 183
- リモート メディア サーバ
  - 定義 183
- リンクされたファイル
  - bp でのリンクの解決 65
  - jbp でのリンクの解決 41
  - xbp でのリンクの解決 91
- リンクの解決
  - bp 65
  - jbp 41
    - ワイルドカード文字 81
  - xbp 91
    - 検索ディレクトリのリンクの解  
決 107
    - 検索ディレクトリのリンクを解決し  
ない 107
    - ワイルドカード文字 91
- リンク、パス名の変更 38
- る
- ルート (root) 184
- わ
- ワイルドカード文字
  - bp の [Change Path] オプション 137
  - jbp
    - ファイルのフィルタ処理 17
    - リンク内 41
  - xbp
    - 検索 111
    - リンク 91

